



松本市第12次基本計画策定に係る 市民意識調査 報告書

令和7年3月

目次		ページ
第1章	調査概要	3
	1. 調査の目的	3
	2. 調査実施概要	3
	3. 調査結果を見る際の留意点	4
	4. 回答者属性	5
第2章	調査結果	8
	1. 第11次基本計画の7分野・47施策の現状評価に対する分析	8
	2. 重点戦略(ゼロカーボン・DX)に関する分析	19
	3. 市民の日常生活における行動・活動の分析	20
	4. 幸福度・暮らしの満足度・暮らしの状況等の分析	28
	5. 定住意向や転入の経緯に関する分析	34
	6. 高校生世代の卒業後の進路や地元就職意向等の分析	39
	7. 町会への加入状況や町会で行う必要があると思う活動	48
第3章	8. 松本市や地域の情報入手方法等の状況	50
	まとめ	53
	1. 7分野・47施策の平均得点に関して特筆すべき事項等	53
	2. 市民の日常生活における行動・活動の傾向	60
	3. 幸福度・暮らしの満足度の分析	61
	4. 定住意向や高校生世代の地元就職意向の傾向	63
	5. 効果的な情報発信	64
	6. 町会加入状況	64

第1章 調査概要

1. 調査の目的

本調査は、第12次基本計画の策定に向けて、更なる市民生活の向上とより魅力あふれる都市を目指し、第11次基本計画で掲げた重点戦略や47施策の進捗状況の把握、暮らしの満足度や定住意向などから本市の強み、課題の収集を目的に実施した。

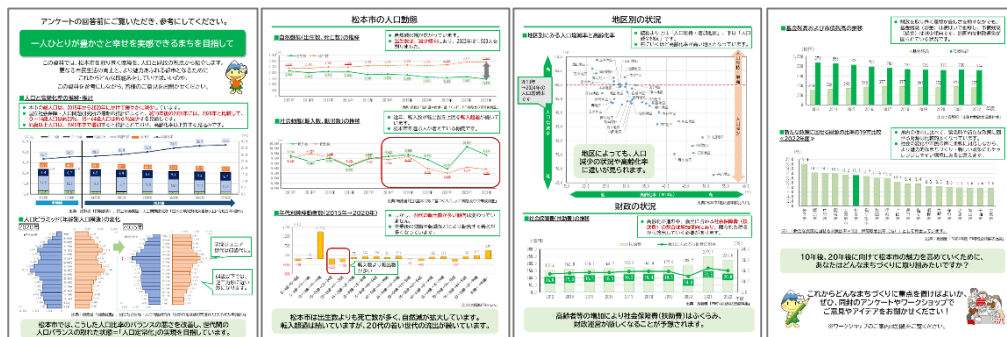
※第11次基本計画の開始年次（令和3年度）に同様の調査を実施しており、一部項目において経年比較を行っている。

2. 調査実施概要

調査は、「18歳以上の市民」と「高校生世代（15～18歳）」を対象に実施した。それぞれの結果に **18歳以上** **高校生世代** と記載している。

郵送で調査票等を配布し、回答は「紙の調査票」又は「インターネット」を選択可能とした。なお、アンケートにあたり、市の人口動向や財政状況についてまとめた「情報提供資料」を同封し、松本市の現状や将来予測を踏まえたうえでの回答を依頼した。

配布した情報提供資料



	18歳以上市民アンケート	高校生世代アンケート
調査対象者	満18歳以上の市民	平成18年4月2日～平成21年4月1日生まれの市民
配布数	2,400件	300件
抽出方法	住民基本台帳の各対象年齢層から無作為抽出	
調査方法	郵送調査	
回答方法	郵送による紙の調査票の返送とインターネット回答を選択可能とした。「紙の調査票」と「インターネット」での重複回答を防ぐため、調査票にインターネット回答用番号の記載を行った。	
調査期間	令和6年11月1日～12月11日	
回答数	1,073件 郵送：685件 インターネット回答：388件	93件 郵送：39件 インターネット回答：54件
回答率	44.7%	31.0%
主な調査項目	・属性 ・幸福度、暮らしの満足度、定住意向 ・暮らしている地域の状況やご自身の状況 ・転入の経緯 ・重点戦略・47施策の評価 ・日常生活や地域活動への参加状況 ・松本市や地域の情報の入手方法	・属性 ・幸福度、暮らしの満足度、定住意向 ・暮らしている地域の状況やご自身の状況 ・地元就職意向 ・松本市や地域の情報の入手方法

3. 調査結果を見る際の留意点

- 報告書のパーセント数字は小数点第2位を四捨五入しているため、合計が100%にならない場合や文中に示す数値とグラフの数値が一致しない場合がある。
- 図表内のnは該当する設問の回答者数を表す。無回答を除いて集計しているため、設問ごとに回答者数が異なる。
- 1人の回答者が2つ以上の回答をすることができる複数回答の設問では、回答数の合計を回答者数（n）で割った比率を示しており、比率の合計は100%を超える。
- 7分野・47施策の評価では、「そう思う・ややそう思う・あまりそう思わない・そう思わない」の4段階評価の他、「わからない」を選択肢に含めた。「わからない」を無回答とは区別し、「回答保留」として集計・分析を行った。

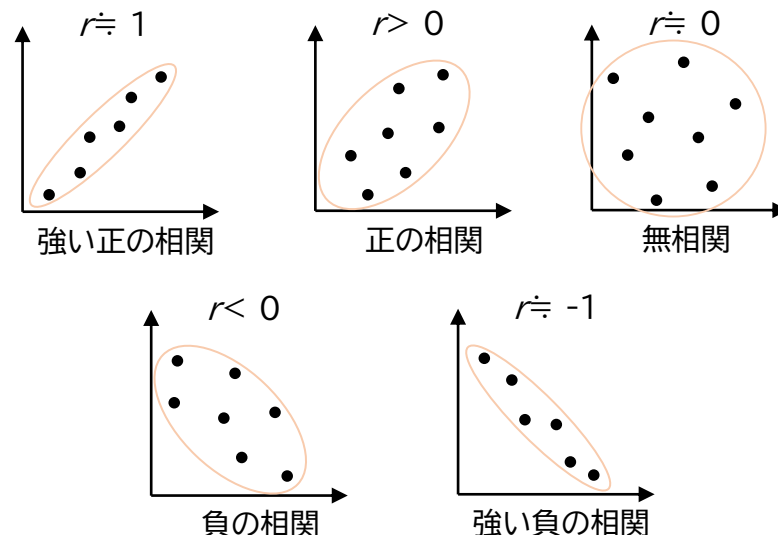
- 項目間の比較等を容易にするため、得点化を行っている。1～4点で得点化した場合、中央値は2.50点となり、平均点の高低を判断する際の基準値とする。平均点が中央値より高い場合は肯定的な評価者が多く、中央値以下の場合是否定的な評価者が多いとみることができる。
- 47施策や市民の日常生活における行動・活動の項目では、性別や年代などによる統計的な差を確認するため、検定を行っている。5%水準で有意な（意味のある）差があると推測される場合、「★」を付けている。
- 2つの変数の関連性を把握するため、相関分析を行っている。相関関係の程度を示す数値が相関係数（ r ）である。相関係数とは「類似度」の強さを「-1から1」までの範囲を取る数字として表現したものである。なお、相関は因果を示すものではない。

相関係数の読み方

相関係数	相関の強さ
$0.7 \leq r < 1.0$	強い正の相関
$0.4 \leq r < 0.7$	正の相関
$0.2 \leq r < 0.4$	弱い正の相関
$-0.2 \leq r < 0.2$	ほとんど相関がない
$-0.4 \leq r < -0.2$	弱い負の相関
$-0.7 \leq r < -0.4$	負の相関
$-1.0 \leq r < -0.7$	強い負の相関

Xが大きいとき、
Yも大きい傾向がある。

Xが大きいとき、
Yは小さい傾向がある。

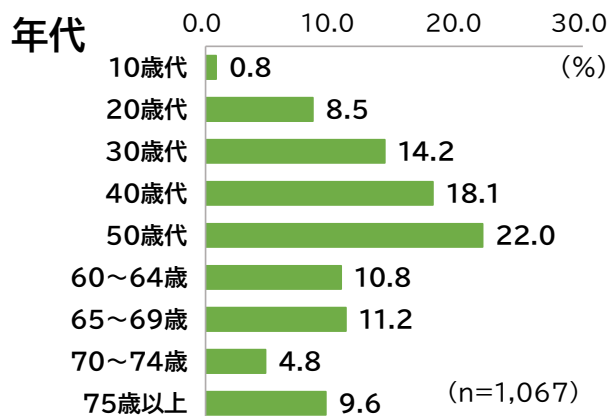


4. 回答者属性

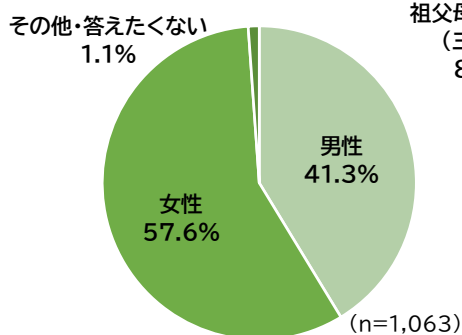
- 18歳以上のアンケート回答者の年代をみると、65歳以上の割合は25.6%である。性別は男性が41.3%、女性が57.6%であり、女性の比率が高い。
- 世帯構成は、親と子（二世帯）世帯が54.6%と半数を占める。次いで夫婦のみ世帯が24.6%、ひとり暮らしが10.4%など、回答者の多くが核家族や単身世帯である。
- 居住地区は、鎌田地区が最も多く、次いで波田地区、梓川地区と続く。
- 居住形態は、持ち家（一戸建て）の割合が最も高く73.9%である。
- 松本市の居住年数をみると、21年以上が65.9%、次いで11～20年以内が17.6%となっている。

(1) 年代・性別・世帯構成

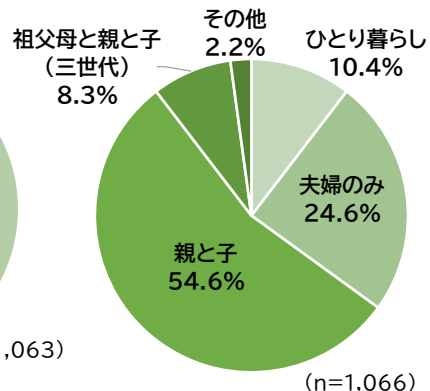
18歳以上



性別



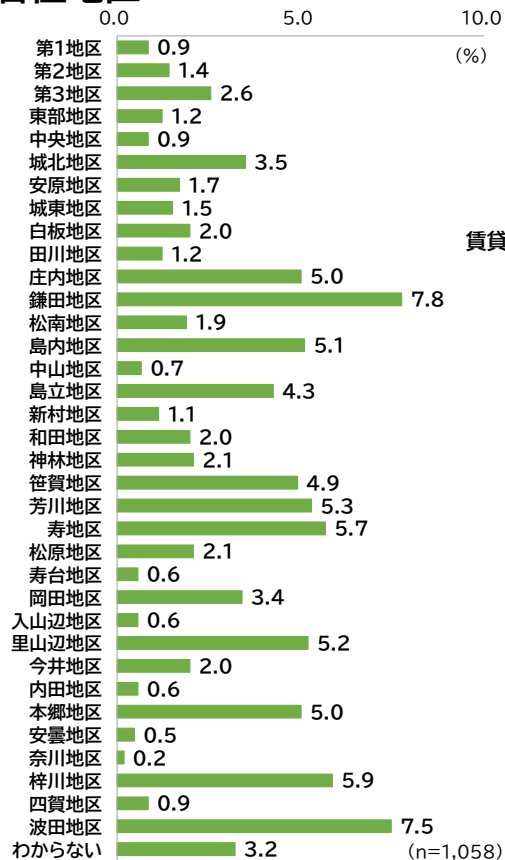
世帯構成



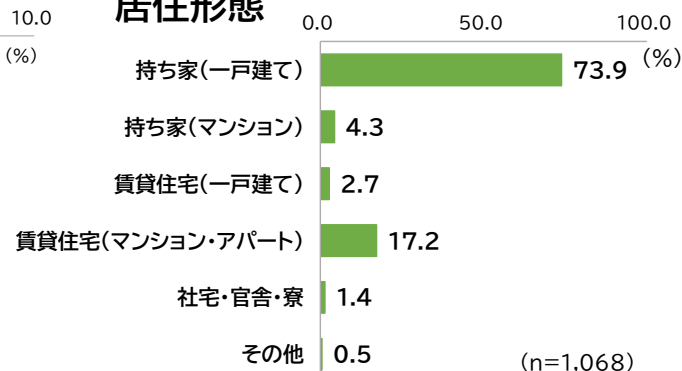
(2) 居住地区・居住形態・居住年数

18歳以上

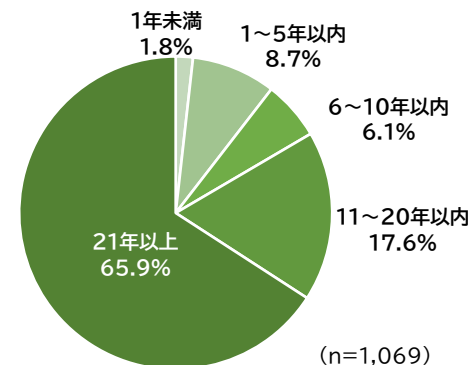
居住地区



居住形態



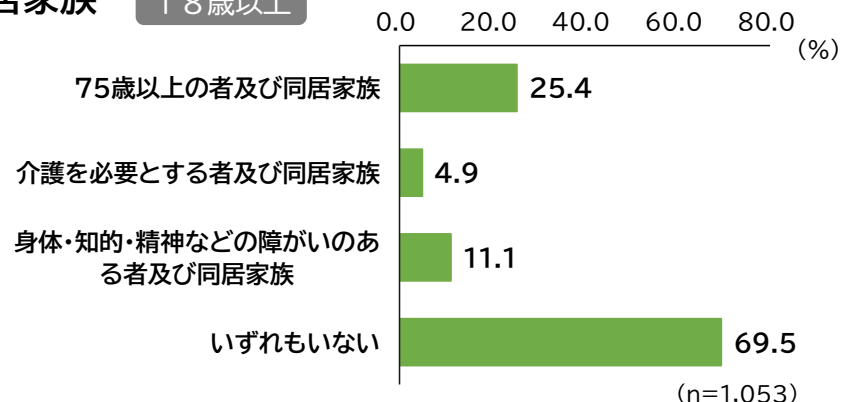
居住年数



- 同居家族をみると、75歳以上の者及びその同居者は25.4%、介護を必要とする者及びその同居者は4.9%、身体・知的・精神などの障がいのある者及びその同居者は11.1%である。いずれもないとする割合は69.5%である。
- 同居している子どもの状況は、高校生以下の子どもの保護者ではない人の割合が69.8%である。
- 就業状況をみると、正規の社員・従業員の割合が39.1%、次いで非正規の社員・従業員が23.0%である。

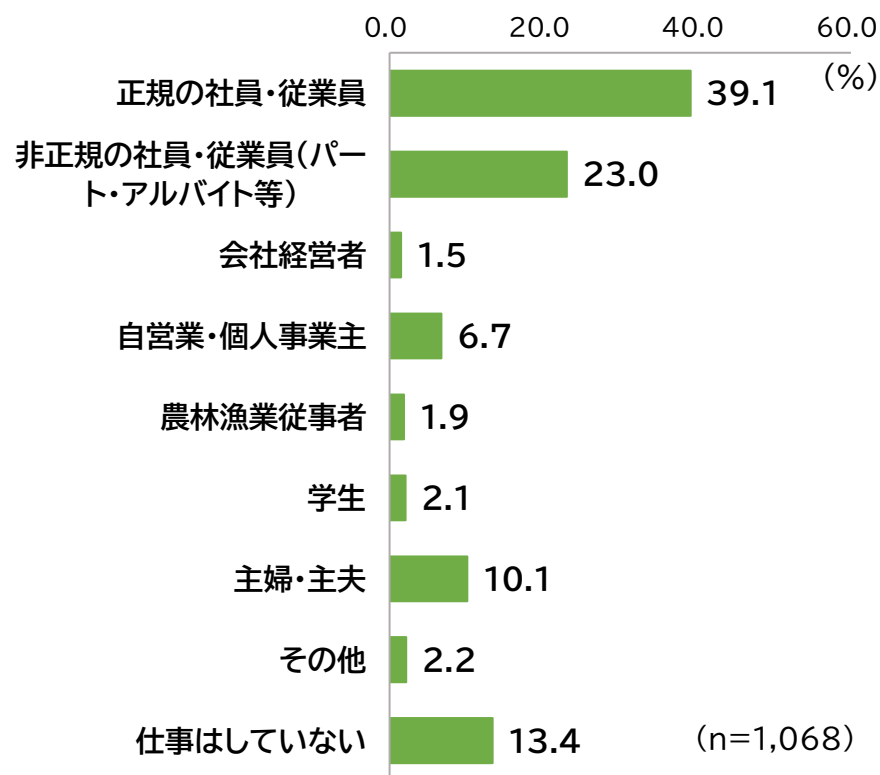
(3)同居家族

18歳以上



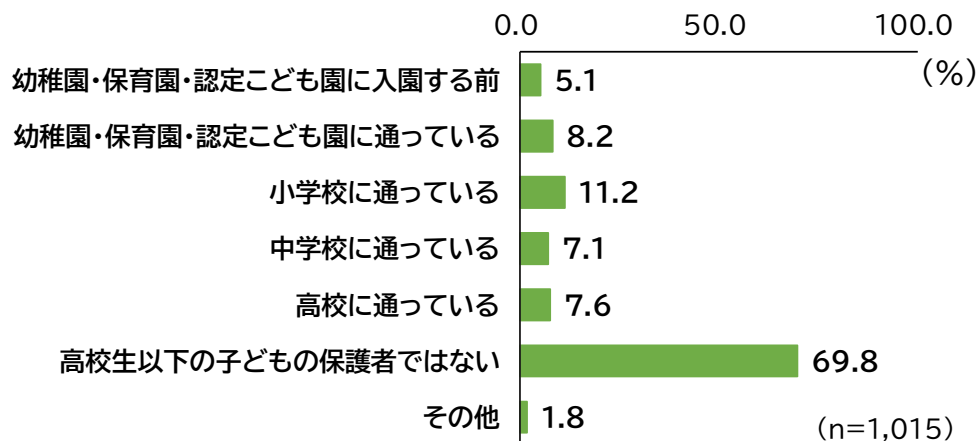
(5)就業状況

18歳以上



(4)同居している子ども

18歳以上

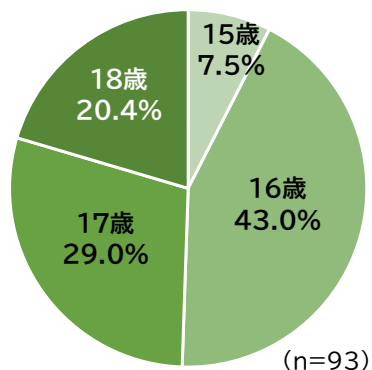


- 高校生世代のアンケート回答者の年代をみると、16歳が43.0%と割合が高い。性別は男性が46.7%、女性が50.0%となっている。
- 居住地区は、島内地区、笹賀地区、寿地区の順に多い。
- 居住形態は、持ち家（一戸建て）の割合が最も高く、76.3%である。
- 出身地としては、回答者の93.5%が松本市出身となっている。

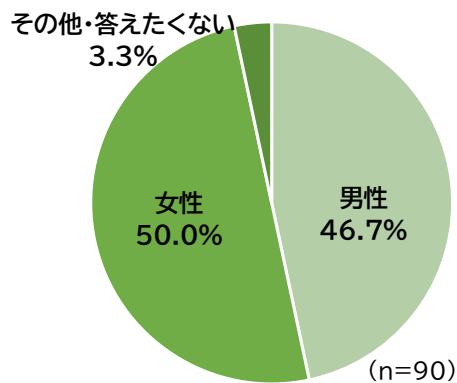
(6)年代・性別・居住地区

高校生世代

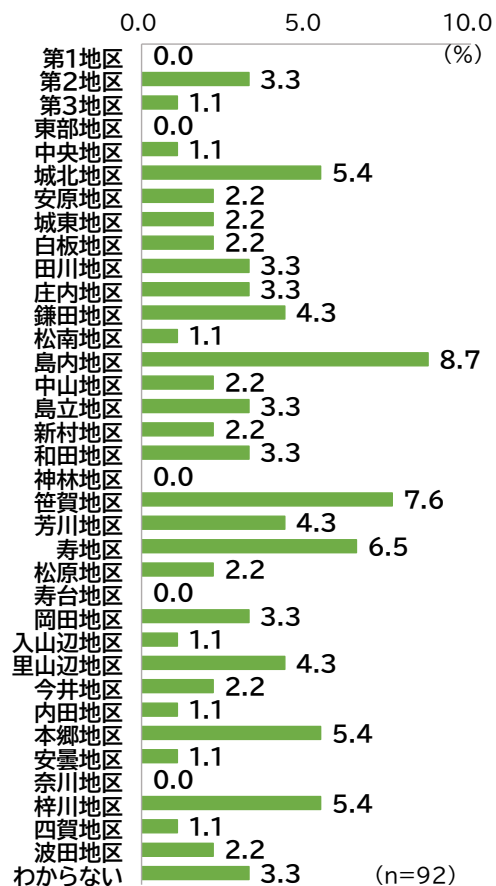
年代



性別

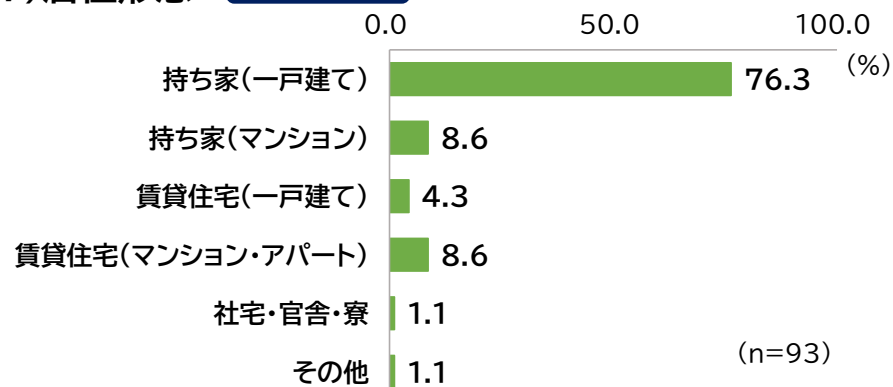


居住地区



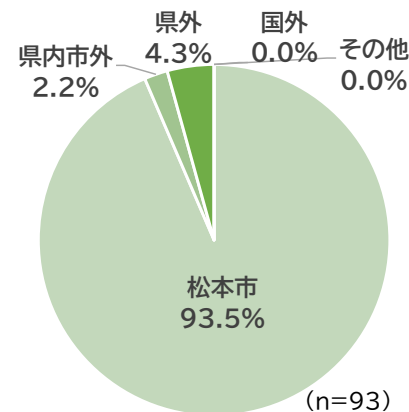
(7)居住形態

高校生世代



(8)出身地

高校生世代



第2章 調査結果

1. 第11次基本計画の7分野・47施策の現状評価に対する分析

18歳以上

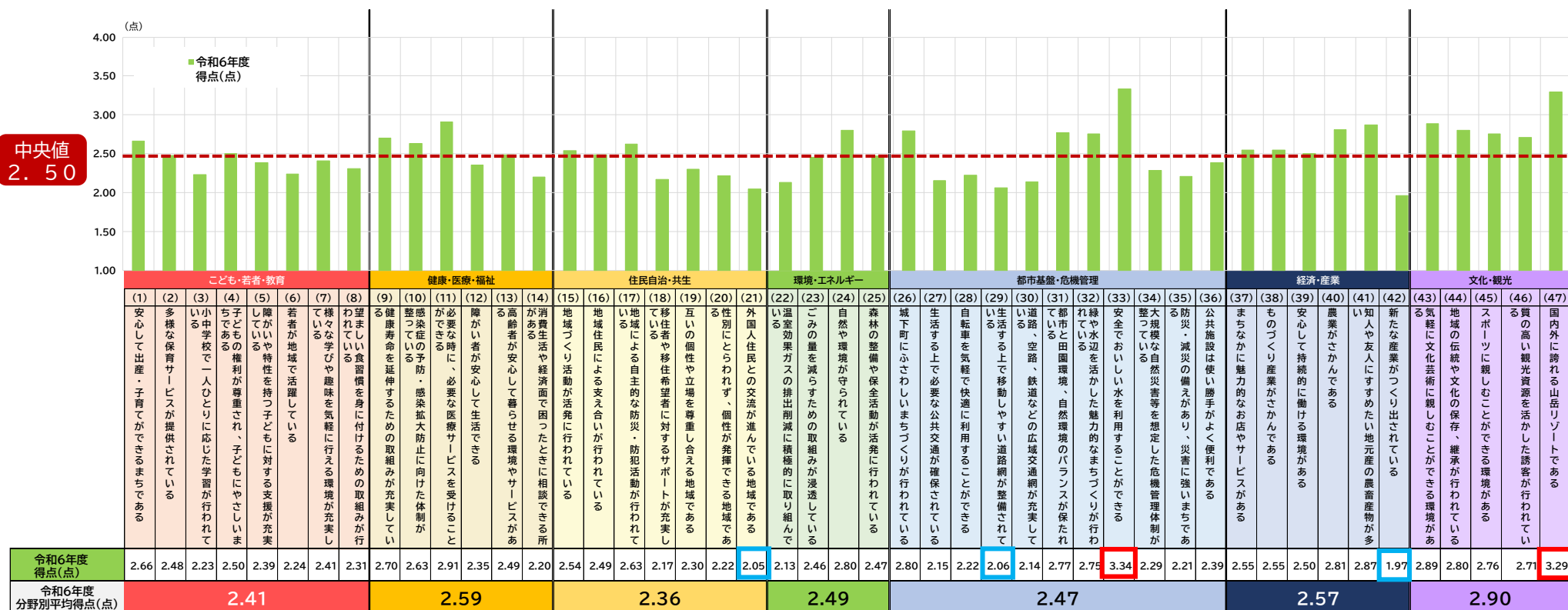
第11次基本計画で掲げた7分野・47の基本施策について、市の現状評価を行うため、下図のように調査項目を設定し、「そう思う」「ややそう思う」「あまりそう思わない」「そう思わない」「わからない」の5段階で聞いた。平均得点の算出にあたっては、そう思う＝4点、ややそう思う＝3点、あまりそう思わない＝2点、そう思わない＝1点とし、「わからない」の回答を除いた回答者数で除している。

■7分野・47施策と「アンケートにおける設問」との対応

重点戦略・施策体系	こども・若者・教育								健康・医療・福祉						住民自治・共生							環境 エネルギー				都市基盤・危機管理											経済・産業						文化・観光											
	1-1	1-2	1-3	1-4	1-5	1-6	1-7	1-8	2-1	2-2	2-3	2-4	2-5	2-6	3-1	3-2	3-3	3-4	3-5	3-6	3-7	4-1	4-2	4-3	4-4	5-1	5-2	5-3	5-4	5-5	5-6	5-7	5-8	5-9	5-10	5-11	6-1	6-2	6-3	6-4	6-5	6-6	7-1	7-2	7-3	7-4	7-5							
	全ての世代にわたる食育の推進 ニーズに応じた生涯学習の実現 若者が活躍できる環境づくり 未来につながる子ども福祉の充実 子どもにやさしいまちづくり 個性と多様性を尊重する学校教育 質の高い保育・幼児教育の実現 結婚・出産・子育て支援の充実								暮らしを守る生活支援の充実 生きがいある高齢者福祉の充実 個々に寄り添う障害者福祉の充実 地域医療・救急医療の充実 保健衛生・生活衛生の充実 切れ目ない健康づくりの推進						国際化・多文化共生の推進 ジェンダー平等社会の実現 多様な人権・平和の尊重 働き盛り世代の移住・定住推進 地域防災・防犯の推進 地域福祉活動の推進 住民自治支援の強化							森林の保全・再生・活用 自然・生活環境の保全 3R徹底による環境負荷軽減 再生可能エネルギーの導入促進				緑を活かした魅力あるまちづくり バランスの取れた土地利用 広域交通網の整備推進 交通需要に即した道路整備 自転車活用先進都市の実現 地域交通ネットワークの拡充 松本城を核としたまちづくり													将来にわたる公共インフラの整備 防災・減災対策の推進 危機管理体制の強化 上下水道の基盤強化						地域特性を活かした新産業の創出 異業種連携による食産業の振興 持続可能な農業経営基盤の確立 雇用対策と働き方改革の推進 ものづくり産業の活性化 新商都松本の創造					世界に冠たる山岳リゾートの実現 変化する時代の観光戦略 スポーツを楽しむ環境の充実 歴史・文化遺産の継承 豊かさを育む文化芸術の推進				
アンケートにおける設問	(1)	(2)	(3)	(4)	(5)	(6)	(7)	(8)	(9)	(10)	(11)	(12)	(13)	(14)	(15)	(16)	(17)	(18)	(19)	(20)	(21)	(22)	(23)	(24)	(25)	(26)	(27)	(28)	(29)	(30)	(31)	(32)	(33)	(34)	(35)	(36)	(37)	(38)	(39)	(40)	(41)	(42)	(43)	(44)	(45)	(46)	(47)							
	安心して出産・子育てができるまちである 多様な保育サービスが提供されている 小中学校で一人ひとりに応じた学習が行われている 障がいや特性を持つ子どもに対する支援が充実している 子どもの権利が尊重され、子どもにやさしいまちである 若者が地域で活躍している 様々な学びや趣味を気軽に楽しめる環境が充実している 望ましい食習慣を身に付けるための取組みが行われている								健康寿命を延伸するための取組みが充実している 感染症の予防・感染拡大防止に向けた体制が整っている 必要な時に、必要な医療サービスを受けることができる 障害者が安心して生活できる 高齢者が安心して暮らせる環境やサービスがある 消費者生活や経済面で困ったときに相談できる所がある						外国人住民との交流が進んでいる地域である 性別にとらわれず、個性が発揮できる地域である 互いの個性や立場を尊重し合える地域である 移住者や移住希望者に対するサポートが充実している 地域による自主的な防災・防犯活動が行われている 地域住民による支え合いが行われている 地域づくり活動が活発に行われている							森林の整備や保全活動が活発に行われている 自然や環境が守られている ごみの量を減らすための取組みが浸透している 温室効果ガスの排出削減に積極的に取り組んでいる				生活する上で必要な公共交通が確保されている 自転車道を快適に利用することができる 道路、水路、鉄道などの広域交通網が充実している 都市と田園環境、自然環境のバランスが保たれている 緑や水辺を活かした魅力的なまちづくりが行われている 安全でおいしい水を利用することができる 大規模な自然災害等を想定した危機管理体制が整っている 防災・減災の備えがあり、災害に強いまちである 公共施設は使い勝手がよく便利である													新たな産業が次々出されている 知人や友人にすすめたい地元産の農畜産物が多い 農業がさかんである 安心して持続的に働ける環境がある ものづくり産業がさかんである まちなかに魅力的なお店やサービスがある						国内外に誇れる山岳リゾートである 質の高い観光資源を活かした誘客が行われている スポーツに親しむことができる環境がある 地域の伝統や文化の保存・継承が行われている 気軽に文化芸術に親しむことができる環境がある									

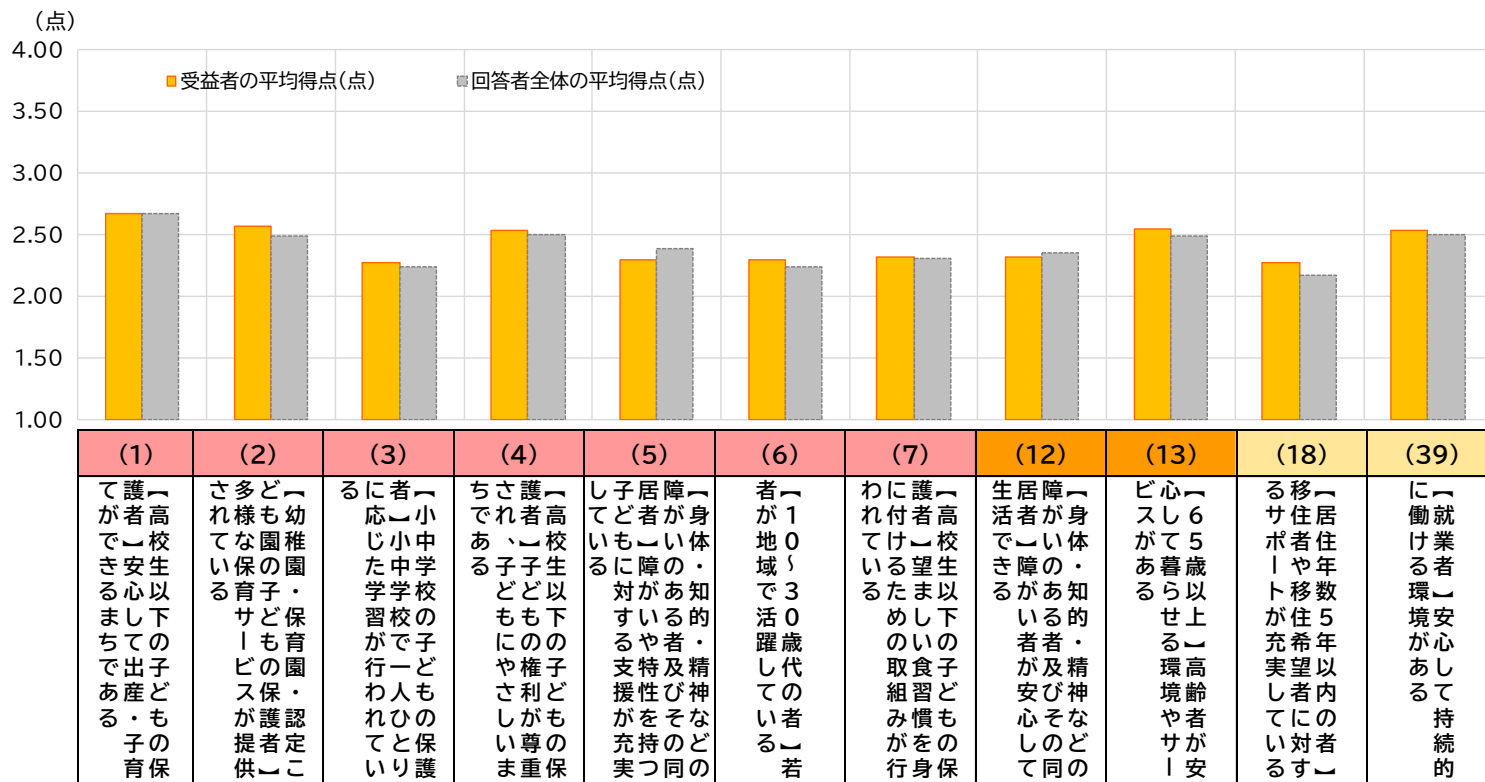
- 7分野別に平均得点をみると「文化・観光」が2.90点と高水準である。一方、「住民自治・共生」が2.36点、「こども・若者・教育」が2.41点、「都市基盤・危機管理」が2.47点と平均得点が低い傾向にある。
- 47施策でみると「(33)安全でおいしい水をー」「(47)国内外に誇れる山岳ー」が3.0以上と高水準である。得点が低いのは「(42)新たな産業がー」「(21)外国人住民との交流がー」「(29)生活する上で移動しやすい道路網がー」の順となっている。

(1)7分野・47施策の平均得点



- 受益者に限定し、平均得点をみると「(1) 安心して出産・子育てがー」「(2) 多様な保育サービスが提供ー」「(4) 子どもの権利が尊重されー」「(13) 高齢者が安心してー」「(39) 安心して持続的に働ける環境ー」は中央値2.50点を上回っている。
- 受益者に限定しても、中央値2.50点を下回り、回答保留の割合が30%を超えているのは「(5) 障がいや特性を持つ子どもー」「(18) 移住者や移住希望者に対するサポートがー」であり、市民に施策が浸透しておらず評価も低いため、取組みの改善が求められる。

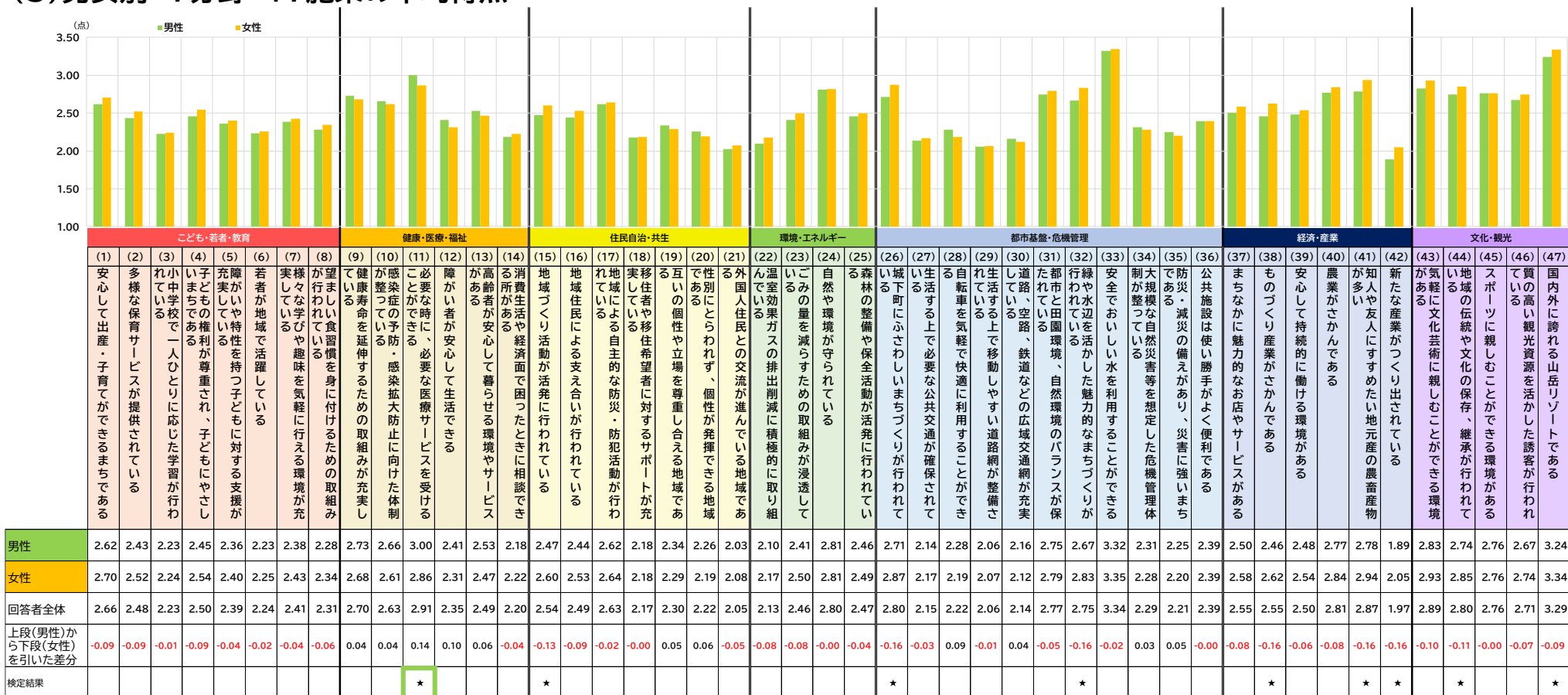
(2) 受益対象者が限定された項目の平均得点及び回答保留の割合



項目	(1)	(2)	(3)	(4)	(5)	(6)	(7)	(12)	(13)	(18)	(39)
受益者の平均得点(点)	2.67	2.56	2.27	2.53	2.30	2.30	2.31	2.32	2.54	2.27	2.53
受益者の回答保留の割合(%)	3.5	6.0	7.6	17.3	36.6	26.0	26.6	17.9	18.6	40.5	15.1
回答者全体の平均得点(点)	2.66	2.48	2.23	2.50	2.39	2.24	2.31	2.35	2.49	2.17	2.50
回答者全体の回答保留割合(%)	23.1	33.8	47.2	37.8	43.8	27.4	32.9	43.3	27.6	44.7	20.4

- 性別で平均得点を比較すると、統計的に差異が見られ、男性の平均得点が高い項目は「(11) 必要な時に、必要な医療サービスをー」の1項目である。
- 一方、男性と比較し、女性で平均得点が高い項目は多くなっている。女性の平均得点が高い項目をみると「(26) 城下町にふさわしいまちづくりがー」など魅力的なまちづくりに関する項目、「(38) ものづくり産業がー」など経済・産業に関する項目で高い。

(3)男女別 7分野・47施策の平均得点

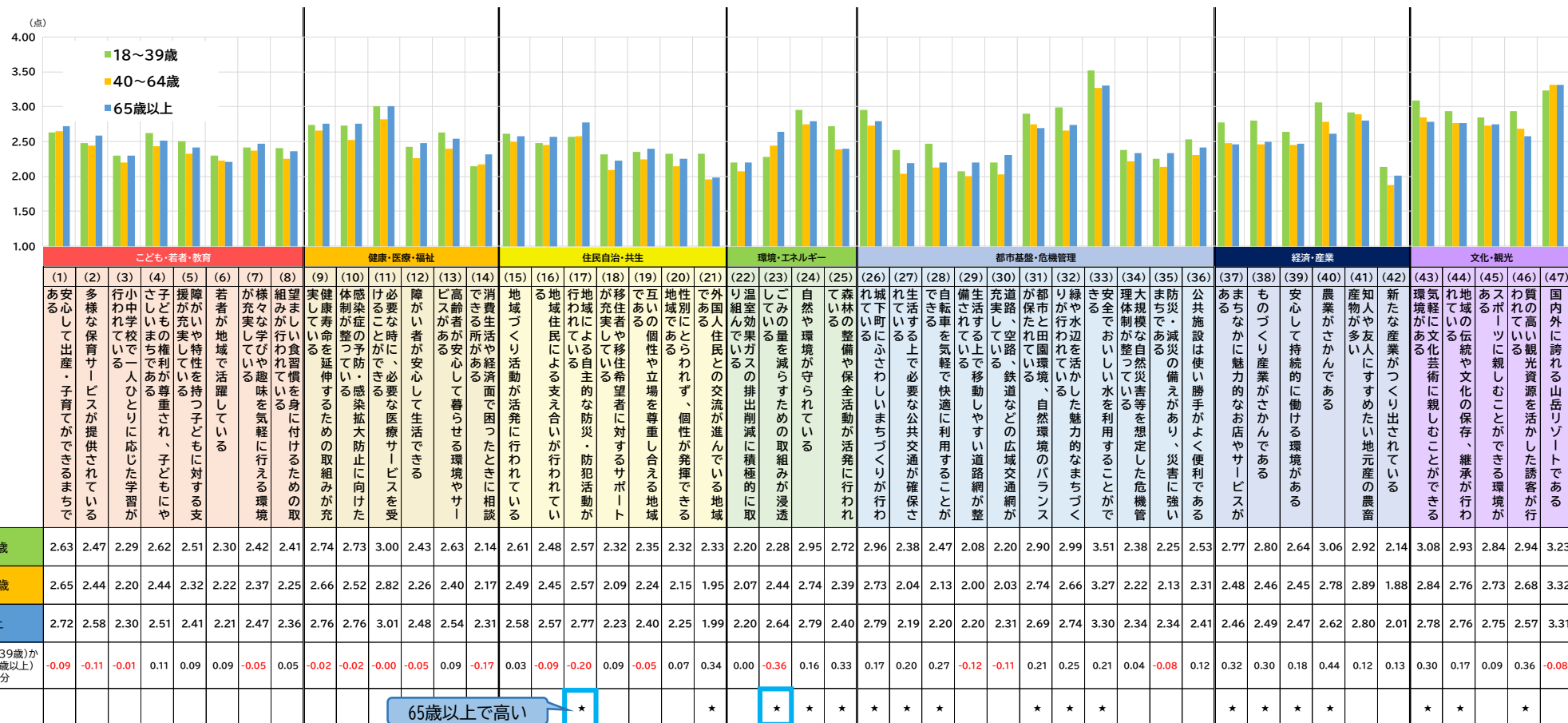


男性で平均得点が高い1項目

※検定結果は5%水準で統計的に差異が見られる項目に「★」がついている

- 年代別で平均得点を比較すると、統計的に差異が見られ、65歳以上の平均得点が高い項目は「(17) 地域による自主的な防災・防犯活動がー」「(23) ごみの量を減らすための取組みがー」の2項目である。
- 18～39歳の若い世代で、評価が高い項目が多い。具体的には「都市基盤・危機管理」「経済・産業」「文化・観光」分野で高い項目が多い。

(4)年代別 7分野・47施策の平均得点

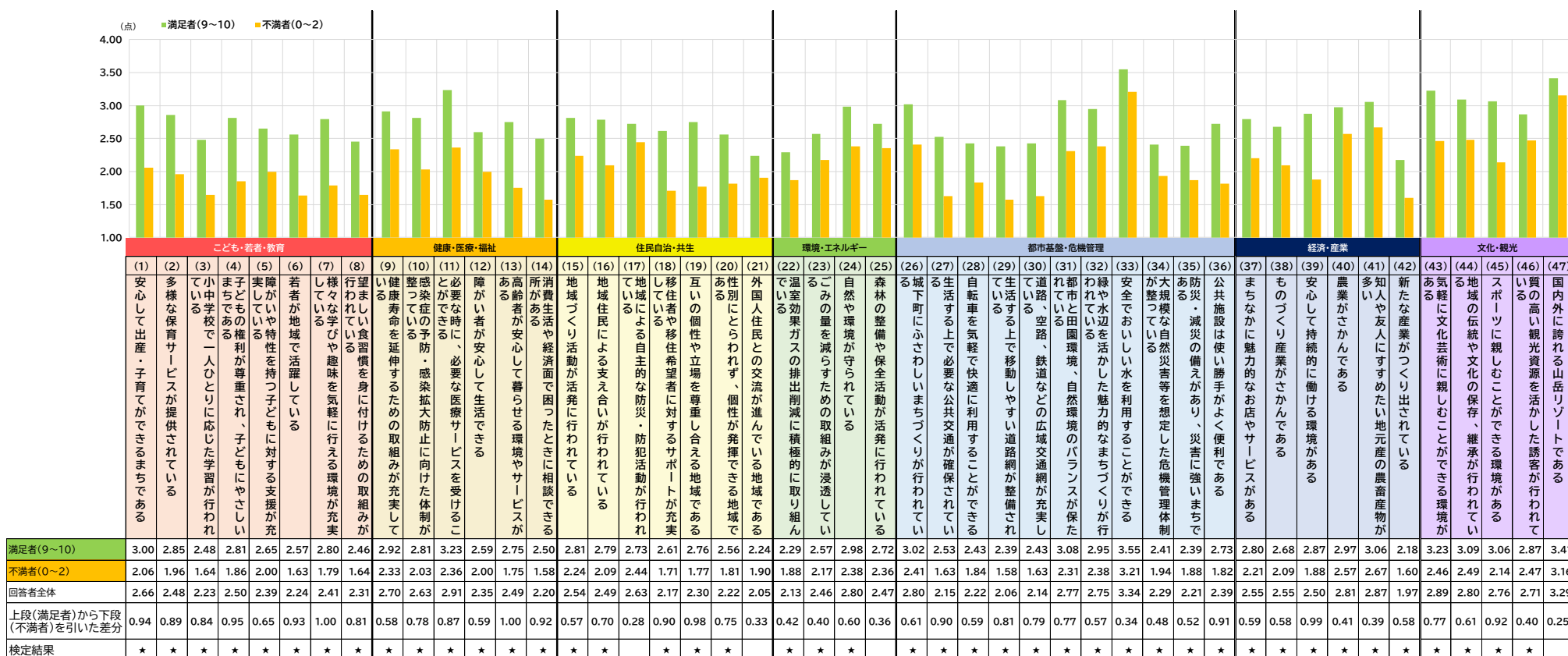


※検定結果は18～39歳で65歳以上と比べて5%水準で統計的に差異が見られる項目に「★」がついている

- 満足者と不満者における平均得点を比較すると、すべての施策において満足している者で評価が高い。
- 満足者と不満者において得点差が大きい施策は「(7) 様々な学びや趣味を気軽に行える環境が一」「(13) 高齢者が安心して一」などである。

(5)暮らしの満足度別 7分野・47施策の平均得点

※現在の暮らしの満足度について0（とても不満）～10点（とても満足）で聞いた。
9～10と回答した者を「満足者」、0～2点と回答した者を「不満者」とした

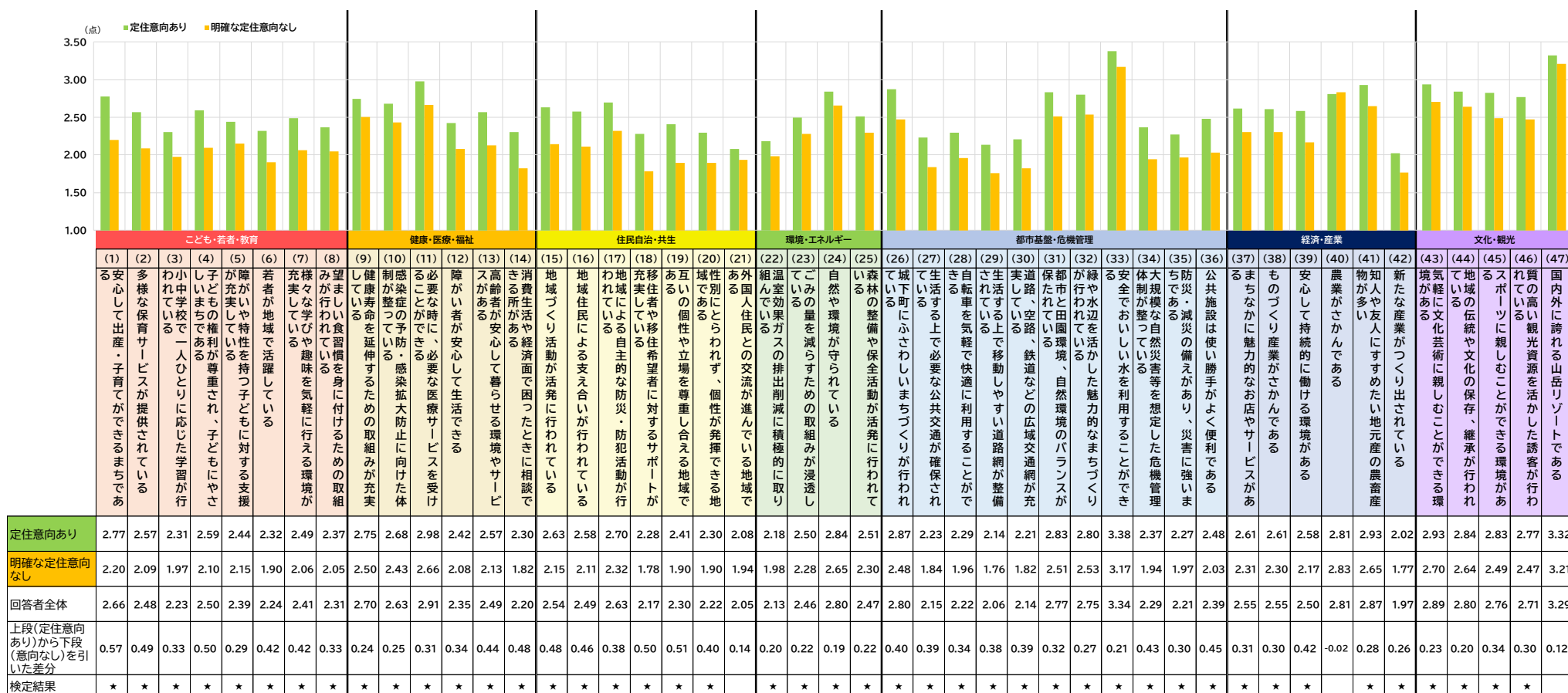


※検定結果は5%水準で統計的に差異が見られる項目に「★」がついている

- 定住意向のある者と明確な定住意向がない者の平均得点を比較すると、すべての施策において定住意向がある者の評価が高い。
- 特に得点差が大きいのは「(1) 安心して出産・子育てがー」「(4) 子どもの権利が尊重されー」「(18) 移住者や移住希望者に対するサポートがー」「(19) 互いの個性や立場をー」などであり、子育て、移住支援、多様性の尊重などにおいて差が見られる。これらに対する評価が非定住意向につながっていると推測される。

(6)定住意向別 7分野・47施策の平均得点

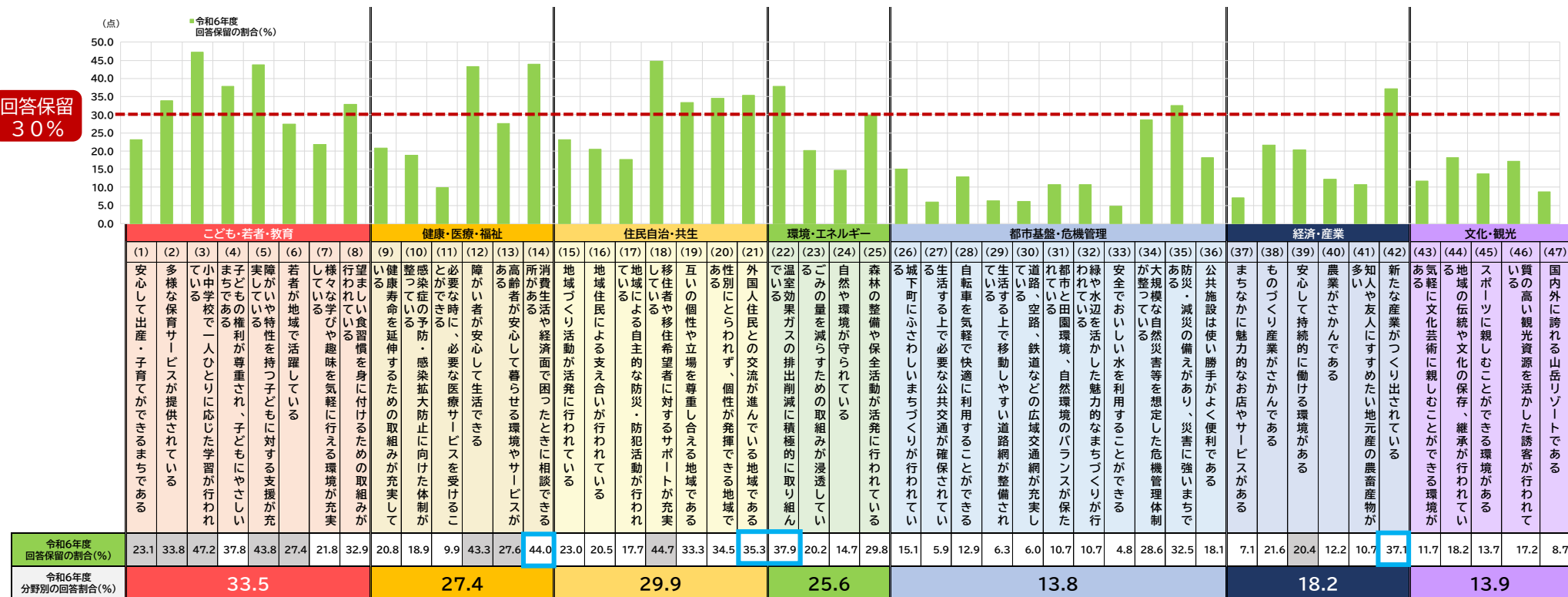
※松本市に住み続けたいかという設問に対し、「永住したい」「当分住み続けたい」と回答した者を定住意向ありとし、「どちらともいえない」「転出したい」と回答した者を明確な定住意向なしとした



※検定結果は5%水準で統計的に差異が見られる項目に「★」がついている

- 下の表は、7分野・47施策の回答保留の割合を示したものである。グレーの網掛けは、子どもや高齢者、障がい者など、受益者が限定される施策である。7分野別にみると「こども・若者・教育」分野は受益者が限定された施策が多いこともあり、回答保留の割合が33.5%と他の分野よりも高くなっている。
- 受益対象者が限定されない項目では、「(14)消費生活や経済面で困ったとき」「(21)外国人住民との交流がー」「(22)温室効果ガスの排出削減にー」「(42)新たな産業がー」で35%を超えている。

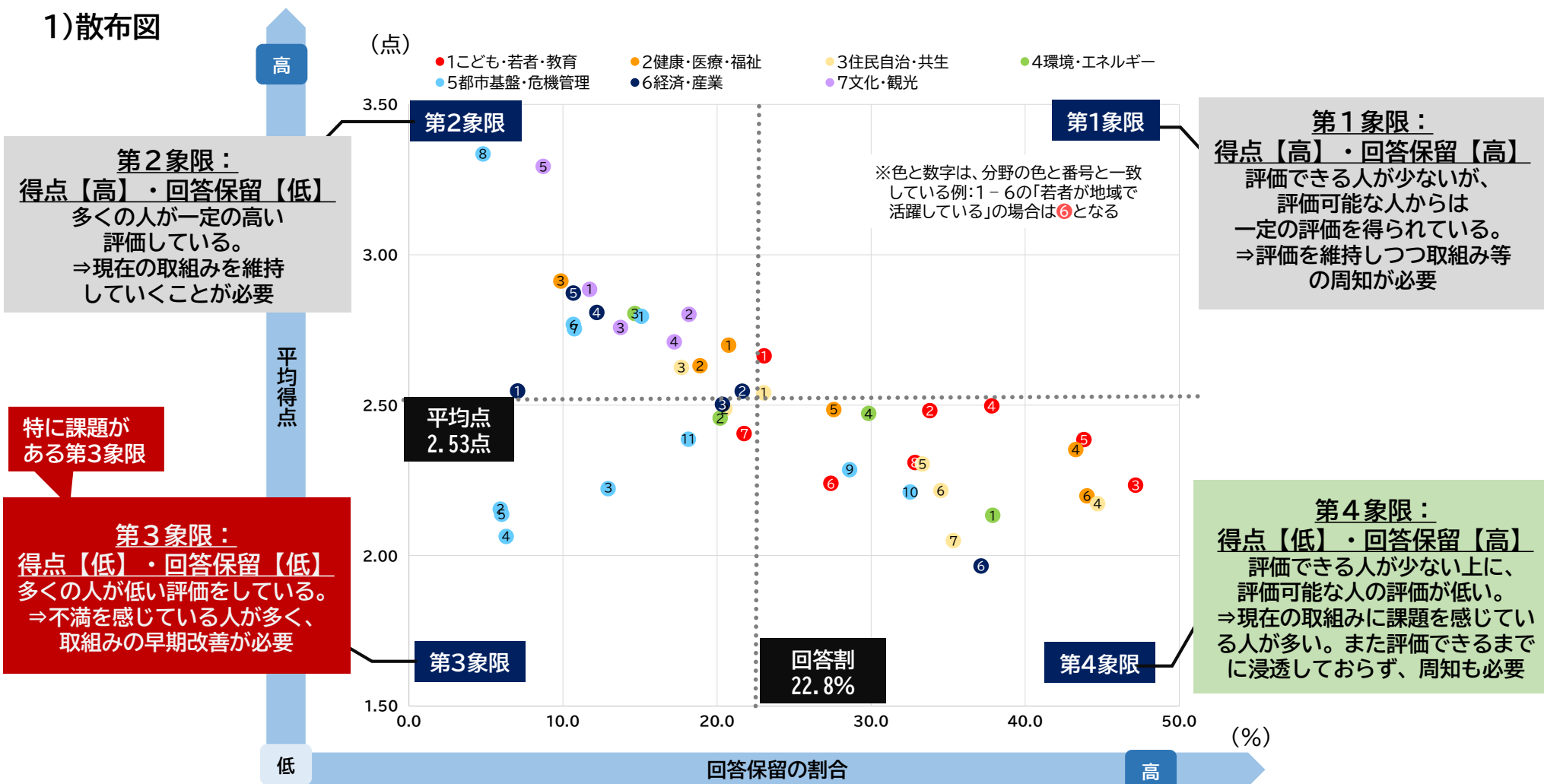
(7)7分野・47施策の回答保留の比較



(8)施策評価と回答保留の分析

47施策について、縦軸を「平均得点」、横軸を「回答保留の割合」とし、それらの平均をもとに4象限で整理し、プロットした結果である。次ページにおいて対応する項目を示す。

1) 散布図



2)調査項目と象限の対応

					令和6年度			受益者 限定
分野			調査項目	象限	得点	回答保留の割合		
こども・若者・教育	1-1	結婚・出産・子育て支援の充実	(1)	安心して出産・子育てができるまちである	1	2.66	23.1	★
	1-2	質の高い保育・幼児教育の実現	(2)	多様な保育サービスが提供されている	4	2.48	33.8	★
	1-3	個性と多様性を尊重する学校教育	(3)	小中学校で一人ひとりに応じた学習が行われている	4	2.23	47.2	★
	1-4	子どもにやさしいまちづくり	(4)	子どもの権利が尊重され、子どもにやさしいまちである	4	2.50	37.8	★
	1-5	未来につなぐ子ども福祉の充実	(5)	障がいや特性を持つ子どもに対する支援が充実している	4	2.39	43.8	★
	1-6	若者が活躍できる環境づくり	(6)	若者が地域で活躍している	4	2.24	27.4	★
	1-7	ニーズに応じた生涯学習の実現	(7)	様々な学びや趣味を気軽にできる環境が充実している	3	2.41	21.8	
	1-8	全ての世代にわたる食育の推進	(8)	望ましい食習慣を身に付けるための取組みが行われている	4	2.31	32.9	
健康・医療・福祉	2-1	切れ目ない健康づくりの推進	(9)	健康寿命を延伸するための取組みが充実している	2	2.70	20.8	
	2-2	保健衛生・生活衛生の充実	(10)	感染症の予防・感染拡大防止に向けた体制が整っている	2	2.63	18.9	
	2-3	地域医療・救急医療の充実	(11)	必要な時に、必要な医療サービスを受けることができる	2	2.91	9.9	
	2-4	個々に寄り添う障害者福祉の充実	(12)	障がい者が安心して生活できる	4	2.35	43.3	★
	2-5	生きがいある高齢者福祉の充実	(13)	高齢者が安心して暮らせる環境やサービスがある	4	2.49	27.6	★
	2-6	暮らしを守る生活支援の充実	(14)	消費生活や経済面で困ったときに相談できる所がある	4	2.20	44.0	
住民自治・共生	3-1	住民自治支援の強化	(15)	地域づくり活動が活発に行われている	1	2.54	23.0	
	3-2	地域福祉活動の推進	(16)	地域住民による支え合いが行われている	3	2.49	20.5	
	3-3	地域防災・防犯の推進	(17)	地域による自主的な防災・防犯活動が行われている	2	2.63	17.7	
	3-4	働き盛り世代の移住・定住推進	(18)	移住者や移住希望者に対するサポートが充実している	4	2.17	44.7	★
	3-5	多様な人権・平和の尊重	(19)	互いの個性や立場を尊重し合える地域である	4	2.30	33.3	
	3-6	ジェンダー平等社会の実現	(20)	性別にとらわれず、個性が発揮できる地域である	4	2.22	34.5	
	3-7	国際化・多文化共生の推進	(21)	外国人住民との交流が進んでいる地域である	4	2.05	35.3	
環境・エネ	4-1	再生可能エネルギーの導入促進	(22)	温室効果ガスの排出削減に積極的に取り組んでいる	4	2.13	37.9	
	4-2	3R徹底による環境負荷軽減	(23)	ごみの量を減らすための取組みが浸透している	3	2.46	20.2	
	4-3	自然・生活環境の保全	(24)	自然や環境が守られている	2	2.80	14.7	
	4-4	森林の保全・再生・活用	(25)	森林の整備や保全活動が活発に行われている	4	2.47	29.8	
都市基盤・危機管理	5-1	松本城を核としたまちづくり	(26)	城下町にふさわしいまちづくりが行われている	2	2.80	15.1	
	5-2	地域交通ネットワークの拡充	(27)	生活する上で必要な公共交通が確保されている	3	2.15	5.9	
	5-3	自転車活用先進都市の実現	(28)	自転車を気軽に快適に利用することができる	3	2.22	12.9	
	5-4	交通需要に即した道路整備	(29)	生活する上で移動しやすい道路網が整備されている	3	2.06	6.3	
	5-5	広域交通網の整備推進	(30)	道路、空路、鉄道などの広域交通網が充実している	3	2.14	6.0	
	5-6	バランスの取れた土地利用	(31)	都市と田園環境、自然環境のバランスが保たれている	2	2.77	10.7	
	5-7	緑を活かした魅力あるまちづくり	(32)	緑や水辺を活かした魅力的なまちづくりが行われている	2	2.75	10.7	
	5-8	上下水道の基盤強化	(33)	安全でおいしい水を利用することができる	2	3.34	4.8	
	5-9	危機管理体制の強化	(34)	大規模な自然災害等を想定した危機管理体制が整っている	4	2.29	28.6	
	5-10	防災・減災対策の推進	(35)	防災・減災の備えがあり、災害に強いまちである	4	2.21	32.5	
	5-11	将来にわたる公共インフラの整備	(36)	公共施設は使い勝手がよく便利である	3	2.39	18.1	
経済・産業	6-1	商都松本の再興	(37)	まちなかに魅力的なお店やサービスがある	2	2.55	7.1	
	6-2	ものづくり産業の活性化	(38)	ものづくり産業がさかんである	2	2.55	21.6	
	6-3	雇用対策と働き方改革の推進	(39)	安心して持続的に働ける環境がある	3	2.50	20.4	★
	6-4	持続可能な農業経営基盤の確立	(40)	農業がさかんである	2	2.81	12.2	
	6-5	異業種連携による食産業の振興	(41)	知人や友人にすすめたい地元産の農畜産物が多い	2	2.87	10.7	
	6-6	地域特性を活かした新産業の創出	(42)	新たな産業がすくすく出ている	4	1.97	37.1	
文化・観光	7-1	豊かさを育む文化芸術の推進	(43)	気軽に文化芸術に親しむことができる環境がある	2	2.89	11.7	
	7-2	歴史・文化遺産の継承	(44)	地域の伝統や文化の保存、継承が行われている	2	2.80	18.2	
	7-3	スポーツを楽しむ環境の充実	(45)	スポーツに親しむことができる環境がある	2	2.76	13.7	
	7-4	変化する時代の観光戦略	(46)	質の高い観光資源を活かした誘客が行われている	2	2.71	17.2	
	7-5	世界に冠たる山岳リゾートの実現	(47)	国内外に誇れる山岳リゾートである	2	3.29	8.7	

第3象限：
得点【低】・回答保留【低】
 多くの人が低い評価をしている。
 ⇒不満を感じている人が多く、
 取組みの早期改善が必要

第4象限：
得点【低】・回答保留【高】
 評価できる人が少ない上に、
 評価可能な人の評価が低い。
 ⇒現在の取組みに課題を感じてい
 る人が多い。また評価できるまで
 に浸透しておらず、周知も必要

※受益者限定項目を除き、第3象限に位置する項目を赤色、第4象限に位置する項目を緑色とした

3) 施策の平均点と回答保留の分析結果の活用の仕方

①第3象限に位置する施策に対する対応

第3象限に位置する施策は、施策評価の平均特点が低く、回答保留の割合も少ない。つまり、多くの市民が現状を把握した上で低い評価をしている施策である。このような施策に対する事業立案として、以下が考えられる。

1：評価を上げられる可能性がある施策

第3象限に該当する施策のうち、以下は改善の余地があると考えられ、より効果の上がる事業を立案することが求められる。

- ・（7）様々な学びや趣味を気軽に行える環境が充実している
- ・（16）地域住民による支え合いが行われている
- ・（23）ごみの量を減らすための取組みが浸透している
- ・（36）公共施設は使い勝手がよく便利である

2：評価を上げることが難しい（慎重に検討すべき）施策

「5-2 地域交通ネットワークの拡充」や「5-4 交通需要に即した道路整備」などは多額の費用がかかるなど慎重に議論すべき施策に対しては、すぐに評価を上げることは難しい。現在の取組みや、自動車利用を減らすなど市民生活における改善策を丁寧に周知していくことが求められる。

第3象限に位置する施策一覧 ※受益者限定項目を除く

			令和6年度		
			象限	得点	回答保留の割合
1-7	ニーズに応じた生涯学習の実現	(7)	様々な学びや趣味を気軽に行える環境が充実している	3	21.8
3-2	地域福祉活動の推進	(16)	地域住民による支え合いが行われている	3	20.5
4-2	3R徹底による環境負荷軽減	(23)	ごみの量を減らすための取組みが浸透している	3	20.2
5-2	地域交通ネットワークの拡充	(27)	生活する上で必要な公共交通が確保されている	3	5.9
5-3	自転車活用先進都市の実現	(28)	自転車を気軽に快適に利用することができる	3	12.9
5-4	交通需要に即した道路整備	(29)	生活する上で移動しやすい道路網が整備されている	3	6.3
5-5	広域交通網の整備推進	(30)	道路、空路、鉄道などの広域交通網が充実している	3	6.0
5-11	将来にわたる公共インフラの整備	(36)	公共施設は使い勝手がよく便利である	3	18.1

②第4象限に位置する施策に対する対応

第4象限に位置する施策は、回答保留の割合が高く、施策評価の平均得点が低い。つまり、現状を把握していない（できない）市民が一定数存在する。また、現状を把握している市民の現状に対する評価は低い。

このような施策に対する事業立案として、以下が考えられる。

3：回答保留を上げる取組み

各施策における取組み内容に対する周知を徹底することが第一歩といえる。特に全市民が対象となる施策については、広報まつもとやSNSなどを用い、効果的に取組み内容を伝えていくことが求められる。

4：評価に対する方針

評価に対しては、左記1及び2で示した対応が求められる。

第4象限に位置する施策一覧 ※受益者限定項目を除く

			令和6年度		
			象限	得点	回答保留の割合
1-8	全ての世代にわたる食育の推進	(8)	望ましい食習慣を身に付けるための取組みが行われている	4	32.9
2-6	暮らしを守る生活支援の充実	(14)	消費生活や経済面で困ったときに相談できる所がある	4	44.0
3-5	多様な人権・平和の尊重	(19)	互いの個性や立場を尊重し合える地域である	4	33.3
3-6	ジェンダー平等社会の実現	(20)	性別にとられず、個性が発揮できる地域である	4	34.5
3-7	国際化・多文化共生の推進	(21)	外国人住民との交流が進んでいる地域である	4	35.3
4-1	再生可能エネルギーの導入促進	(22)	温室効果ガスの排出削減に積極的に取り組んでいる	4	37.9
4-4	森林の保全・再生・活用	(25)	森林の整備や保全活動が活発に行われている	4	29.8
5-9	危機管理体制の強化	(34)	大規模な自然災害等を想定した危機管理体制が整っている	4	28.6
5-10	防災・減災対策の推進	(35)	防災・減災の備えがあり、災害に強いまちである	4	32.5
6-6	地域特性を活かした新産業の創出	(42)	新たな産業が生まれ出されている	4	37.1

2. 重点戦略(ゼロカーボン・DX)に関する分析

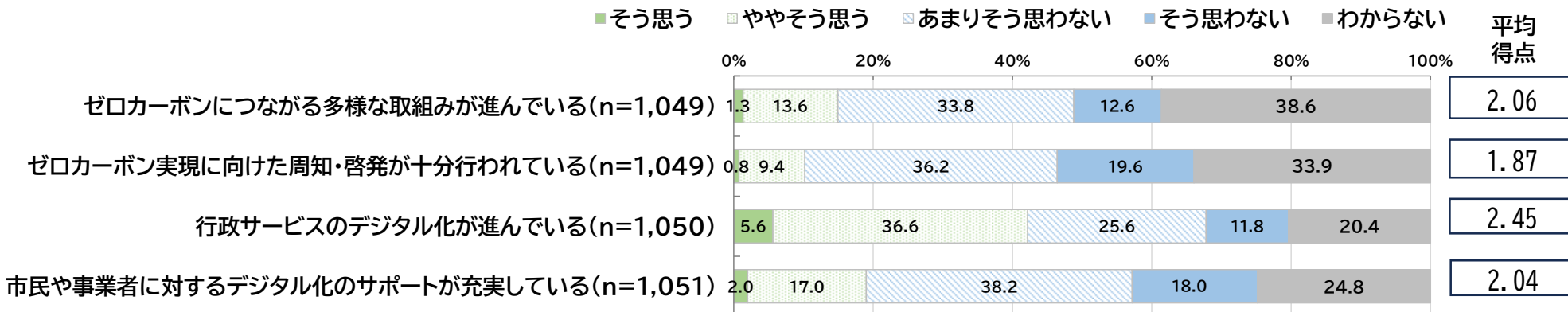
- 「ゼロカーボンにつながる多様な取組み」 「ゼロカーボン実現に向けた周知・啓発がー」 など、「わからない」という回答保留の割合が30%を超えており、市民への取組みの浸透に課題が見られる。
- 「行政サービスのデジタル化がー」 「市民や事業者に対するデジタル化のサポートがー」 の評価に関しては、中央値2.50を下回っている。「行政サービスのデジタル化がー」は、女性や18～39歳の若い世代で中央値を上回っており、評価を得られている層もいる。男性や40歳以上の層への浸透が求められる。

以下のように得点化し、「わからない」の回答を除いた回答者数で除し、平均得点を算出している

- ・ 思う = 4点
- ・ やや思う = 3点
- ・ あまりそう思わない = 2点
- ・ そう思わない = 1点

重点戦略に関する回答結果

18歳以上



性別・年代別 重点戦略に関する平均得点

18歳以上

(点)

	性別		年代		
	男性	女性	18～39歳	40～64歳	65歳以上
ゼロカーボンにつながる多様な取組みが進んでいる	2.01	2.11	2.07	2.02	2.18
ゼロカーボン実現に向けた周知・啓発が十分行われている	1.85	1.88	1.86	1.82	2.00
行政サービスのデジタル化が進んでいる	2.34	2.55★	2.67★	2.35	2.45
市民や事業者に対するデジタル化のサポートが充実している	2.03	2.05	2.20★	1.99	1.99

※検定結果は5%水準で統計的に差異が見られる項目に「★」がついている

女性が高い

若い世代で
高水準

3. 市民の日常生活における行動・活動の分析

総合計画では、市民と行政が共に取り組む5つの行動目標の下、具体的な行動（アクション）を通じたまちづくりを進めていくこととしており、本調査においては、市民の日常生活における行動や活動（16項目）について、「当てはまる」「やや当てはまる」「あまり当てはまらない」「当てはまらない」という選択肢を設け、取組状況の把握を行った。

なお、これら項目は令和3年度にも同様の調査を実施しており、経年比較を行う。

以下のように得点化し、平均得点を算出している

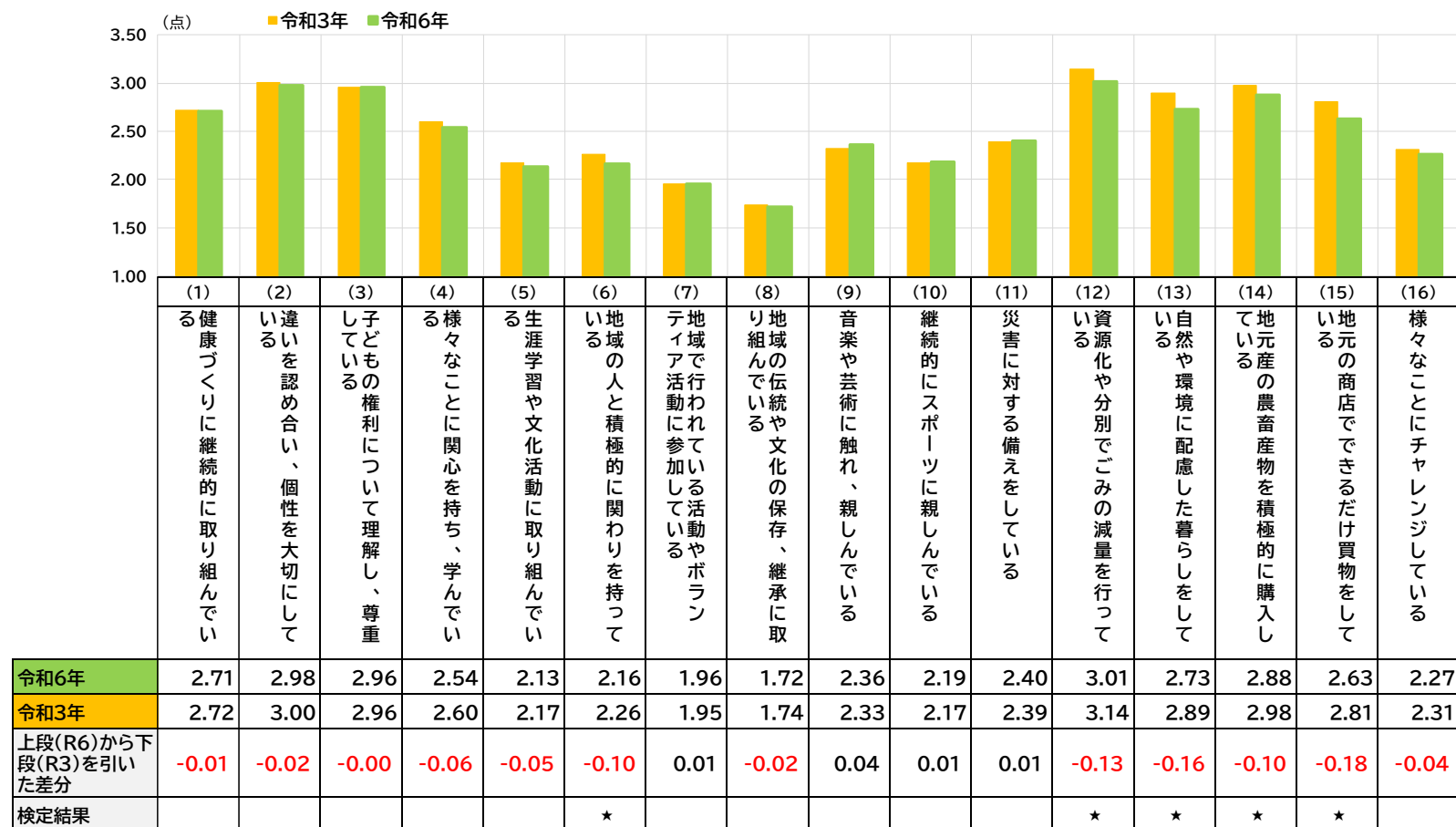
- 当てはまる＝4点
- やや当てはまる＝3点
- あまり当てはまらない＝2点
- 当てはまらない＝1点

市民の日常生活における行動・活動の16項目

健康づくりに継続的に取り組んでいる	違いを認め合い、個性を大切にしている	子どもの権利について理解し、尊重している	様々なことに関心を持ち、学んでいる	生涯学習や文化活動に取り組んでいる	地域の人と積極的に関わりを持っている	地域で行われている活動やボランティア活動に参加している	地域の伝統や文化の保存、継承に取り組んでいる	音楽や芸術に触れ、親しんでいる	継続的にスポーツに親しんでいる	災害に対する備えをしている	資源化や分別でごみの減量を行っている	自然や環境に配慮した暮らしをしている	地元産の農畜産物を積極的に購入している	地元の商店でできるだけ買物をしている	様々なことにチャレンジしている
-------------------	--------------------	----------------------	-------------------	-------------------	--------------------	-----------------------------	------------------------	-----------------	-----------------	---------------	--------------------	--------------------	---------------------	--------------------	-----------------

- 令和6年調査において、市民の日常生活における行動・活動の16項目で最も得点が高いのは「(12) 資源化や分別でごみの減量をー」である。
- 令和3年調査と比較すると、統計的に差異が見られたのは「(6) 地域の人と積極的に関わりをー」「(12) 資源化や分別でごみの減量をー」「(13) 自然や環境に配慮したー」「(14) 地元産の農畜産物をー」「(15) 地元の商店でー」であり、地域との関わり、自然環境保全、地元での商品購入などの項目において、令和6年調査の平均得点が下がっている。

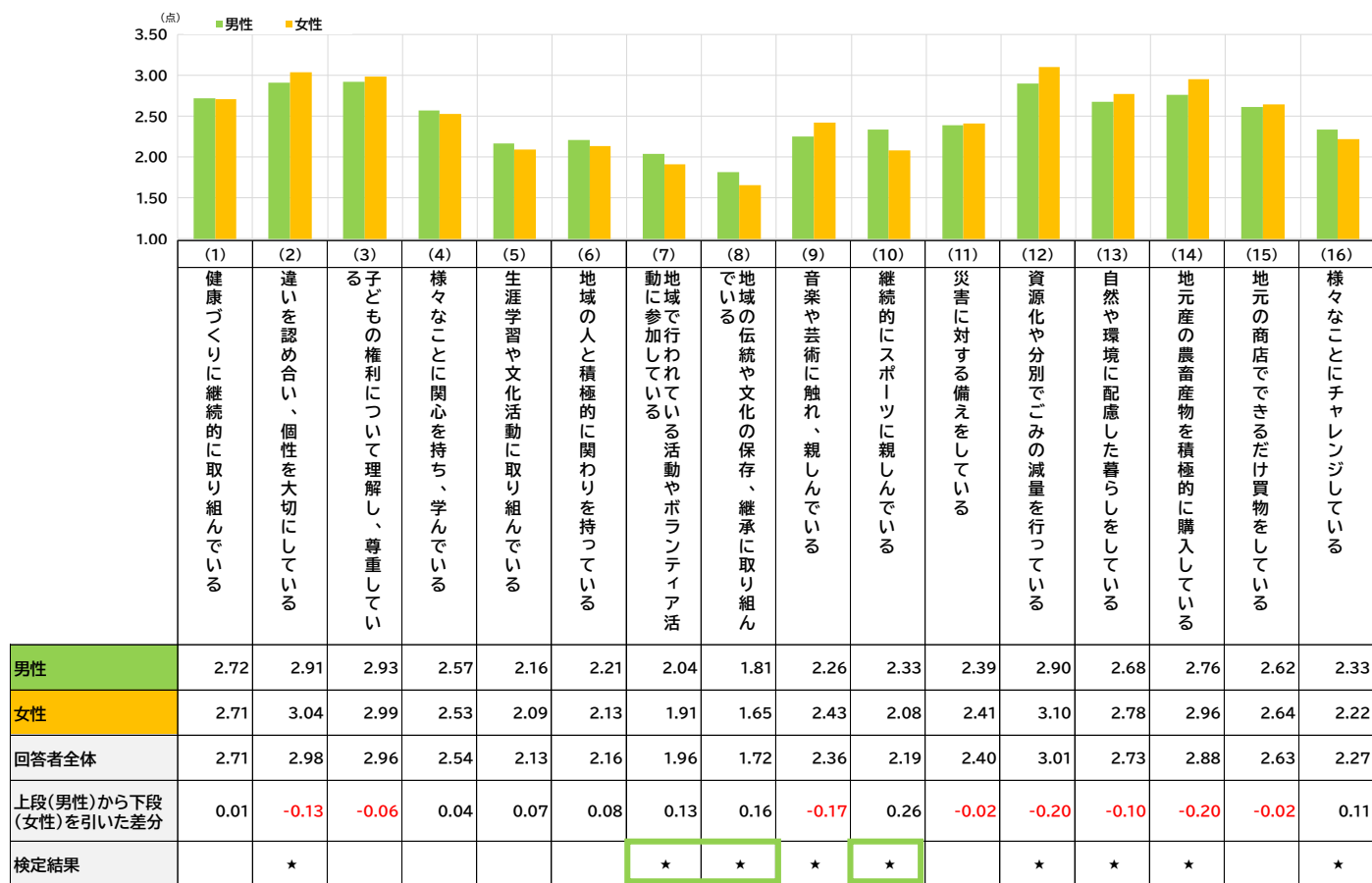
(1)市民の日常生活における行動・活動の平均得点に関する経年比較



※検定結果は5%水準で統計的に差異が見られる項目に「★」がついている

- 男性の平均得点が高い項目は「(7) 地域で行われている活動やボランティア活動にー」「(8) 地域の伝統や文化の保存、継承ー」「(10) 継続的にスポーツにー」であり、地域活動やスポーツに関する項目である。
- 女性の平均得点が高い項目は「(12) 資源化や分別でごみの減量をー」「(14) 地元産の農畜産物をー」などである。顕著とはいえないが、ごみの減量や買物など家事に関わる項目で女性の方が得点が高くなっており、いまだ性別による役割分担的な傾向が見られる。

(2)男女別 市民の日常生活における行動・活動の平均得点



男性で高い項目

※検定結果は5%水準で統計的に差異が見られる項目に「★」がついている

- 男女別に経年でみると、男性、女性ともに低下しているのは「(12) 資源化や分別でごみの減量をー」「(13) 自然や環境に配慮したー」「(15) 地元の商店でー」である。市民一人ひとりの取組みが重要である環境分野において活動量の低下が見られ、資源化・分別がごみの減量につながることにについて周知が求められる。
- 女性においては「(6) 地域の人と積極的に関わりー」「(14) 地元産の農畜産物をー」も低下している。

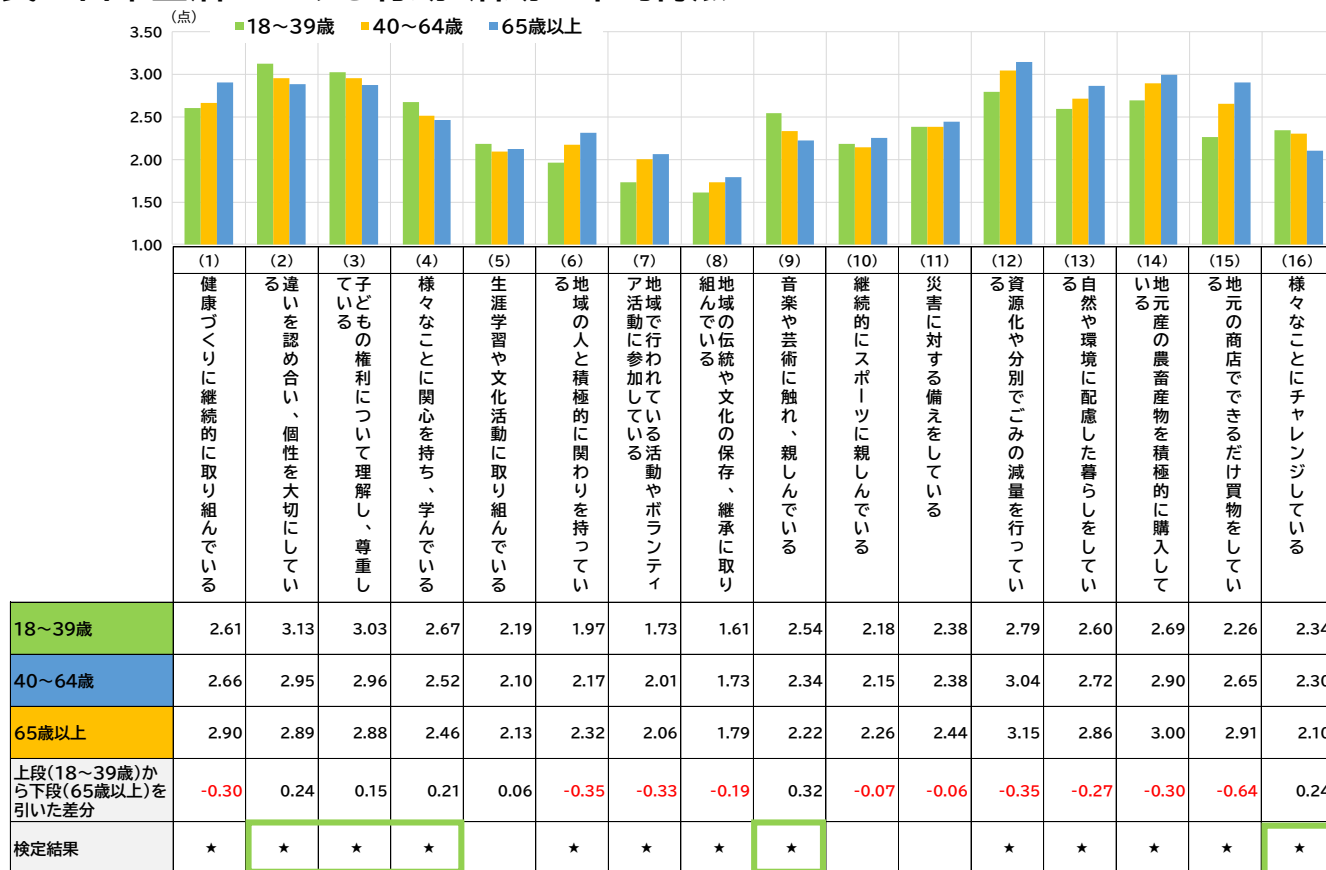
(3)男女別 市民の日常生活における行動・活動の平均得点の経年比較

	(1) 健康づくりに継続的に取り組んでいる	(2) 違いを認め合い、個性を大切にしている	(3) 子どもの権利について理解し、尊重している	(4) 様々なことに関心を持ち、学んでいる	(5) 生涯学習や文化活動に取り組んでいる	(6) 地域の人と積極的に関わりを持っている	(7) 地域で参加されている活動やボランティア活動	(8) 地域の伝統や文化の保存、継承に取り組んでいる	(9) 音楽や芸術に触れ、親しんでいる	(10) 継続的にスポーツに親しんでいる	(11) 災害に対する備えをしている	(12) 資源化や分別でごみの減量を行っている	(13) 自然や環境に配慮した暮らしをしている	(14) 地元産の農畜産物を積極的に購入している	(15) 地元の商店でできるだけ買物をしている	(16) 様々なことにチャレンジしている
令和6年男性	2.72	2.91	2.93	2.57	2.16	2.21	2.04	1.81	2.26	2.33	2.39	2.90	2.68	2.76	2.62	2.33
令和3年男性	2.72	2.95	2.94	2.66	2.22	2.27	2.02	1.79	2.22	2.32	2.38	3.04	2.84	2.82	2.78	2.35
上段(R6男性)から下段(R3男性)を引いた差分	0.00	-0.04	-0.01	-0.09	-0.06	-0.06	0.02	0.02	0.03	0.01	0.01	-0.15	-0.17	-0.06	-0.16	-0.02
男性の検定結果												★	★		★	
令和6年女性	2.71	3.04	2.99	2.53	2.09	2.13	1.91	1.65	2.43	2.08	2.41	3.10	2.78	2.96	2.64	2.22
令和3年女性	2.72	3.05	2.98	2.55	2.13	2.26	1.90	1.70	2.41	2.05	2.39	3.23	2.94	3.11	2.84	2.28
上段(R6女性)から下段(R3女性)を引いた差分	-0.02	-0.01	0.01	-0.02	-0.04	-0.13	0.01	-0.05	0.01	0.02	0.02	-0.13	-0.16	-0.15	-0.20	-0.06
女性の検定結果						★						★	★	★	★	

※検定結果は5%水準で統計的に差異が見られる項目に「★」がついている

- 18～39歳で65歳以上と比べて平均得点が統計的に高い項目は「(2) 違いを認め合い」「(3) 子どもの権利について」「(4) 様々なことに関心を」「(9) 音楽や芸術に触れ」「(16) 様々なことにチャレンジャー」などである。
- 65歳以上で18～39歳と比べて平均得点が統計的に高い項目は「(1) 健康づくりに継続的に」「(6) 地域の人と積極的に」「など地域に関わること、」「(12) 資源化や分別でごみの減量を」「など環境分野や」「(14) 地元産の農畜産物を」「など買物に関することである。
- 18～39歳は、65歳以上の層よりも、人権や多様性の尊重、文化芸術活動に取り組んでいる一方、地域との関わりなど、松本市の土着の文化にふれる機会が少ないこと、環境問題（ごみの減量や環境への配慮）への取組みが低いことが伺える。

(4)年代別 市民の日常生活における行動・活動の平均得点



18～39歳で高い項目

※検定結果は18～39歳で65歳以上と比べて5%水準で統計的に差異が見られる項目に「★」がついている

- 年代別に経年でみると、統計的検定の結果18～39歳及び65歳以上でともに低下しているのは「(12) 資源化や分別でごみの減量をー」「(13) 自然や環境に配慮したー」である。
- 18～39歳では「(9) 音楽や芸術に触れー」で上昇している。
- 65歳以上では「(10) 継続的にスポーツにー」が上昇しているが、「(6) 地域の人と積極的に関わりー」「(14) 地元産の農畜産物ー」「(15) 地元の商店でー」など地域との関わりや地元での購入の項目で低下傾向にある。

(5)年代別 市民の日常生活における行動・活動の平均得点の経年比較

		(1) 健康づくりに継続的に取り組んでいる	(2) 違いを認め合い、個性を大切にしている	(3) 子どもの権利について理解し、尊重している	(4) 様々なことに関心を持ち、学んでいる	(5) 生涯学習や文化活動に取り組んでいる	(6) 地域の人と積極的に関わりを持っている	(7) 地域で行われている活動やボランティア活動に参加している	(8) 地域の伝統や文化の保存、継承に取り組んでいる	(9) 音楽や芸術に触れ、親しんでいる	(10) 継続的にスポーツに親しんでいる	(11) 災害に対する備えをしている	(12) 資源化や分別でごみの減量を行っている	(13) 自然や環境に配慮した暮らしをしている	(14) 地元産の農畜産物を積極的に購入している	(15) 地元の商店でできるだけ買物をしている	(16) 様々なことにチャレンジしている
18～39歳	R6年の18～39歳	2.61	3.13	3.03	2.67	2.19	1.97	1.73	1.61	2.54	2.18	2.38	2.79	2.60	2.69	2.26	2.34
	R3年の18～39歳	2.59	3.16	2.99	2.75	2.15	2.07	1.72	1.58	2.37	2.16	2.31	2.97	2.76	2.75	2.43	2.49
	上段(R6年18～39歳)から下段(R3年18～39歳)を引いた差分	0.01	-0.03	0.04	-0.08	0.04	-0.10	0.01	0.03	0.18	0.02	0.07	-0.17	-0.17	-0.05	-0.16	-0.14
	18～39歳の検定結果						令和3年より上昇			★			★	★			
65歳以上	R6年の65歳以上	2.90	2.89	2.88	2.46	2.13	2.32	2.06	1.79	2.22	2.26	2.44	3.15	2.86	3.00	2.91	2.10
	R3年の65歳以上	2.92	2.89	2.96	2.55	2.24	2.47	2.10	1.85	2.30	2.06	2.43	3.33	3.07	3.14	3.16	2.14
	上段(R6年65歳以上)から下段(R3年65歳以上)を引いた差分	-0.02	-0.00	-0.08	-0.09	-0.11	-0.16	-0.04	-0.05	-0.08	0.19	0.01	-0.18	-0.21	-0.14	-0.25	-0.04
	65歳以上の検定結果						★				★		★	★	★	★	

※検定結果は5%水準で統計的に差異が見られる項目に「★」がついている

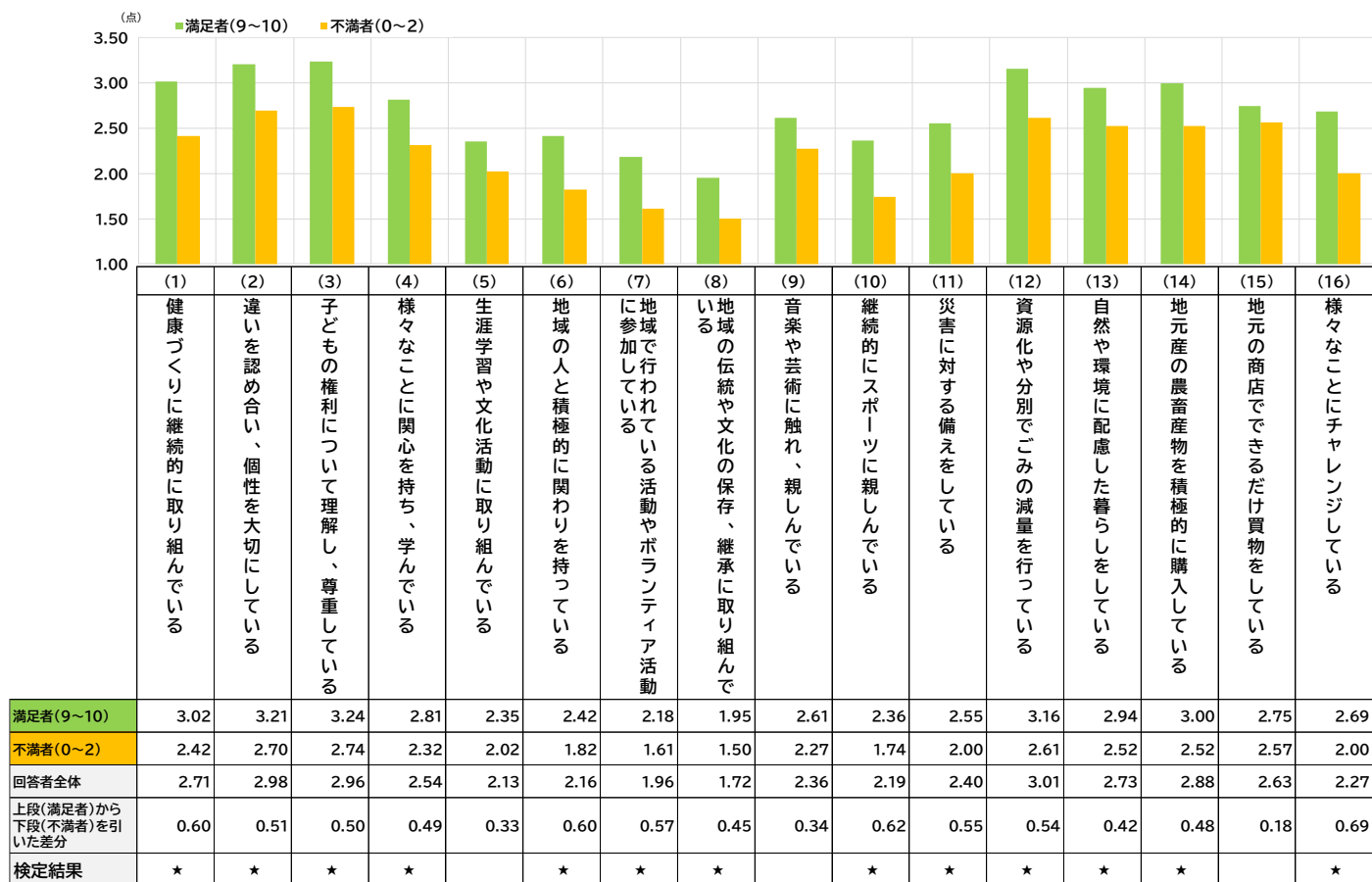
令和3年より上昇

18～39歳及び65歳以上でともに低下

- 「満足者」と「不満者」における得点を比較すると、多くの施策において満足している者の方が高い。
- 得点差が最も大きいのは「(16) 様々なことにチャレンジャー」であり、次いで「(10) 継続的にスポーツに一」である。

(6)生活満足別 市民の日常生活における行動・活動の平均得点

※現在の暮らしの満足度について0（とても不満）～10点（とても満足）で聞いた。
9～10と回答した者を「満足者」、0～2点と回答した者を「不満者」とした

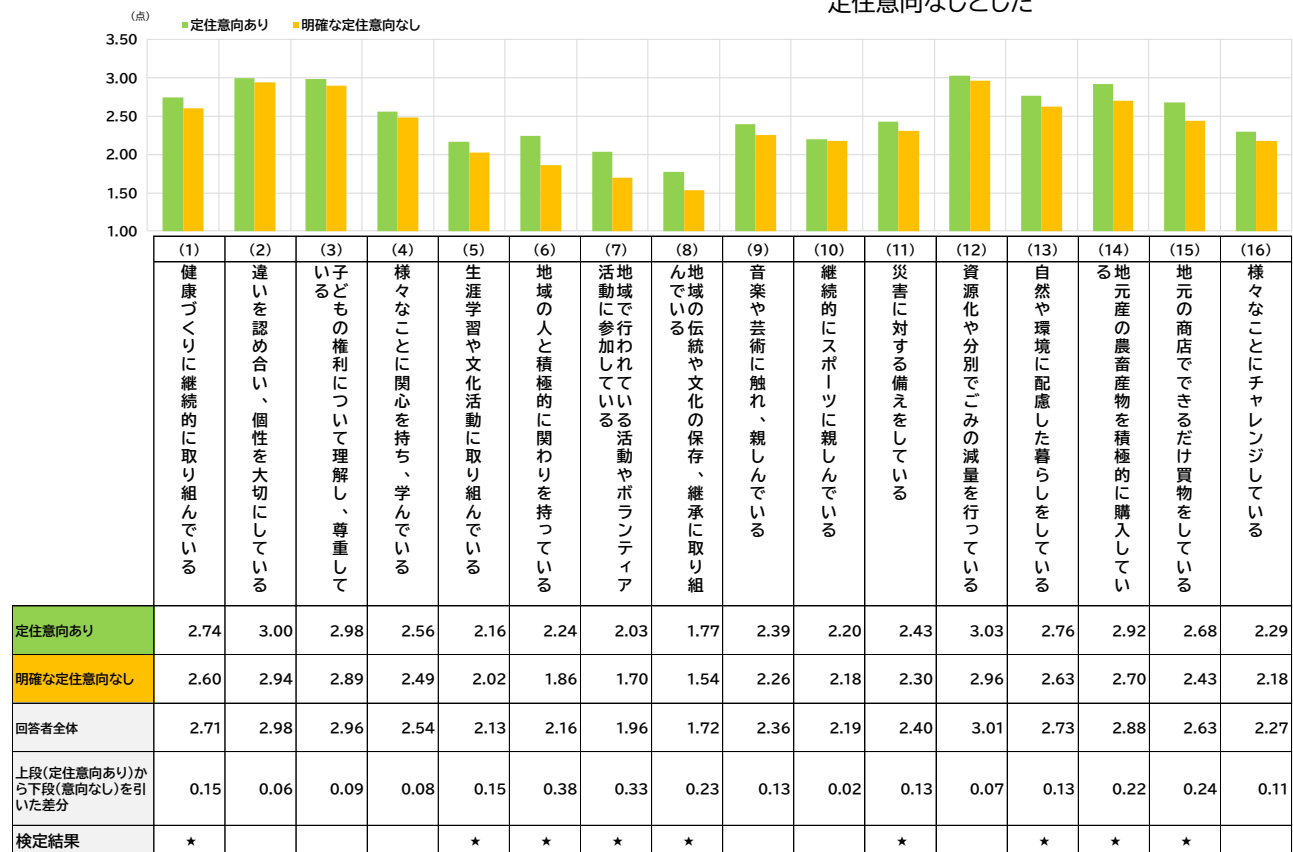


※検定結果は5%水準で統計的に差異が見られる項目に「★」がついている

- 「永住したい」「当分住み続けたい」など定住意向が強い層は、定住意向が弱い層と比較し、16項目すべてにおいて得点が高くなっている。
- 特に「(6) 地域の人と積極的に関わりー」「(7) 地域で行われている活動やボランティア活動にー」「(8) 地域の伝統や文化の保存、継承ー」「(14) 地元産の農畜産物をー」「(15) 地元の商店でー」は定住意向が強い層が、顕著に得点が高くなっている。定住意向が強い層ほど、地域とのつながりをつくる行動をしている傾向にあると言える。

(7)定住意向別 市民の日常生活における行動・活動の平均得点

※松本市に住み続けたいかという設問に対し、「永住したい」「当分住み続けたい」と回答した者を定住意向ありとし、「どちらともいえない」「転出したい」と回答した者を明確な定住意向なしとした

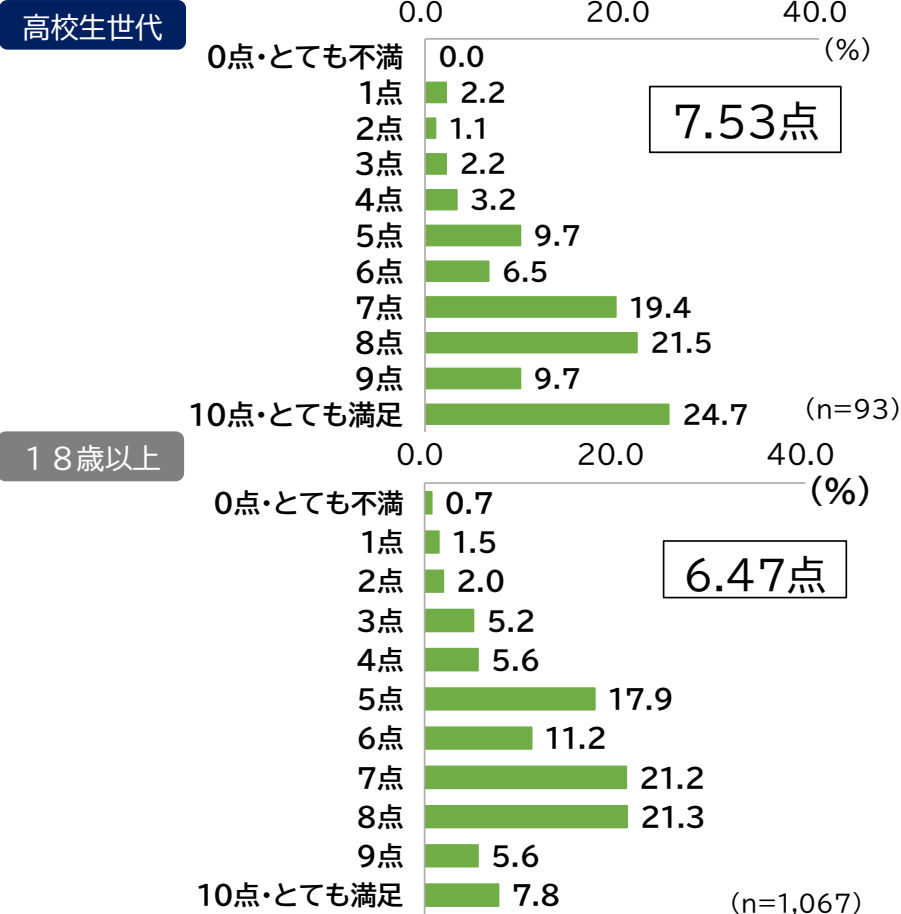


※検定結果は5%水準で統計的に差異が見られる項目に「★」がついている

4. 幸福度・暮らしの満足度・暮らしの状況等の分析

- 現在の暮らしの満足度をみると、高校生世代は7.53点、18歳以上は6.47点であり、高校生世代の方が高い。
- 18歳以上において、属性別にみると障がいのある者及びその同居者や経済的に生活が苦しい層、定住意向が低い者で暮らしの満足度が低い。

(1)現在の暮らしの満足度



属性別 現在の暮らしの満足度

18歳以上

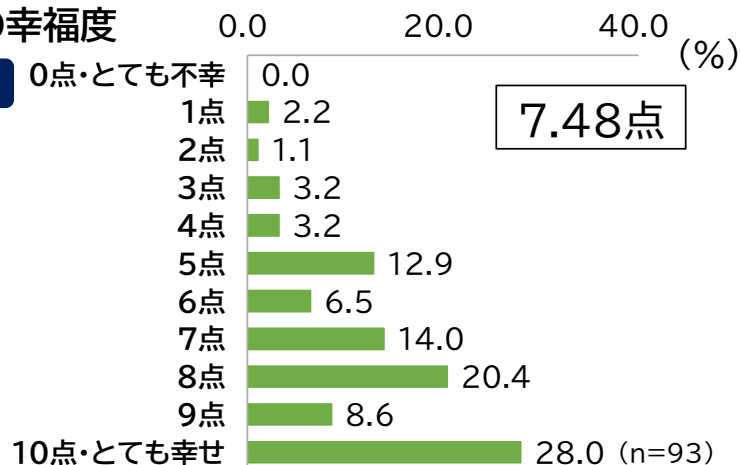
		回答者数 (人)	暮らしの満足度 (点)	回答者全体との 差分(点)
性別	男性	437	6.57	0.10
	女性	608	6.41	-0.07
	その他	12	5.83	-0.64
年代	10・20歳代	100	6.79	0.32
	30歳代	151	6.60	0.13
	40歳代	192	6.41	-0.07
	50歳代	235	6.40	-0.07
	60歳代	233	6.52	0.04
	70歳以上	150	6.27	-0.20
職業	正規の社員・従業員	416	6.61	0.13
	非正規の社員・従業員(パート・アルバイト等)	245	6.30	-0.17
	会社経営者	16	6.44	-0.03
	自営業・個人事業主	72	6.75	0.28
	農林漁業従事者	20	7.10	0.63
	学生	22	7.45	0.98
	主婦・主夫	107	6.64	0.16
	仕事はしていない	142	6.02	-0.45
同居家族	75歳以上の者及び同居家族	264	6.32	-0.15
	介護を必要とする者及び同居家族	51	6.08	-0.39
	身体・知的・精神などの障がいのある者及び同居家族	117	5.92	-0.55
	いずれもない	728	6.59	0.12
同居している子ども	幼稚園・保育園・認定こども園に入園する前	52	6.75	0.28
	幼稚園・保育園・認定こども園に通っている	82	6.74	0.27
	小学校に通っている	114	6.73	0.26
	中学校に通っている	71	6.23	-0.25
	高校に通っている	76	6.25	-0.22
	高校生以下の子どもの保護者ではない	704	6.48	0.01
	その他	18	6.50	0.03
経済的ゆとり	ゆとりがある	127	7.96	1.49
	ゆとりはないが、生活に困っていない	726	6.80	0.33
	生活は苦しい	162	4.87	-1.60
	生活は大変苦しい	51	3.20	-3.28
定住意向	永住したい	455	6.88	0.41
	当分住み続けたい	383	6.64	0.16
	どちらともいえない	169	5.50	-0.98
	転出したい	43	5.14	-1.33
	その他	7	3.43	-3.04

※回答者全体の得点6.47点よりも+0.5点は赤色、-0.5点は青色

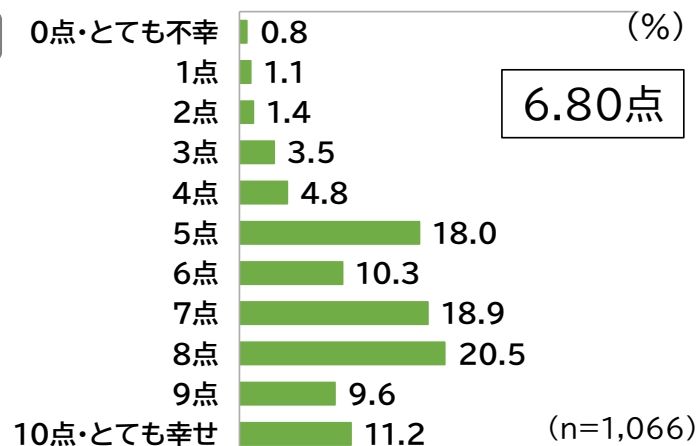
- 幸福度をみると、高校生世代は7.48点、18歳以上は6.80点であり、高校生世代の方が高い。
- 18歳以上において、属性別にみると仕事をしていない者、要介護者・障がいのある者及びその同居者や経済的に生活が苦しい者、定住意向が低い者で幸福度が低い。

(2)現在の幸福度

高校生世代



18歳以上



属性別 現在の幸福度

18歳以上

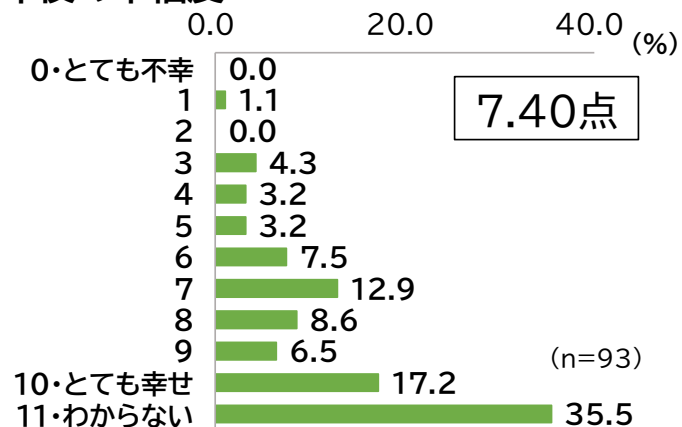
		回答者数 (人)	主観的幸福 (点)	回答者全体 との差分(点)
性別	男性	437	6.84	0.05
	女性	607	6.77	-0.03
	その他	12	6.33	-0.46
年代	10・20歳代	100	6.86	0.06
	30歳代	151	7.13	0.33
	40歳代	193	6.77	-0.03
	50歳代	234	6.63	-0.17
	60歳代	232	6.92	0.12
	70歳以上	150	6.55	-0.25
職業	正規の社員・従業員	415	6.86	0.06
	非正規の社員・従業員(パート・アルバイト等)	246	6.82	0.03
	会社経営者	16	7.25	0.45
	自営業・個人事業主	71	6.97	0.18
	農林漁業従事者	20	7.25	0.45
	学生	22	7.23	0.43
	主婦・主夫	107	7.22	0.43
	仕事はしていない	142	6.13	-0.67
同居家族	75歳以上の者及び同居家族	264	6.47	-0.33
	介護を必要とする者及び同居家族	51	6.10	-0.70
	身体・知的・精神などの障がいのある者及び同居家族	117	6.19	-0.61
	いずれもいない	727	6.99	0.19
同居している子ども	幼稚園・保育園・認定こども園に入園する前	52	7.63	0.84
	幼稚園・保育園・認定こども園に通っている	82	7.51	0.72
	小学校に通っている	113	7.20	0.41
	中学校に通っている	72	6.72	-0.07
	高校に通っている	77	6.58	-0.21
	高校生以下の子どもの保護者ではない	703	6.70	-0.10
経済的ゆとり	ゆとりがある	126	8.02	1.23
	ゆとりはないが、生活に困っていない	727	7.11	0.31
	生活は苦しい	161	5.29	-1.50
	生活は大変苦しい	51	4.10	-2.70
定住意向	永住したい	455	7.28	0.48
	当分住み続けたい	382	6.85	0.06
	どちらともいえない	168	5.86	-0.94
	転出したい	43	5.47	-1.33
	その他	7	3.71	-3.08

※回答者全体の得点6.80点よりも+0.5点は赤色、-0.5点は青色 29

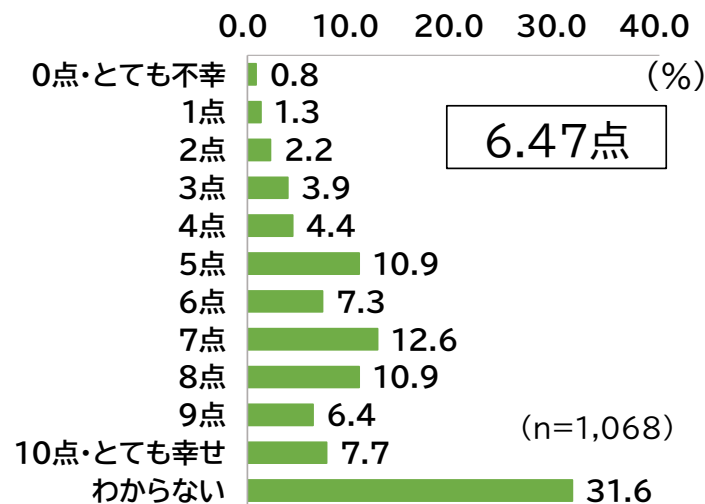
- 5年後の幸福度をみると、高校生世代は7.40点、18歳以上は6.47点である。18歳以上で現在の幸福度から0.33点下がっている。
- 18歳以上において、属性別にみると70歳以上、75歳以上・要介護者及びその同居者や経済的に生活が苦しい者、定住意向が低い者などで5年後の幸福度が低い。

(3)今から5年後の幸福度

高校生世代



18歳以上



属性別 今から5年後の幸福度

18歳以上

		回答者数 (人)	5年後幸福度 (点)	回答者全体との 差分(点)
性別	男性	312	6.48	0.01
	女性	400	6.47	0.00
	その他	9	5.44	-1.02
年代	10・20歳代	74	6.97	0.50
	30歳代	104	6.88	0.42
	40歳代	135	6.67	0.20
	50歳代	162	6.27	-0.20
	60歳代	166	6.28	-0.19
	70歳以上	84	5.87	-0.60
職業	正規の社員・従業員	305	6.58	0.11
	非正規の社員・従業員(パート・アルバイト等)	165	6.42	-0.04
	会社経営者	13	7.77	1.30
	自営業・個人事業主	54	6.63	0.16
	農林漁業従事者	8	8.13	1.66
	学生	16	7.06	0.59
	主婦・主夫	71	6.72	0.25
	仕事はしていない	85	5.39	-1.08
同居家族	75歳以上の者及び同居家族	161	5.70	-0.77
	介護を必要とする者及び同居家族	32	5.25	-1.22
	身体・知的・精神などの障がいのある者及び同居家族	82	6.04	-0.43
	いずれもない	505	6.75	0.28
同居している子ども	幼稚園・保育園・認定こども園に入園する前	35	7.29	0.82
	幼稚園・保育園・認定こども園に通っている	59	7.42	0.95
	小学校に通っている	86	7.43	0.96
	中学校に通っている	54	6.69	0.22
	高校に通っている	50	6.30	-0.17
	高校生以下の子どもの保護者ではない	475	6.25	-0.22
	その他	14	5.86	-0.61
経済的ゆとり	ゆとりがある	96	8.10	1.63
	ゆとりはないが、生活に困っていない	493	6.71	0.24
	生活は苦しい	109	4.88	-1.59
定住意向	生活は大変苦しい	33	3.33	-3.14
	永住したい	301	6.94	0.47
	当分住み続けたい	285	6.46	-0.01
	どちらともいえない	107	5.50	-0.96
	転出したい	27	5.78	-0.69
	その他	4	2.50	-3.97

※回答者全体の得点6.47点よりも+0.5点は赤色、-0.5点は青色 30

- 18歳以上において「幸福度」と「松本市版Well-Being指標（※）」との相関係数が大きい順にみると、最も関連が強いのは「（14）心地のいい居場所が一」であり、次いで「（13）自分のことを好ましくー」「（16）精神的に健康ー」「（15）身体的に健康ー」となっている。

以下のように得点化し回答者数で除し、平均得点を算出している

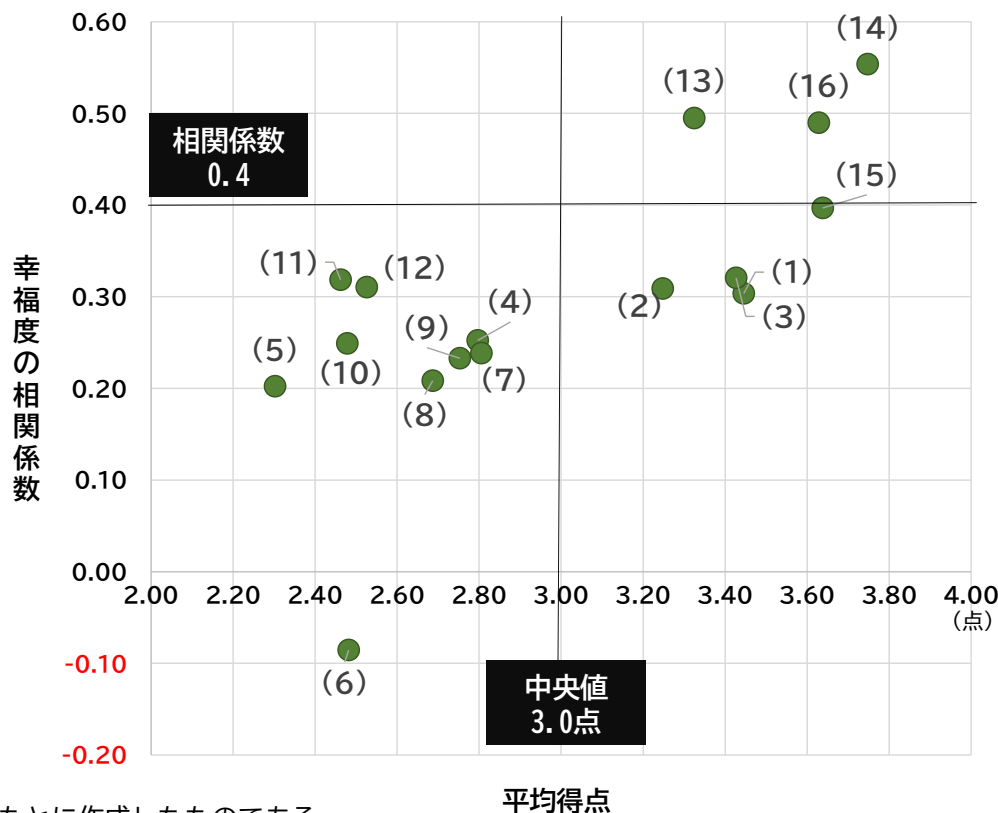
そのため、中央値は3.0点である

- ・非常にあてはまる＝5点
- ・ある程度あてはまる＝4点
- ・どちらとも言えない＝3点
- ・あまりあてはまらない＝2点
- ・全くあてはまらない＝1点

（4）「幸福度」と「松本市版Well-Being指標」との関連

18歳以上

			平均得点n	幸福度との相関係数
(1)	地域とのつながり	同じ地域(集落)に住む人たちを信頼している	3.45	0.30
(2)		困ったときに相談できる人が身近にいる	3.25	0.31
(3)		この地域(集落)に対して愛着を持っている	3.43	0.32
(4)	多様性と寛容性	この地域(集落)には、どんな人の意見でも受け入れる雰囲気がある	2.80	0.25
(5)		見知らぬ他者であっても信頼する	2.30	0.20
(6)		地域(集落)の人が自分をどう思っているかが気になる	2.48	-0.09
(7)		女性が活躍しやすい雰囲気がある	2.81	0.24
(8)	文化・芸術	若者が活躍しやすい雰囲気がある	2.69	0.21
(9)		文化・芸術・芸能が盛んで誇らしい	2.75	0.23
(10)	雇用・所得	やりたい仕事を見つけやすい	2.48	0.25
(11)		適切な収入を得るための機会がある	2.46	0.32
(12)	事業創造	新たな事に挑戦・成長するための機会がある	2.53	0.31
(13)	自己効力感	自分のことを好ましく感じる	3.32	0.49
(14)	住宅環境	心地のいい居場所が自宅や地域の中にある	3.75	0.55
(15)	健康状態	身体的に健康な状態である	3.64	0.40
(16)		精神的に健康な状態である	3.63	0.49



※国が示すWell-Being指標の生活環境、地域の人間関係、自分らしい生き方の設問をもとに作成したものである

※幸福度との相関係数が0.4以上が赤色。相関係数の見方は4ページ参照

- 高校生世代において「幸福度」と「松本市版Well-Being指標（※）」との相関係数が大きい順にみると、最も関連が強いのは「（１７）精神的に健康―」であり、次いで「（１４）自分のことを好ましく―」で「（１５）心地のいい居場所が―」「（１６）身体的に健康―」「（３）この地域（集落）に対して愛着―」「（１）同じ地域（集落）に住む人たちを信頼―」となっている。

以下のように得点化し回答者数で除し、平均得点を算出している

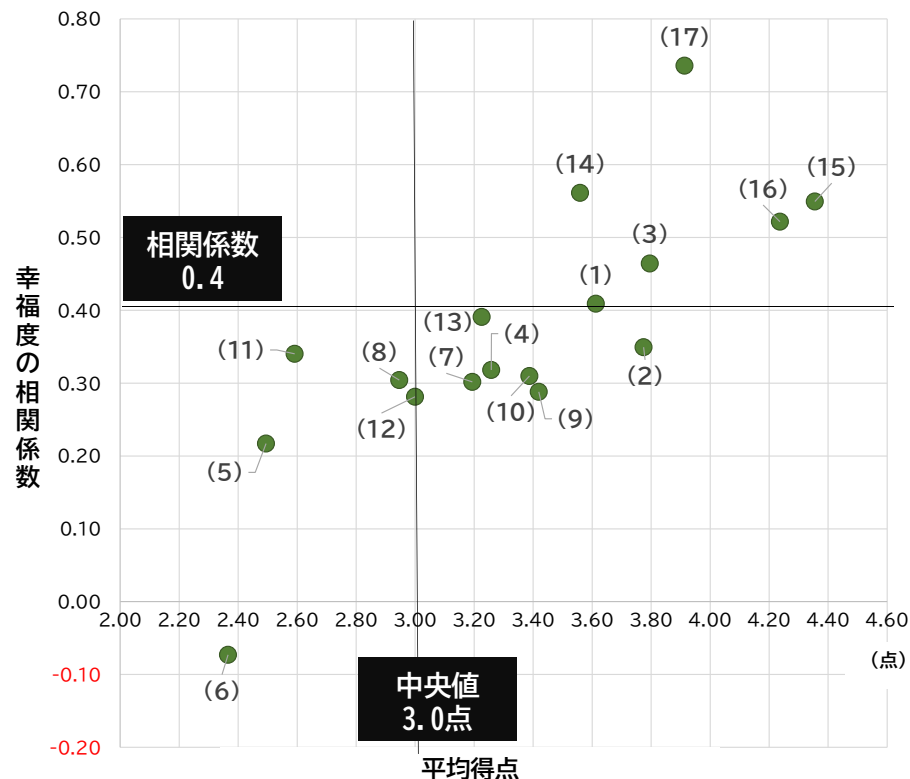
そのため、中央値は３．０点である

- ・非常にあてはまる＝５点
- ・ある程度あてはまる＝４点
- ・どちらとも言えない＝３点
- ・あまりあてはまらない＝２点
- ・全くあてはまらない＝１点

（５）「幸福度」と「松本市版Well-Being指標」との関連

高校生世代

			平均得点	幸福度との相関係数
(1)	地域とのつながり	同じ地域(集落)に住む人たちを信頼している	3.61	0.41
(2)		困ったときに相談できる人が身近にいる	3.77	0.35
(3)		この地域(集落)に対して愛着を持っている	3.80	0.46
(4)	多様性と寛容性	この地域(集落)には、どんな人の意見でも受け入れる雰囲気がある	3.26	0.32
(5)		見知らぬ他者であっても信頼する	2.49	0.22
(6)		地域(集落)の人が自分をどう思っているかが気になる	2.37	-0.07
(7)		女性が活躍しやすい雰囲気がある	3.19	0.30
(8)	文化・芸術	若者が活躍しやすい雰囲気がある	2.95	0.30
(9)		文化・芸術・芸能が盛んで誇らしい	3.42	0.29
(10)	教育機会の豊かさ	学びたいことを学べる機会がある	3.39	0.31
(11)	雇用・所得	やりたい仕事を見つけやすい	2.59	0.34
(12)		適切な収入を得るための機会がある	3.00	0.28
(13)	事業創造	新たな事に挑戦・成長するための機会がある	3.23	0.39
(14)	自己効力感	自分のことを好ましく感じる	3.56	0.56
(15)	住宅環境	心地のいい居場所が自宅や地域の中にある	4.35	0.55
(16)	健康状態	身体的に健康な状態である	4.24	0.52
(17)		精神的に健康な状態である	3.91	0.74



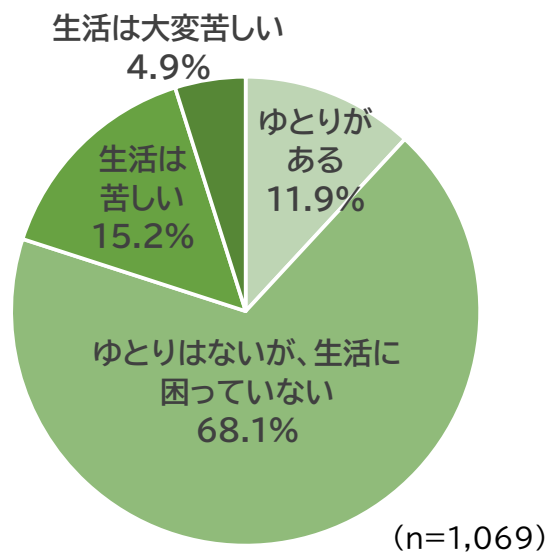
※国が示すWell-Being指標の生活環境、地域の間人関係、自分らしい生き方の設問をもとに作成したものである

※幸福度との相関係数が0.4以上が赤色。相関係数の見方は4ページ参照

- 現在の経済状況をみると、「ゆとりがある」「ゆとりはないが、生活に困っていない」を合わせた割合は80.0%である。経済的に生活に苦しさを感じている層は2割である。
- 属性別にみると、回答者数は少ないが性別で「その他・答えたくない」と回答した者や高校生に通っている子どもがいる世帯で経済的な苦しさを感じている割合が高い。

(6)現在の経済状況

18歳以上



属性別 現在の経済状況

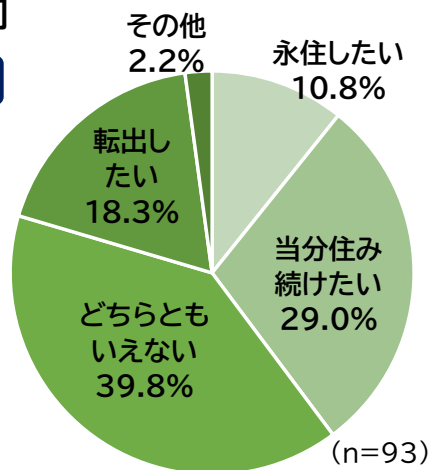
属性別 現在の経済状況		0% 10% 20% 30% 40% 50% 60% 70% 80% 90% 100%			
凡例		ゆとりがある	ゆとりはないが、生活に困っていない	生活は苦しい	生活は大変苦しい
年代	全体(n=1,069)	11.9	68.1	15.2	4.9
	10・20歳代(n=100)	13.0	67.0	13.0	7.0
	30歳代(n=151)	12.6	67.5	15.2	4.6
	40歳代(n=193)	9.3	66.8	17.1	6.7
	50歳代(n=234)	10.7	65.0	17.1	7.3
	60歳代(n=234)	13.7	73.9	10.3	2.1
	70歳以上(n=151)	12.6	67.5	17.9	2.0
性別	男性(n=437)	14.9	65.2	15.8	4.1
	女性(n=610)	9.8	70.7	14.6	4.9
	その他・答えたくない(n=12)	0.0	41.7	25.0	33.3
同居家族	75歳以上の者及び同居家族(n=264)	8.7	72.3	14.4	4.5
	介護を必要とする者及び同居家族(n=52)	3.8	75.0	13.5	7.7
	身体・知的・精神などの障がいのある者及び同居家族(n=117)	6.0	66.7	17.1	10.3
	いずれもない(n=730)	13.8	66.8	15.3	4.0
同居している子ども	幼稚園・保育園・認定こども園に入園する前(n=52)	9.6	61.5	23.1	5.8
	幼稚園・保育園・認定こども園に通っている(n=82)	12.2	67.1	17.1	3.7
	小学校に通っている(n=114)	10.5	71.1	13.2	5.3
	中学校に通っている(n=72)	6.9	66.7	20.8	5.6
	高校に通っている(n=77)	3.9	63.6	24.7	7.8
	高校生以下の子どもの保護者ではない(n=705)	13.5	68.8	13.3	4.4

5. 定住意向や転入の経緯に関する分析

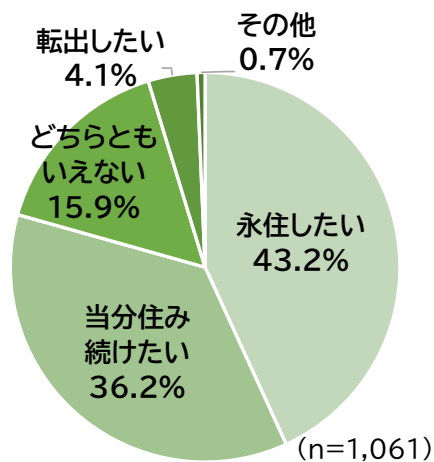
- 定住意向をみると、高校生世代で「永住したい」は10.8%、「当分住み続けたい」は29.0%にとどまる。
- 18歳以上では「永住したい」は43.2%、「当分住み続けたい」は36.2%である。属性別にみると、年代が上がるほど定住意向が高い傾向にある。

(1) 定住意向

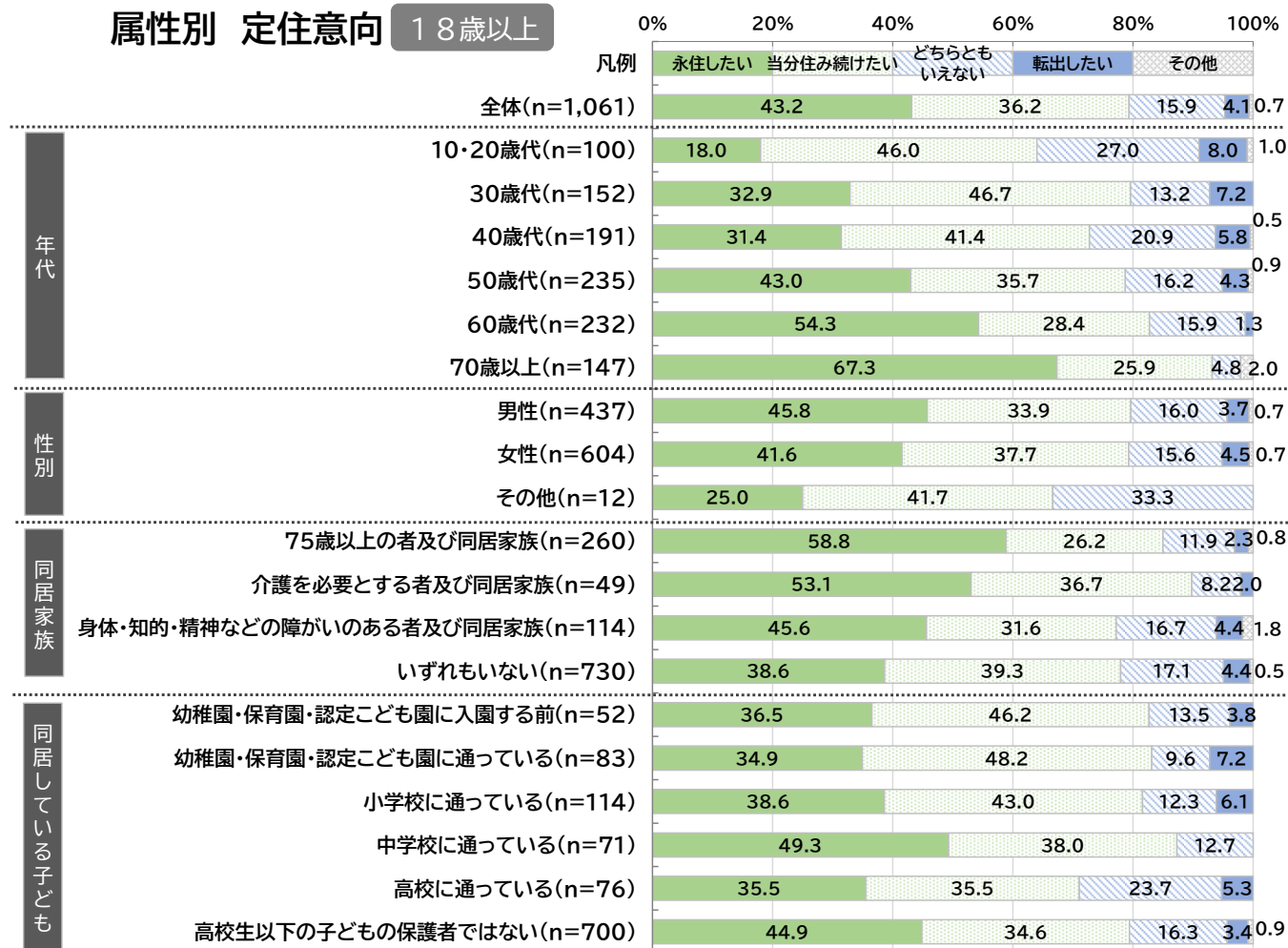
高校生世代



18歳以上

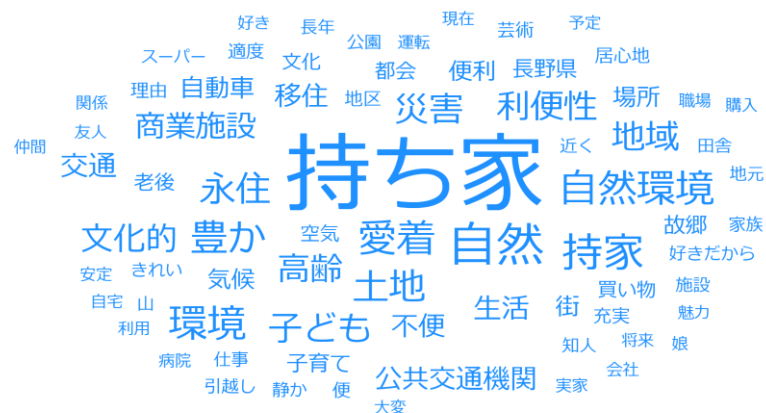


属性別 定住意向 18歳以上



- 18歳以上のアンケート回答者の自由記述を分析したところ、「永住したい」「当分住み続けたい」理由としては、「生まれ故郷で、住み続けているから」「家(持ち家)があるから」「自然環境に恵まれているから」などの意見が見られる。
- 「転出・どちらともいえない」理由としては、「転勤があるため」「住んでいて不便を感じる事が多々あるため」「車がないと生活ができない」「地元ではないから愛着はないし田舎で不便」などの声が見られる。

【回答対象者:永住したい・当分住み続けたい】 そのように思う理由(自由記述) 493件

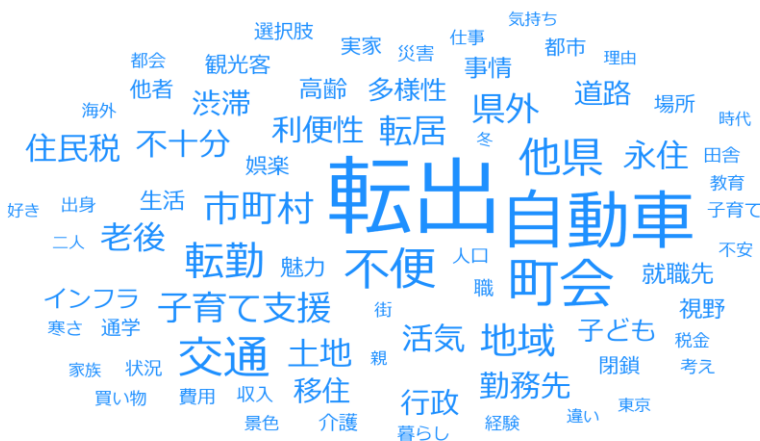


スコアが高い単語を選び出し、その値に応じた大きさと色で図示
(スコアは、出現回数だけでなく、重要度を加味した値)

【スコアの算出方法】テキストマイニングで算出するスコアは、出現回数だけでなく、重要度を加味した値で、その単語がどれだけ固有かを示したものの「単語の出現回数」×その単語がどれくらい珍しいかを示す「IDF(t) = log(文書全体の数 ÷ 単語tを含む文書の数)」で算出する

単語	出現回数
自然	42
環境	38
生活	27
子ども	24
場所	24
持ち家	23
仕事	23
土地	18
地域	18
豊か	17
愛着	14
災害	14
便利	14
街	13
理由	13
買い物	12
近く	12
不便	10
空気	9
移住	8
子育て	8
家族	8
高齢	7
交通	7
都会	7
地元	7
永住	6
利便性	6
文化	6
充実	6
好きだから	6
田舎	6
山	6
友人	6
実家	6
関係	6
大変	6
持家	5
自然環境	5
自動車	5
気候	5
きれい	5
静か	5
スーパー	5
安定	5
好き	5

【回答対象者:転出・どちらともいえない】 そのように思う理由(自由記述) 141件



スコアが高い単語を選び出し、その値に応じた大きさと色で図示
(スコアは、出現回数だけでなく、重要度を加味した値)

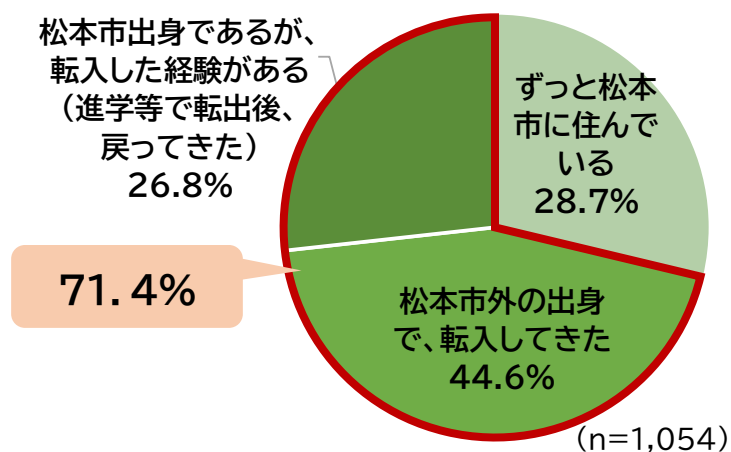
単語	出現回数
不便	13
自動車	12
地域	12
生活	10
仕事	10
転出	9
交通	9
場所	9
子ども	7
実家	7
転勤	6
土地	6
渋滞	6
魅力	6
他県	5
道路	5
事情	5
状況	5
不安	5

※自由記述について、AIテキストマイニングツール「ユーザーローカル」(<https://textmining.userlocal.jp/>)を用いて分析

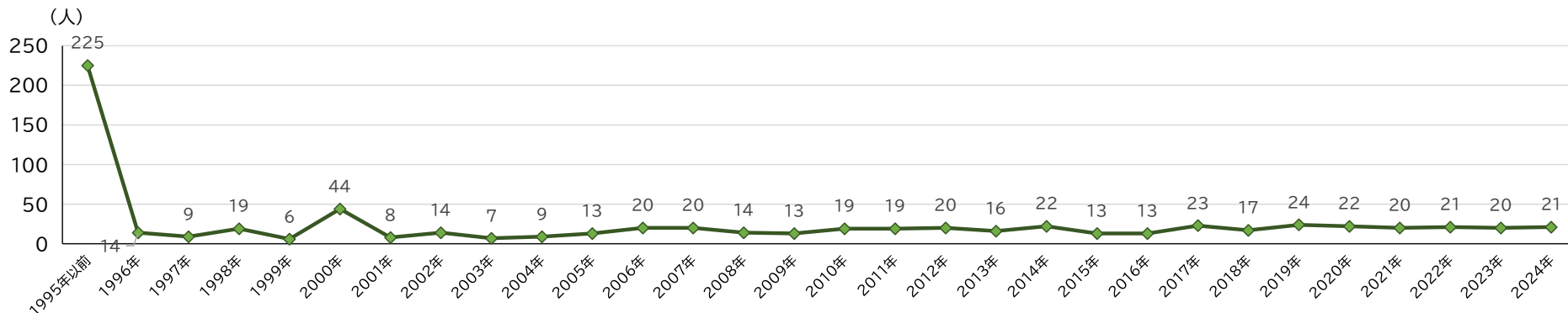
- 18歳以上のアンケート回答者に、転入した経験を聞いたところ、71.4%は転入した経験を持っている。
- 松本市に転入経験がある者に、松本市への転入意向を聞いたところ「できれば松本という地域に住みたくて転入した」と回答した者は24.9%であり、多くはこだわりなく転入してきている。

(2) 市外に生まれ、転入した経験

18歳以上



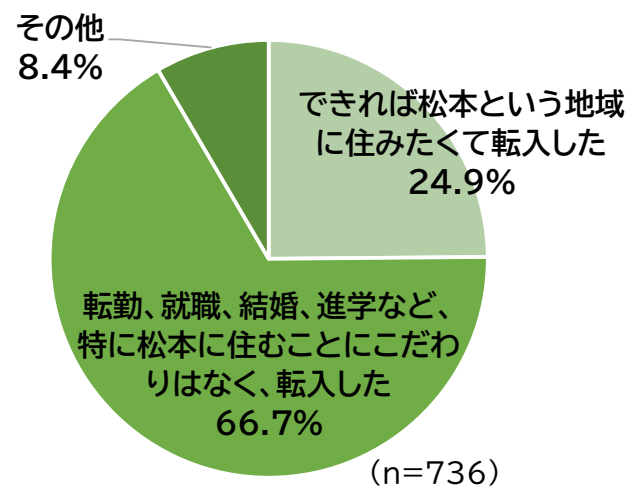
(3) 松本市への転入時期



(4) 【回答対象: 松本市に転入経験がある者】

18歳以上

転入前、松本市に住みたいという意向があったか

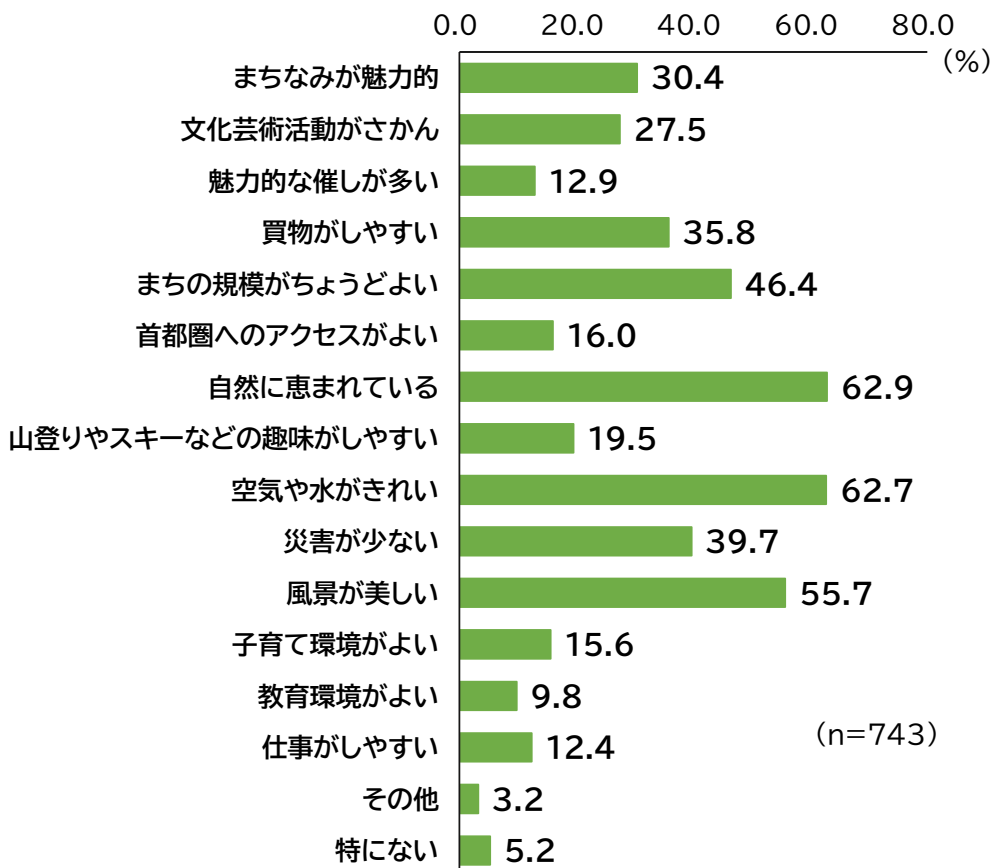


- 松本市に転入経験がある者に、転入後に感じた松本の印象や魅力を聞いたところ「自然に恵まれている」「空気や水がきれい」「風景が美しい」など自然環境に関して印象や魅力を感じている傾向にある。
- 年代別にみると、自然環境に関して印象や魅力を感じている傾向はどの世代においても高い。18～39歳の若い世代では、「まちの規模がちょうどよい」「買物がしやすい」なども印象や魅力として挙がっている。

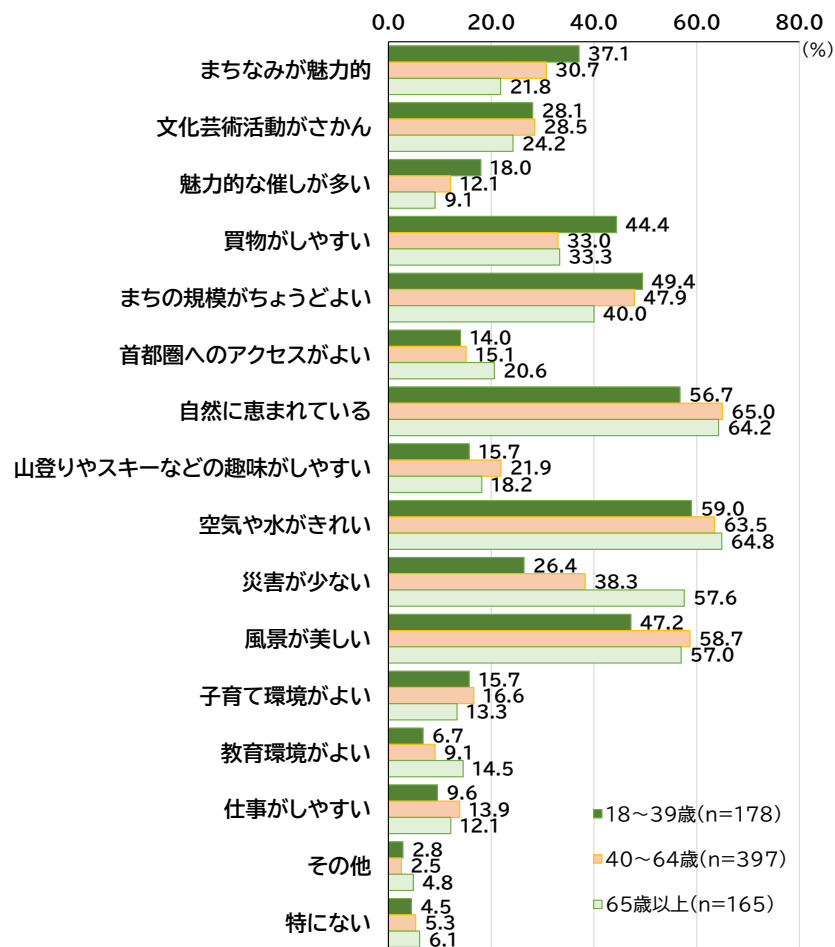
(5)【回答対象：松本市に転入経験がある者】

転入後に感じた松本市の印象や魅力[複数回答]

18歳以上



年代別 転入後に感じた松本市の印象や魅力[複数回答]

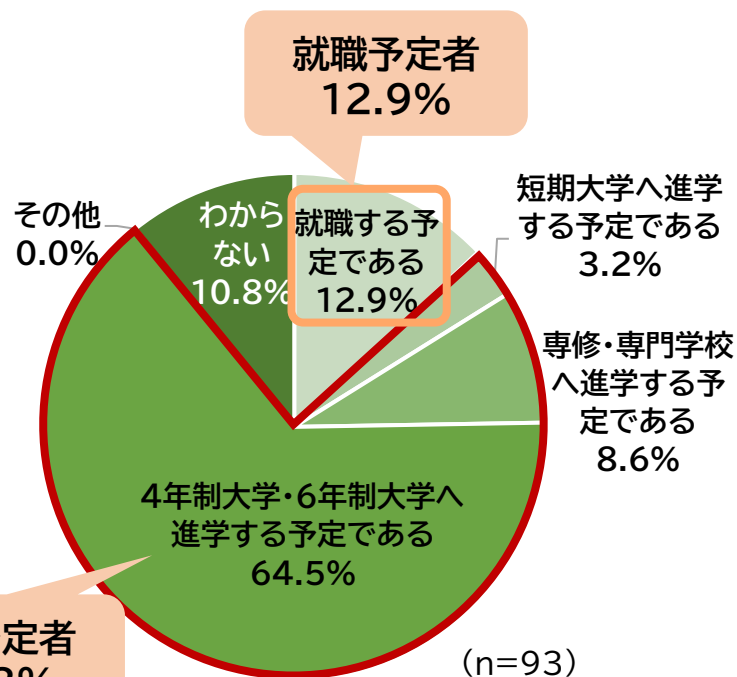


6. 高校生世代の卒業後の進路や地元就職意向等の分析

- 高校生世代の卒業後の進路をみると、就職予定者は12.9%、進学予定者が76.3%である。
- 就職予定者が、就職を希望する地域としては「松本市」が58.3%である。

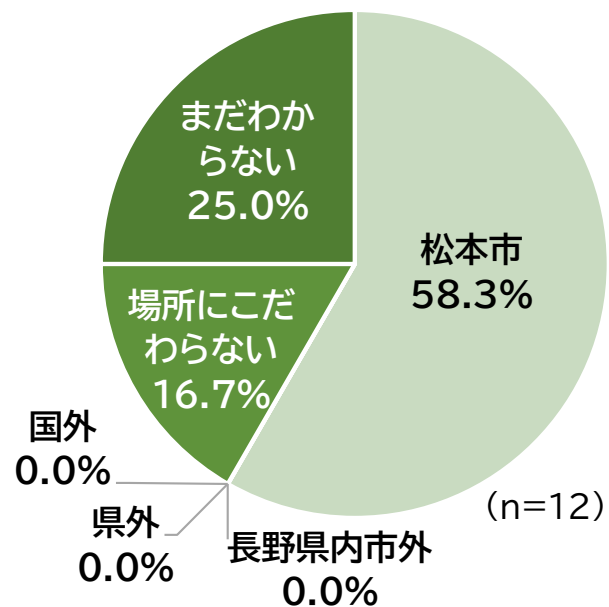
(1) 高校卒業後の進路

高校生世代



(2) 【回答対象: 就職する予定であると回答した者】 就職を希望する地域

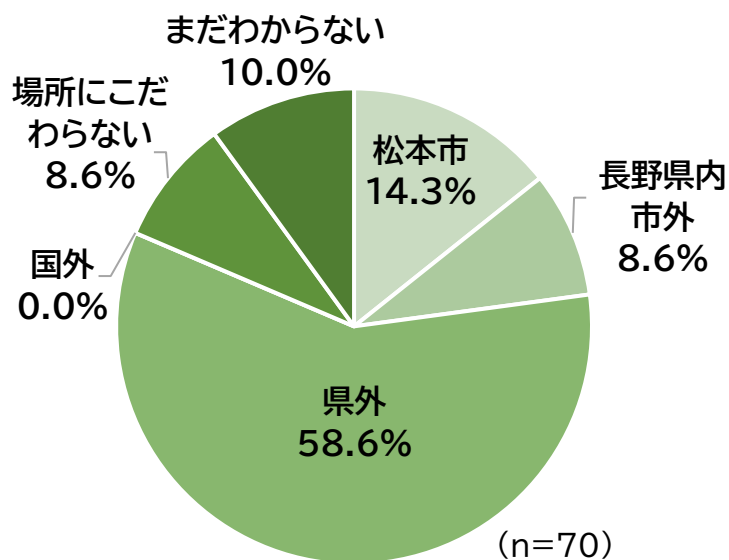
高校生世代



- 進学予定者が、進学を希望する地域としては「県外」が58.6%と最も多く、「松本市」は14.3%にとどまる。
- 進学先を卒業した後に就職を希望する地域として「松本市」を希望する割合は17.2%であり、「まだわからない」「場所にこだわらない」という回答割合が高い。

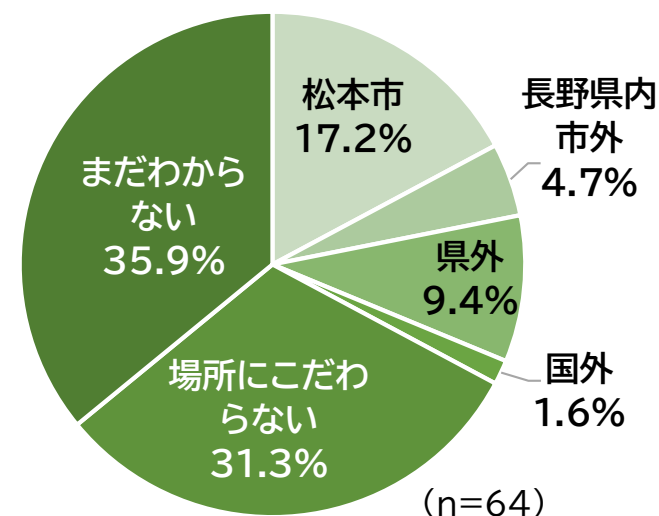
(3)【回答対象:進学する予定であると回答した者】
高校卒業後に進学を希望する地域

高校生世代



(4)【回答対象:進学する予定であると回答した者】
高校卒業後に進学を希望する者が、進学先を卒業した後に就職を希望する地域

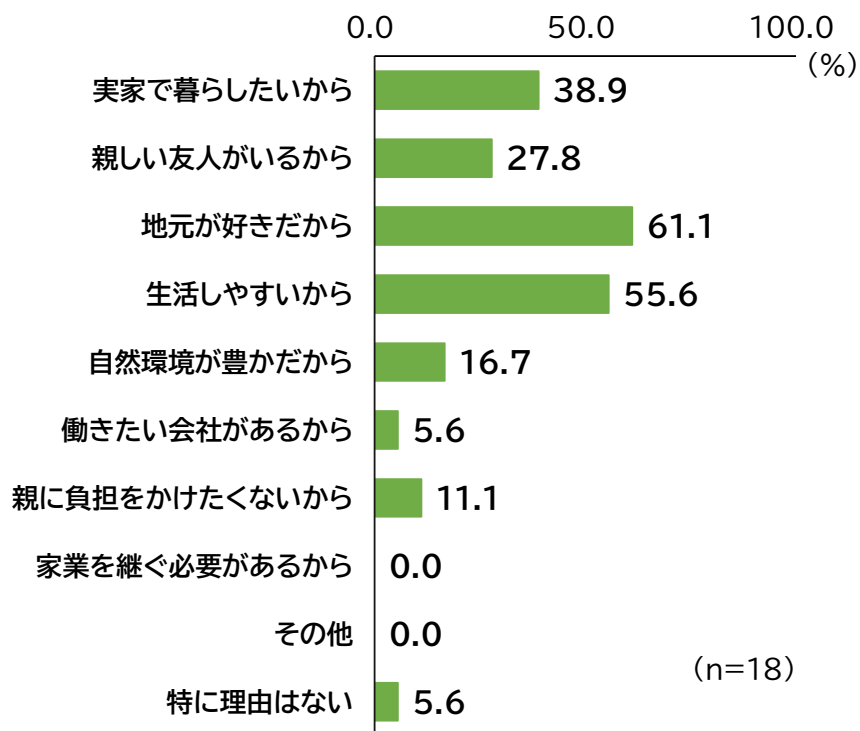
高校生世代



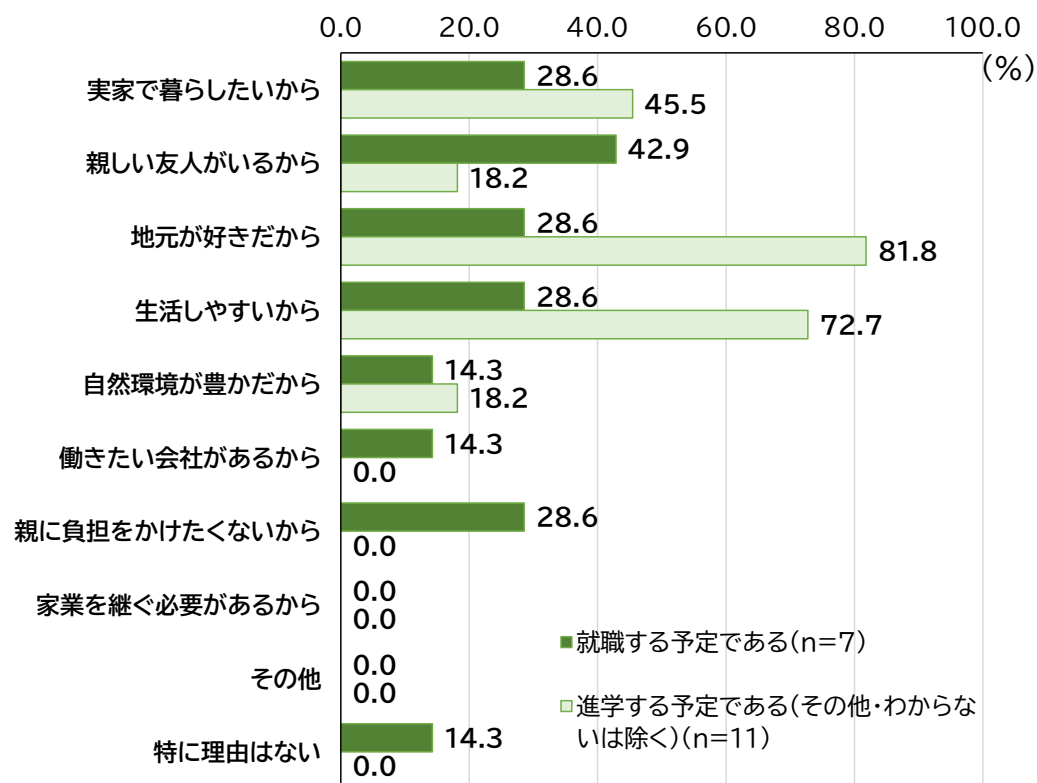
- 市内での就職を希望する理由としては「地元が好きだから」「生活しやすいから」の割合が高い。
- 就職、進学予定別でみると、就職予定者は「親しい友人がいるから」、進学予定である者は「地元が好きだから」「生活しやすいから」という回答割合が高い。

(5) 【回答対象:市内で就職を希望する者】
市内での就職を希望する理由
[複数回答]

高校生世代



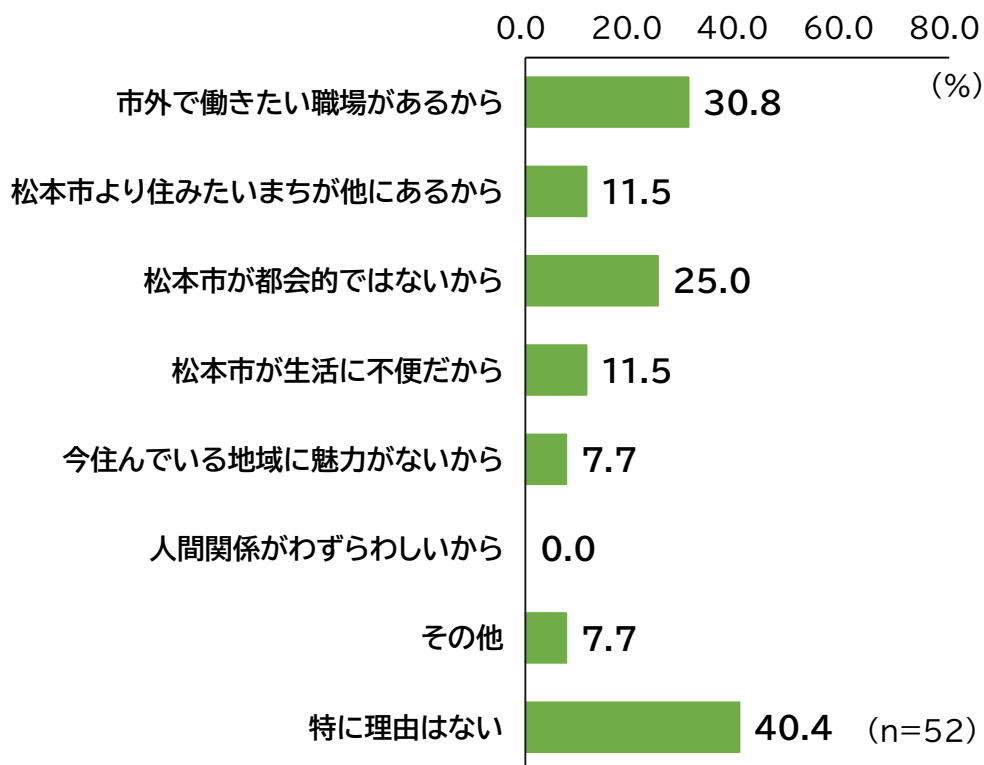
就職・進学予定別 市内での就職を希望する理由
[複数回答]



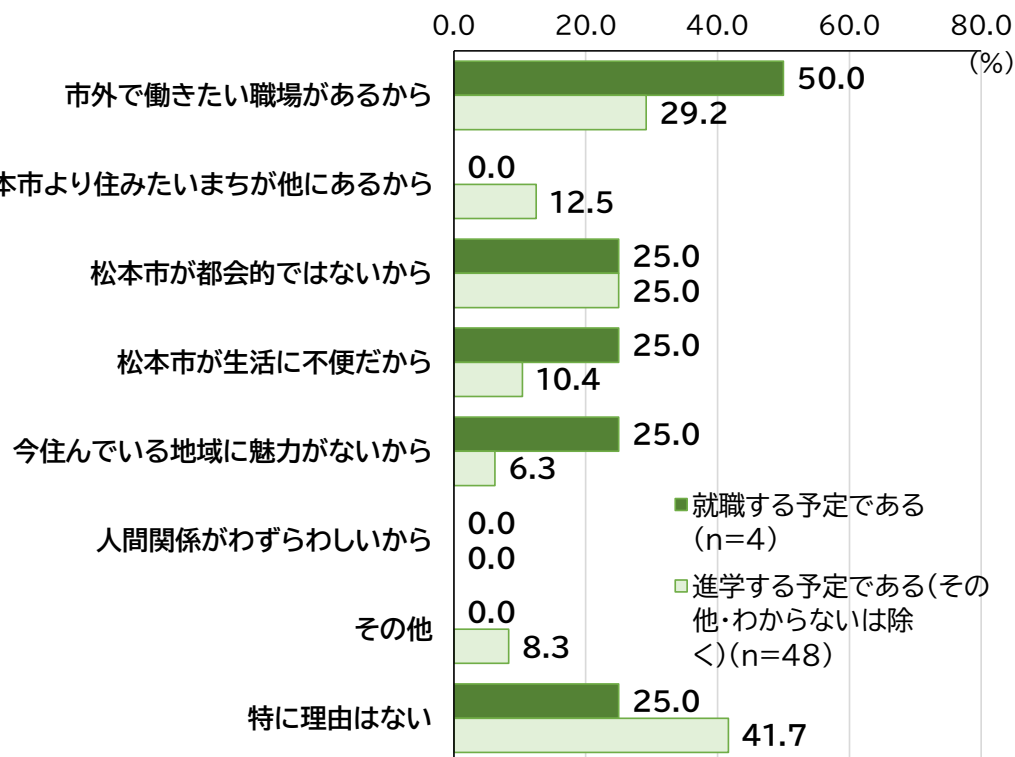
- 市外での就職を希望する理由としては「特に理由はない」の割合が最も高く、次いで「市外で働きたい職場があるから」となっている。
- 就職、進学予定別でみると、就職予定者は「市外で働きたい職場があるから」、進学予定者は「特に理由はない」という回答割合が高い。

(6) 【回答対象:市外で就職を希望する者】
市外で就職を希望する理由
[複数回答]

高校生世代



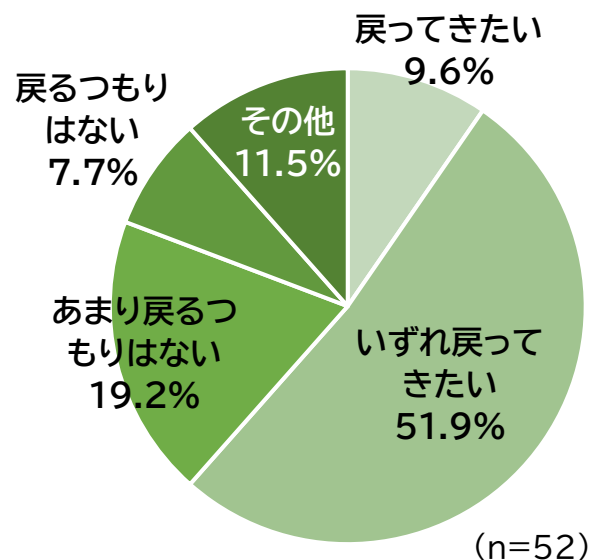
就職・進学予定別 市外での就職を希望する理由
[複数回答]



- 市外就職希望者において、松本市に「戻ってきたい」は9.6%、「いずれ戻ってきたい」は51.9%であり、61.5%は戻ってきたいという意向が見られる。
- 「あまり戻らつもりはない」「戻らつもりはない」理由としては、都会に住みたいという意見が見られる。

(7)【回答対象:市外で就職を希望する者】
松本市に戻ってきたいという思いとその理由

高校生世代



「あまり戻らつもりはない」「戻らつもりはない」理由
(自由記述)

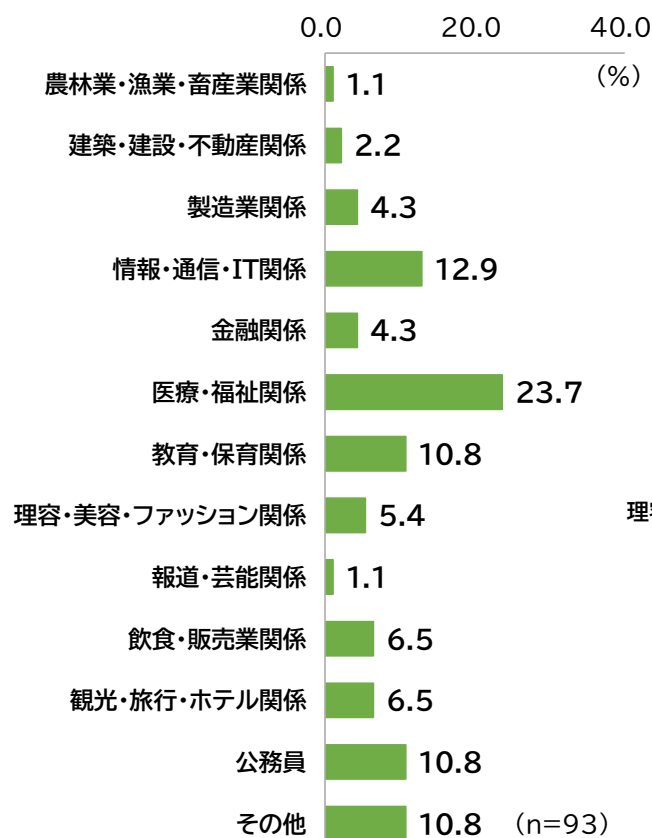
- ・ 職場の近くに住むから
- ・ やることがないから
- ・ 選択肢が狭まるから
- ・ たまに帰省する分には全然良いが、希望進学先がそれなりに遠いので時間もお金もないと思うため
- ・ 関東などと比べた時、松本の方がいいと思うところがあるから
- ・ 就職の便利さは都会の方が良いため
- ・ 一人暮らしがしたい
- ・ 魅力的でないから
- ・ 東京に住みたいから
- ・ 都会か海外に住みたいから

など

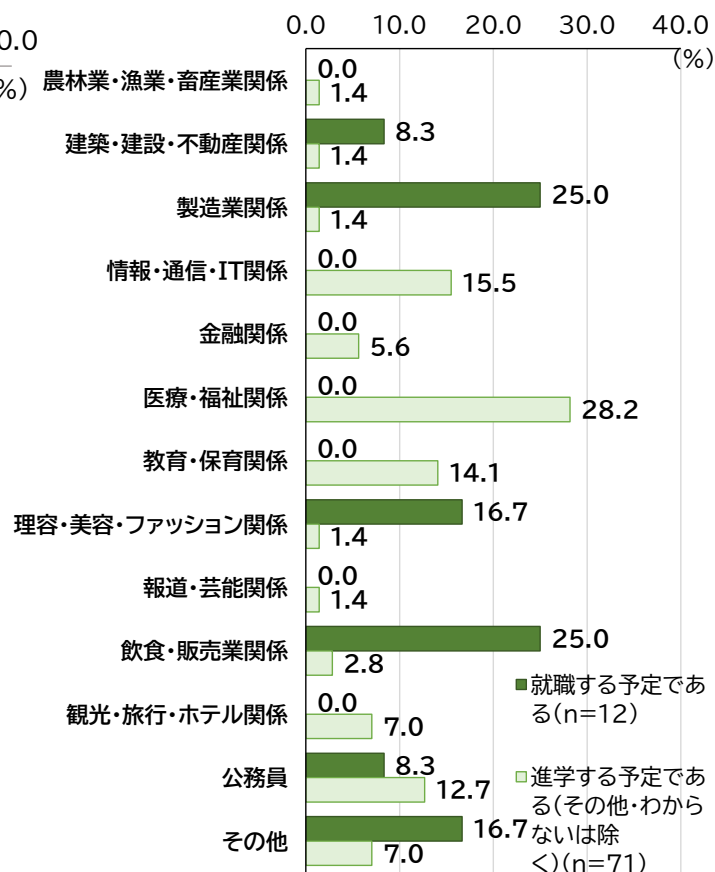
- 高校生世代の将来就きたい職業としては、「医療・福祉関係」が最も高く、次いで「情報・通信・IT関係」である。
- 就職・進学の手定別にみると、就職手定者は「製造業関係」「飲食・販売業関係」の割合が高く、進学手定者は「医療・福祉関係」の割合が高い。
- 就職先の市内・市外希望別にみると、市外希望者は「医療・福祉関係」の割合が高い。

(8) 将来、就きたい職業

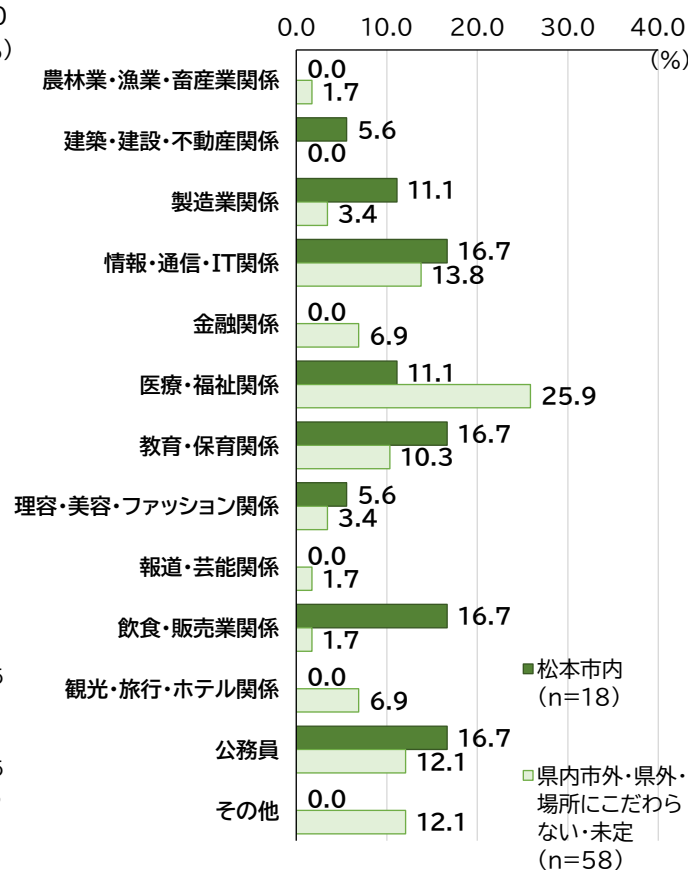
高校生世代



就職・進学手定別 将来、就きたい職業



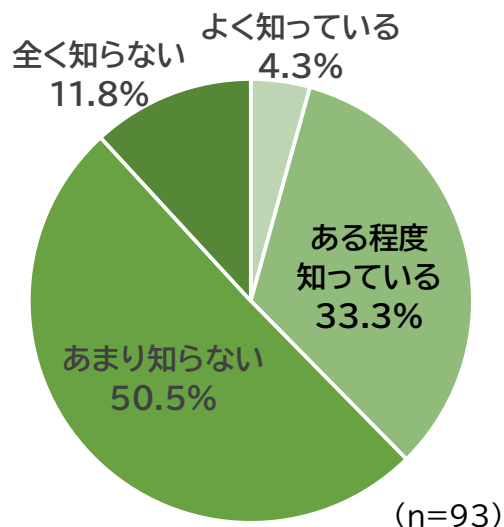
就職先の市内・市外希望別 将来、就きたい職業



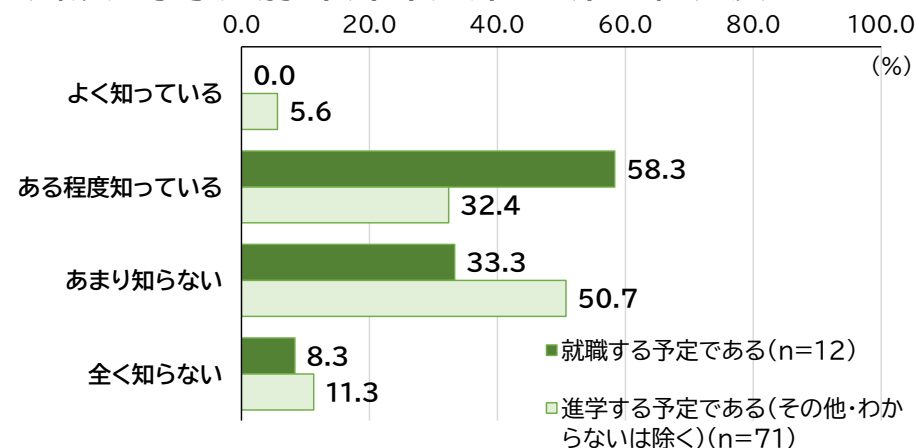
- 松本市近郊の会社の認知度をみると、「よく知っている」は4.3%、「ある程度知っている」は33.3%であり、合わせて37.6%である。
- 就職・進学予定別にみると、就職予定者は「ある程度知っている」が58.3%と高く、進学予定者は「あまり知らない」が50.7%と高い。
- 就職先の市内・市外希望別にみると、市外就職希望者は「あまり知らない」の割合が51.7%と高い。

(9) 松本市近郊の会社の認知度

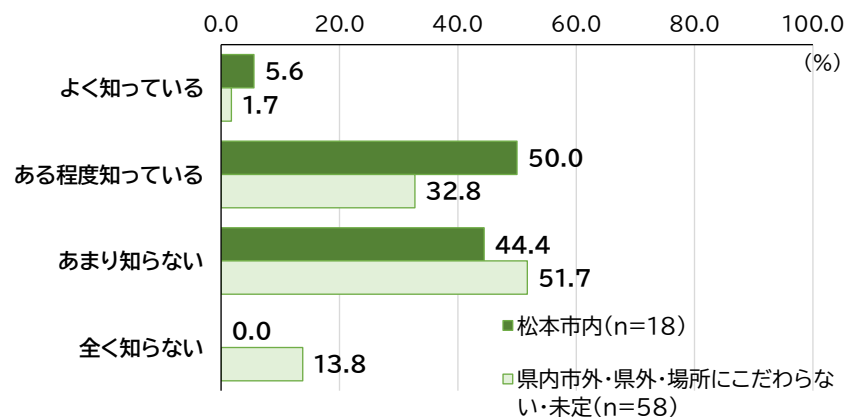
高校生世代



就職・進学予定別 松本市近郊の会社の認知度

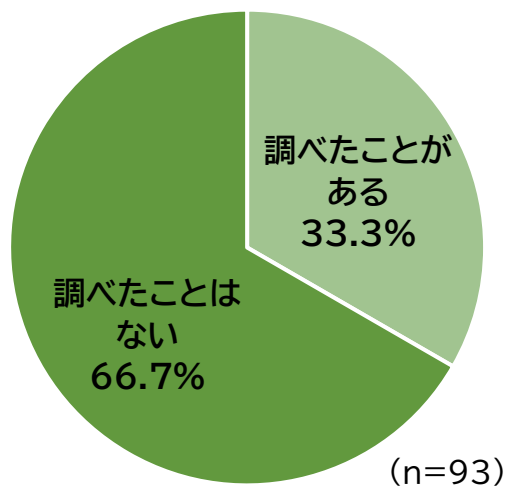


就職先の市内・市外希望別 松本市近郊の会社の認知度

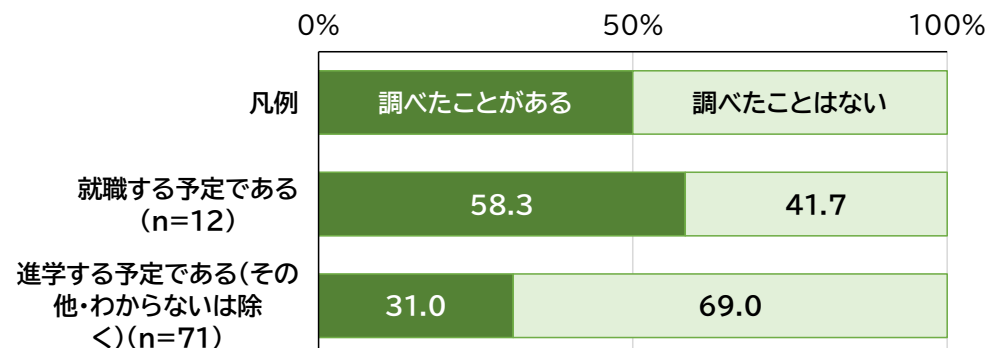


- 松本市近郊の会社について調べた経験をみると、「調べたことがある」は33.3%である。
- 就職・進学の手定別にみると、就職手定者は「調べたことがある」は58.3%であり、進学手定者は31.0%である。
- 就職先の市内・市外希望別にみると、市内希望者は「調べたことがある」は44.4%であり、市外希望者は32.8%である。

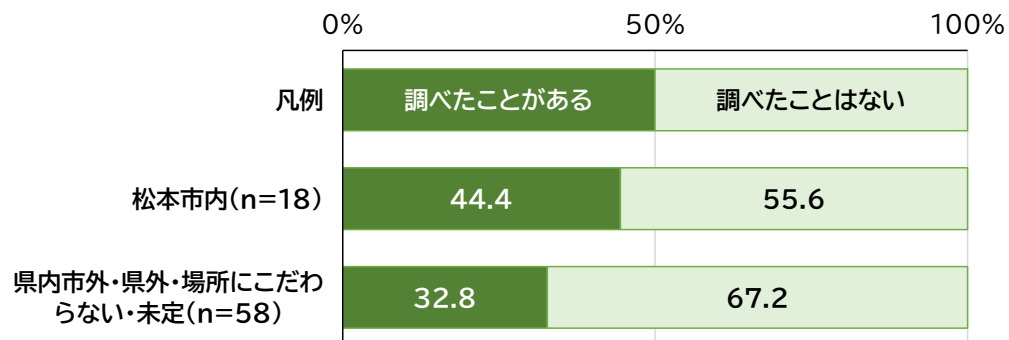
(10) 松本市近郊の会社について調べた経験 高校生世代



就職・進学手定別 松本市近郊の会社について調べた経験



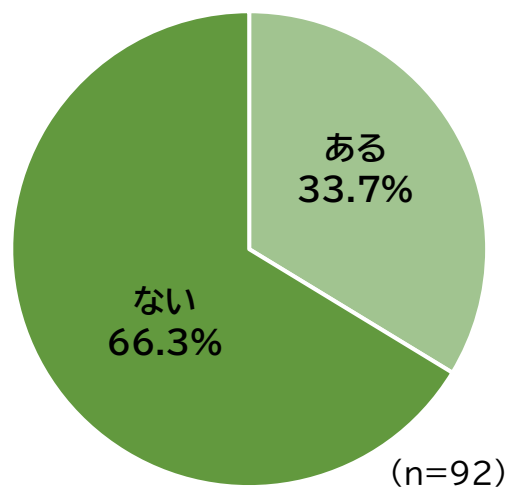
就職先の市内・市外希望別 松本市近郊の会社について調べた経験



- 松本市及び近郊で、働いてみたい企業・職場の有無をみると、「ある」は33.7%である。
- 就職・進学の手定別にみると、就職手定者では「ある」の割合は72.7%であり、進学手定者は31.0%である。
- 就職先の市内・市外希望別にみると、市内希望者は「ある」の割合は72.2%であり、市外希望者は28.1%である。

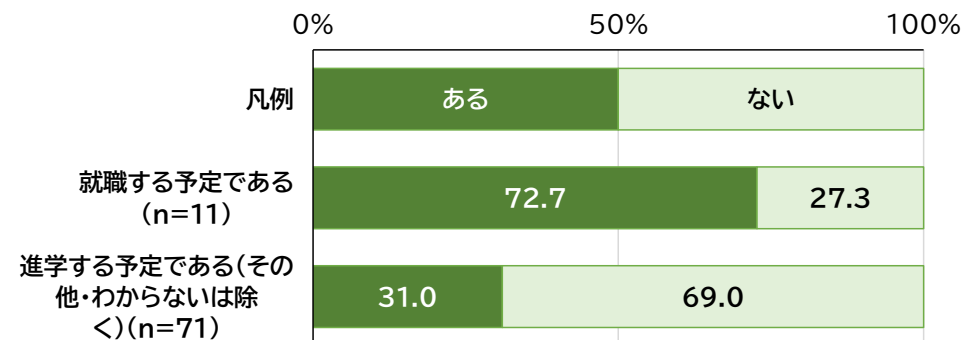
(11)松本市及び近郊で、働いてみたい企業・職場の有無

高校生世代



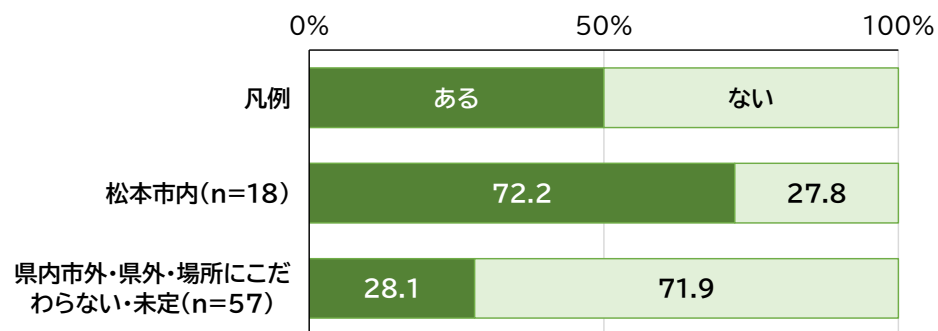
就職・進学手定別

松本市及び近郊で、働いてみたい企業・職場の有無



就職先の市内・市外希望別

松本市及び近郊で、働いてみたい企業・職場の有無

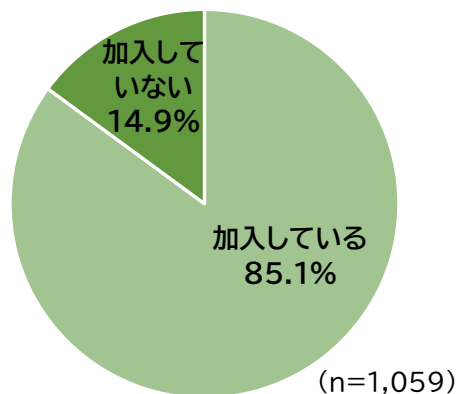


7. 町会への加入状況や町会で行う必要があると思う活動

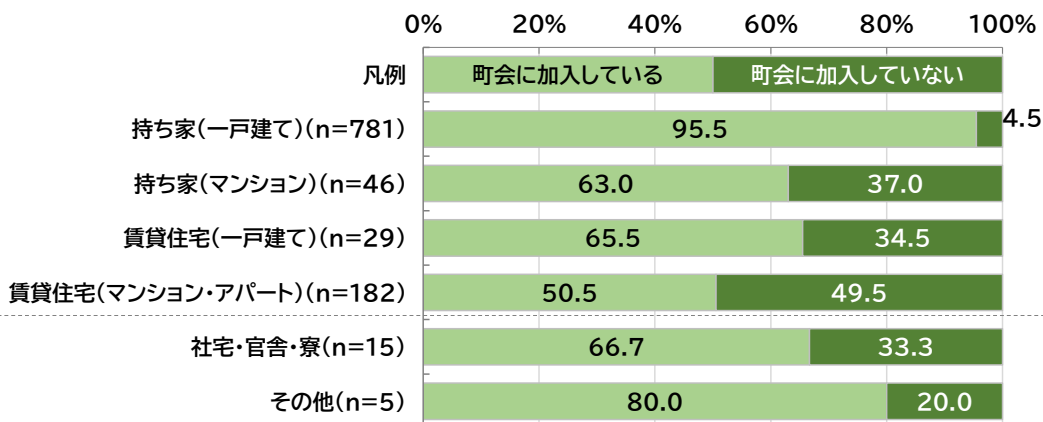
- 町会への加入状況を見ると、全体では加入している割合は85.1%である。
- 居住形態別にみると、「持ち家（一戸建て）」の加入率が95.5%と高い一方、「賃貸住宅（マンション・アパート）」は50.5%と低い。
- 町会に加入していない者の加入していない理由としては、「特に理由はない」「その他」が多い。その他の内容としては、アパート暮らしのため参加の仕方がわからない、役員が負担だった、人間関係などが挙げられている。

(1) 町会への加入状況

18歳以上

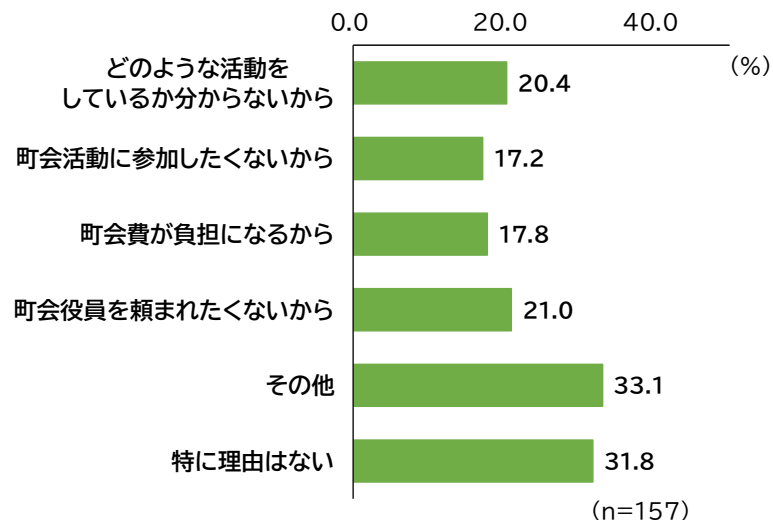


居住形態別 町会への加入状況



(2) 【回答対象: 町会に加入していない者】 町会に加入していない理由[複数回答]

18歳以上



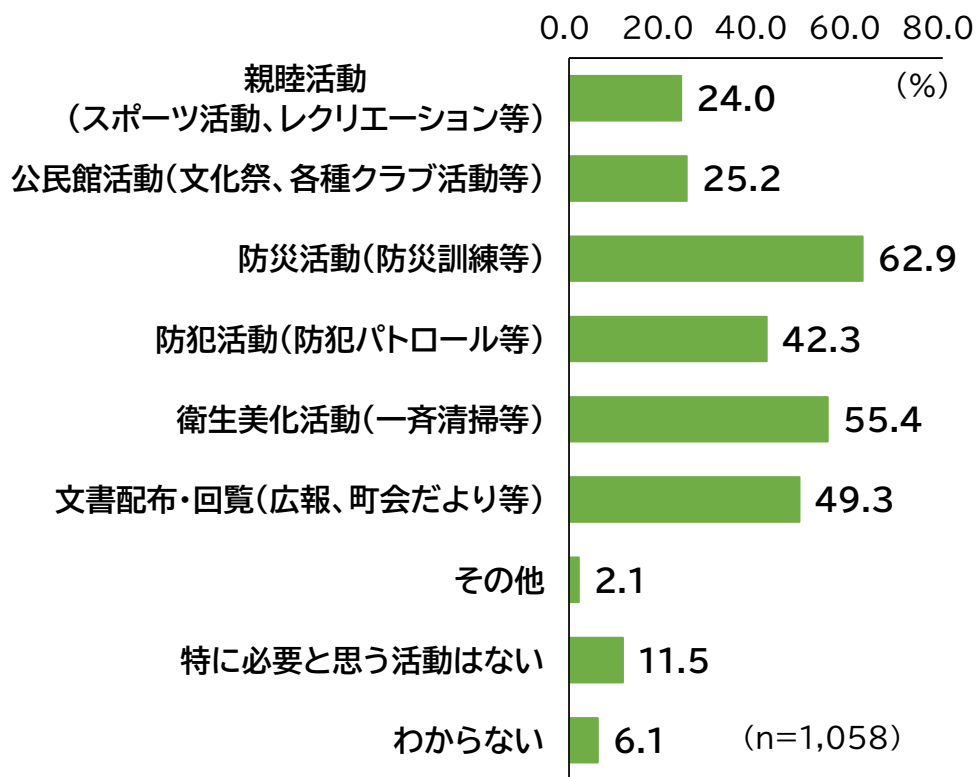
■「その他」の主な内容

- ・アパート暮らしのため、会社の寮のため
- ・マンション自体が町会を抜けたため
- ・参加の仕方がわからない。加入等の案内がなかった
- ・町会の人数が少なく、役員をずっとして負担だったため、途中でやめた
- ・人間関係。体調が悪いときに役員をやれと言われた。役員の運営方針に問題があるから
- ・親が対応しているから
- ・仕事が忙しく、活動に参加できない など

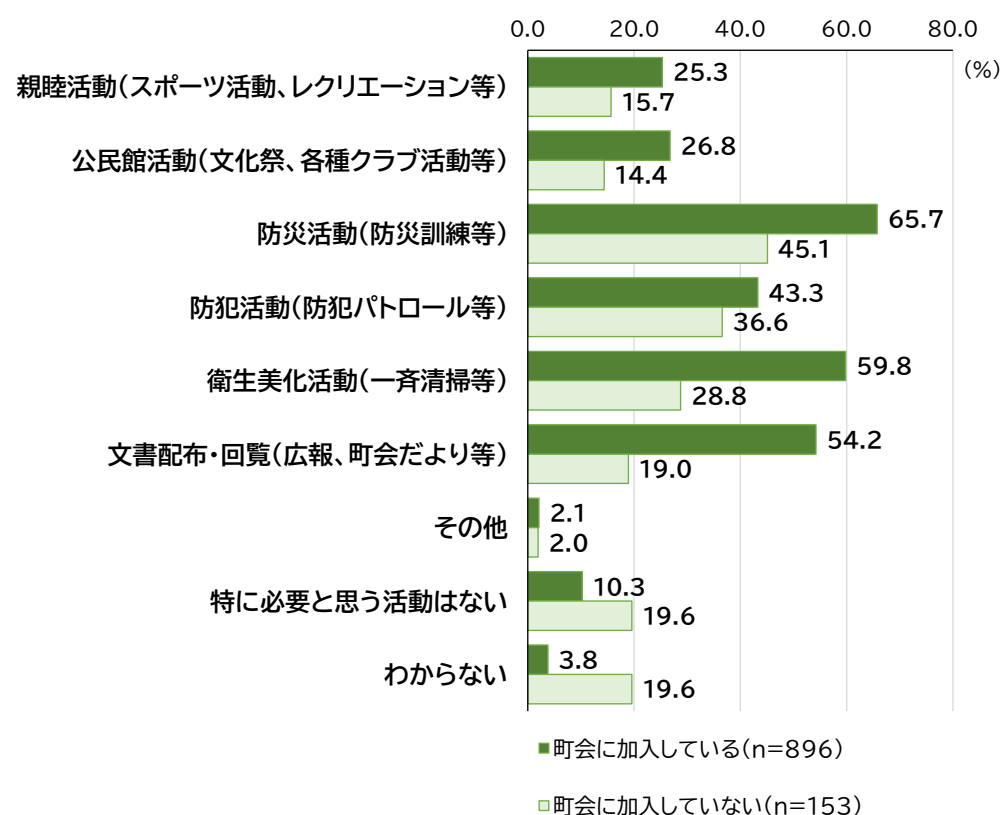
- 町会で行う必要があると思う活動としては「防災活動（防災訓練等）」の割合が最も高く、次いで「衛生美化活動（一斉清掃等）」「文書配布・回覧（広報、町会だより等）」の割合が高い。
- 町会加入状況別にみると、町会の加入状況にかかわらず、「防災活動（防災訓練等）」の割合が高い。

(3)町会で行う必要があると思う活動 [複数回答]

18歳以上



町会加入状況別 町会で行う必要があると思う活動[複数回答]



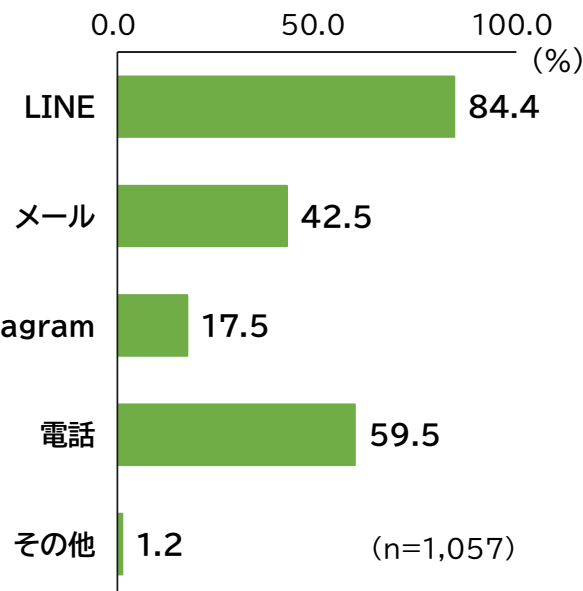
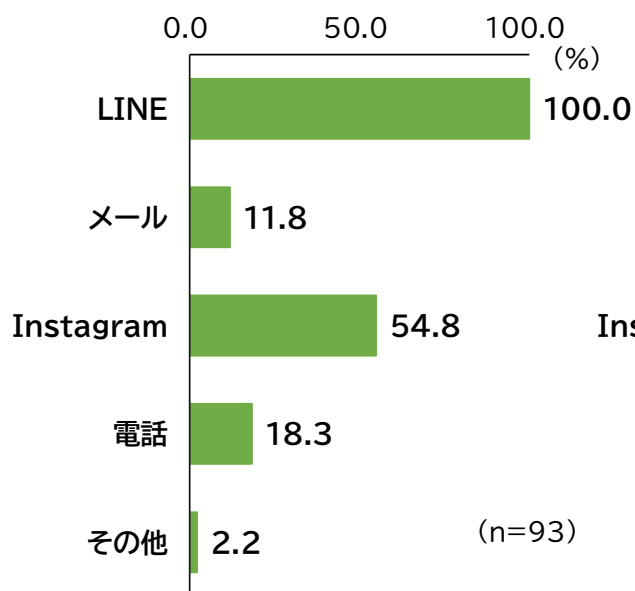
8. 松本市や地域の情報入手方法等の状況

- 日常生活でよく使う連絡手段としては、高校生世代は「LINE」の利用率が100%であり、18歳以上の利用率は84.4%である。
- 18歳以上において年代別にみると、18～39歳の「LINE」の利用率は97.2%と高いが、65歳以上は61.9%とその利用率が下がる。65歳以上は「電話」の利用率が81.9%と高い。

(1) 日常生活でよく使う連絡手段[複数回答]

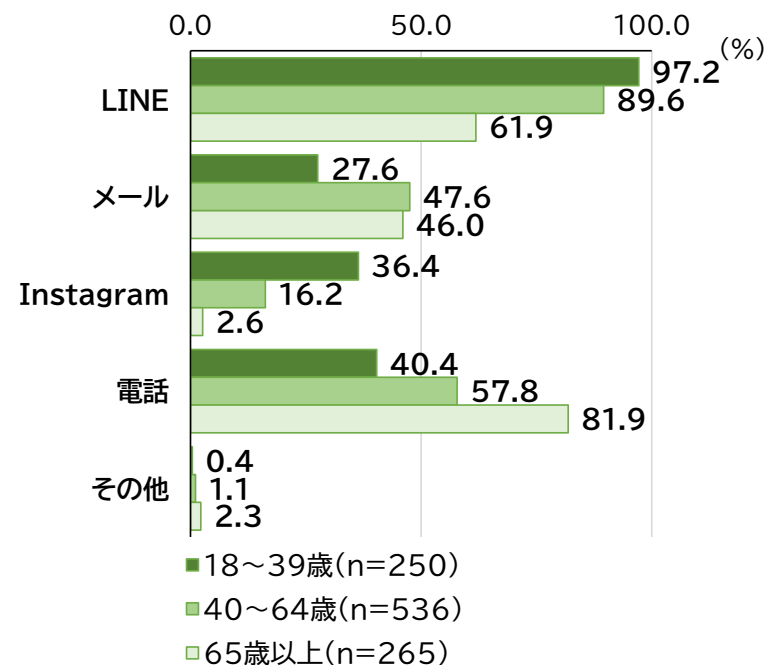
高校生世代

18歳以上



年代別 日常生活でよく使う連絡手段 [複数回答]

18歳以上

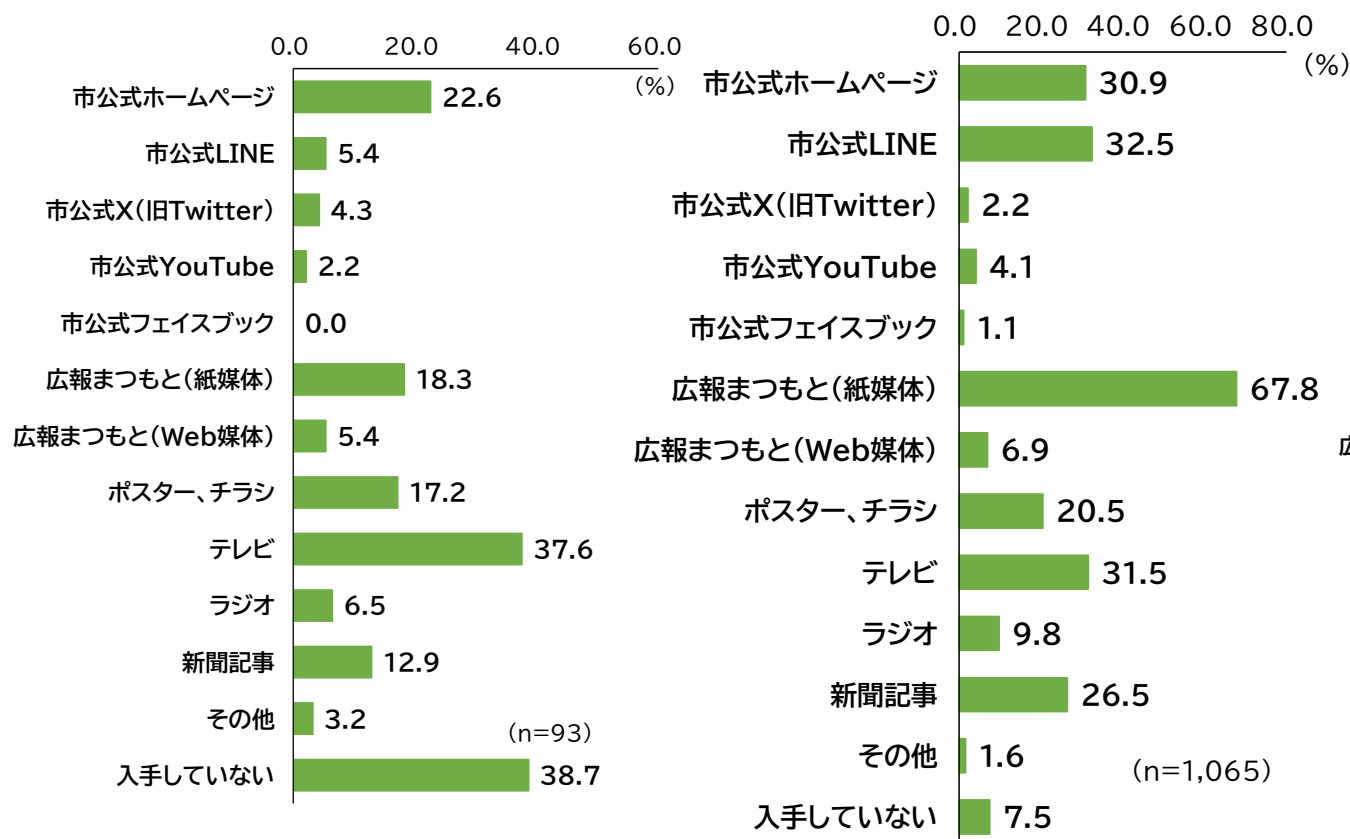


- 松本市や地域の取組みに関する情報入手方法としては、高校生世代は「入手していない」が38.7%と最も高い。入手方法としては「テレビ」「市公式ホームページ」と続く。「市公式LINE」は5.4%にとどまる。
- 18歳以上では「広報まつもと（紙媒体）」が67.8%と高く、次いで「市公式LINE」が32.5%である。年代別にみると、「広報まつもと（紙媒体）」「新聞記事」は、年代が上がるほど割合が高い傾向にある。

(2)松本市や地域の取組みに関する情報入手方法[複数回答]

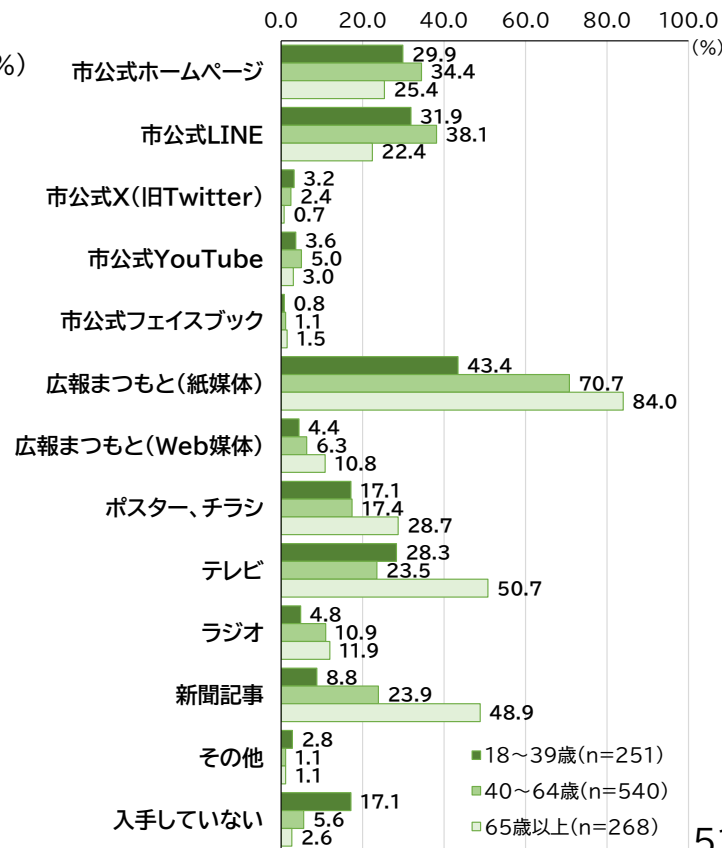
高校生世代

18歳以上



年代別 松本市や地域の取組みに関する情報入手方法[複数回答]

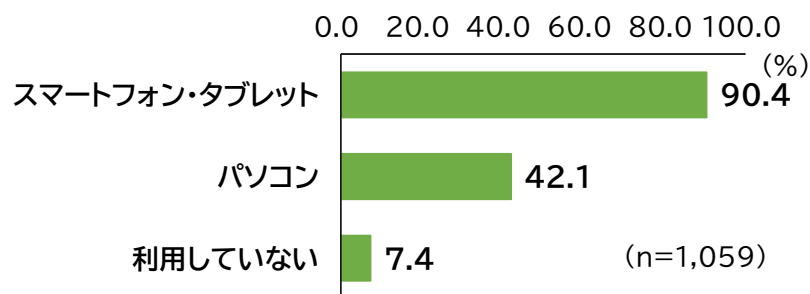
18歳以上



- インターネット端末の利用状況をみると、「スマートフォン・タブレット」の利用率は90.4%、利用していない割合は7.4%である。
- 松本市が発信している媒体の利用状況としては、18歳以上では週に1回以上と利用頻度が高いのは「市公式LINE」である。高校生世代では「市公式ホームページ」を見ている層もいるが、それ以外の媒体は9割以上利用していない状況である。

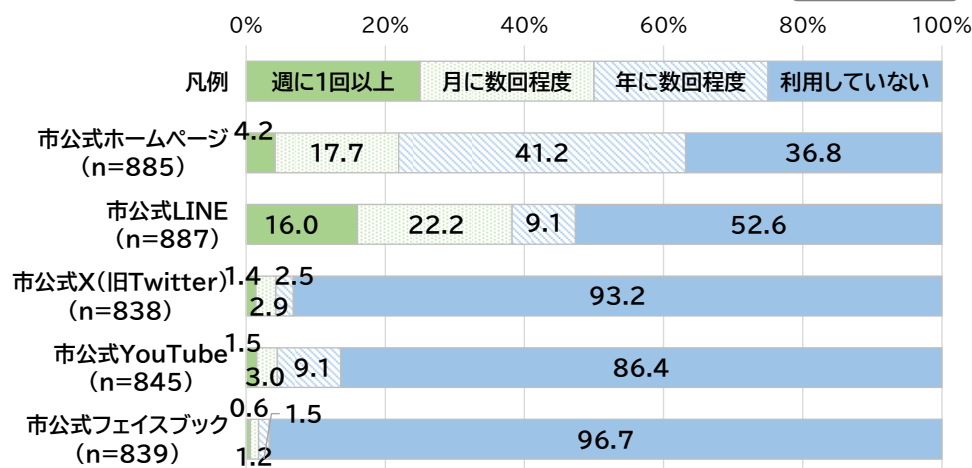
(3)インターネット端末の利用状況[複数回答]

18歳以上



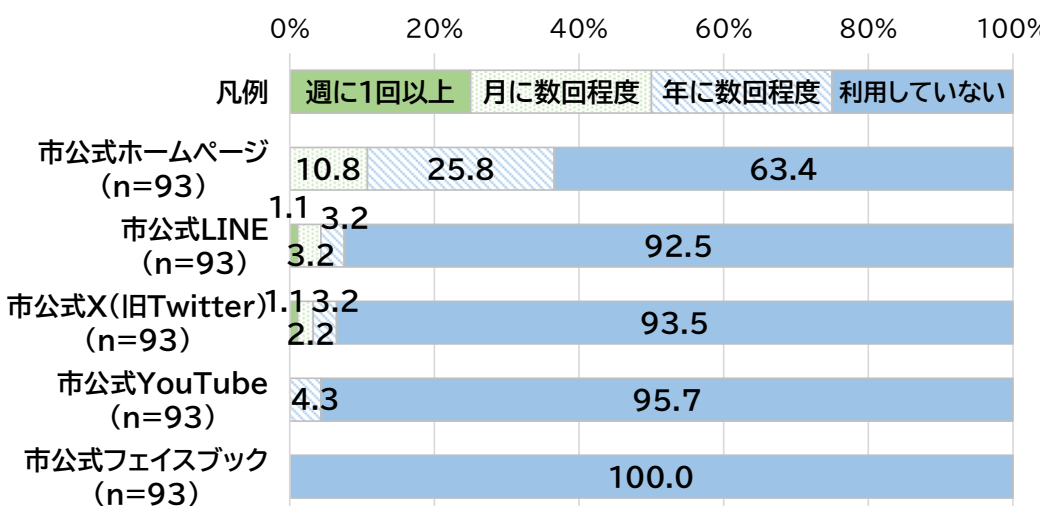
(4)【回答対象:インターネット端末を利用している】 松本市が発信している媒体の利用状況

18歳以上



(4)松本市が発信している媒体の利用状況

高校生世代



第3章 まとめ

1. 7分野・47施策の平均得点に関して特筆すべき事項等

7分野別に、現状評価及び市民の行動・活動の分析結果について、年代や性別で違いが見られる項目や特に得点が低い項目等について示す。

分野1 こども・若者・教育

■現状評価

「こども・若者・教育」に関する施策評価の平均得点は2.41点であり、中央値2.50点よりもやや低い。しかし、受益者を対象に分析をすると、「安心して出産・子育てがー」「多様な保育サービスが提供ー」「子どもの権利が尊重されー」は、中央値を上回っており、一定の評価を得ている。回答者全体及び受益対象者に限定した場合においても中央値を下回っている項目は以下である。

<回答者全体の得点が低い順>

- ・小中学校で一人ひとりに応じた学習が行われている
- ・若者が地域で活躍している
- ・障がいや特性を持つ子どもに対する支援が充実している
- ・望ましい食習慣を身に付けるための取組みが行われている
- ・様々な学びや趣味を気軽に行える環境が充実している

○「小中学校で一人ひとりに応じたー」に関して

本市の小中学校における児童・生徒一人あたりの教員数などは県内でもトップクラスであり、良好な教育環境が整備されているが、不登校の児童・生徒は増加傾向にあり、多様な学びの場の確保、ICTの更なる活用などにより、一人ひとりに寄り添った学びの充実が求められる。

○「若者が地域で活躍ー」に関して

地域との関わりや居場所の有無と幸福度に相関が見られることから、引続き若者と地域の関わりを増やすことや若者の居場所づくりなどの取組みの拡充が求められる。

■こども・若者・教育に関する市民の行動・活動

「子どもの権利についてー」は平均得点が2.96点と高い。年代別・性別で、統計的検定を行った結果、65歳以上のシニア層で平均得点が低い。

政府が掲げる「こどもまんなか社会」において、社会全体における子どもの権利に対する理解は不可欠であり、引き続き周知・啓発が求められる。

■回答者全体の現状評価 (当該分野の平均得点2.41点)

	平均得点	回答保留(%)
安心して出産・子育てができるまちである	2.66	23.1
多様な保育サービスが提供されている	2.48	33.8
小中学校で一人ひとりに応じた学習が行われている	2.23	47.2
子どもの権利が尊重され、子どもにやさしいまちである	2.50	37.8
障がいや特性を持つ子どもに対する支援が充実している	2.39	43.8
若者が地域で活躍している	2.24	27.4
様々な学びや趣味を気軽に行える環境が充実している	2.41	21.8
望ましい食習慣を身に付けるための取組みが行われている	2.31	32.9

■高校生の「幸福度」と関連が見られる項目

	平均得点	幸福度との相関係数
同じ地域(集落)に住む人たちを信頼している	3.61	0.41
この地域(集落)に対して愛着を持っている	3.80	0.46
自分のことを好ましく感じる	3.56	0.56
心地のいい居場所が自宅や地域の中にある	4.35	0.55
身体的に健康な状態である	4.24	0.52
精神的に健康な状態である	3.91	0.74

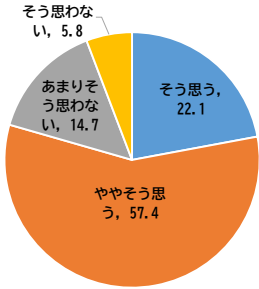
※幸福度との相関係数が0.4以上の項目

■受益者の施策評価

	平均得点	回答保留(%)
⇒【高校生以下の子どもの保護者】安心して出産・子育てができるまちである	2.67	3.5
⇒【幼稚園・保育園・認定こども園の保護者】多様な保育サービスが提供されている	2.56	6.0
⇒【小中学校の保護者】小中学校で一人ひとりに応じた学習が行われている	2.27	7.6
⇒【高校生以下の子どもの保護者】子どもの権利が尊重され、子どもにやさしいまちである	2.53	17.3
⇒【身体・知的・精神などの障がいのある者及びその同居者】障がいや特性を持つ子どもに対する支援が充実している	2.30	36.6
⇒【10～30歳代の者】若者が地域で活躍している	2.30	26.0
⇒【高校生以下の子どもの保護者】望ましい食習慣を身に付けるための取組みが行われている	2.31	26.6

■こども・若者・教育に関する市民の行動・活動

子どもの権利について理解し、尊重しているかどうか



全体平均: 2.96点

年代	平均得点
18～39歳	3.03点
40～64歳	2.96点
65歳以上	2.88点

分野2 健康・医療・福祉

■現状評価

「健康・医療・福祉」に関する施策評価の平均得点は2.59点であり、中央値2.50点より高い。特に「必要な時に、必要な医療サービスをー」「健康寿命を延伸するための取組みがー」「感染症の予防・感染拡大防止に向けた体制がー」の得点が高く、評価を得ている。

受益者を対象に分析すると「高齢者が安心してー」は2.54点と高い評価になっている一方、「障がい者が安心してー」は2.32点と低い。

「消費生活や経済面で困ったときー」に関しては、平均得点が2.20点と低く、回答保留の割合が44.0%と高い。生活満足度が低い層（不満者）において、最も現状評価が低い項目となっている。

○「消費生活や経済面で困ったときー」に関して

経済的困窮を含め、支援やケアを必要とする人は増加傾向にある。困難が深刻化する前に、適切な支援につなぐことが重要である。そのためにも、困った時の相談先の周知の強化が求められる。

■健康・医療・福祉に関する市民の行動・活動

「健康づくりに継続的にー」の平均得点は2.71点であり、半数以上が取り組んでいる。しかし、年代別・性別で、統計的検定を行った結果、18～39歳の若い世代で平均得点が低い傾向が見られ、働きかけていくことが必要といえる。

■回答者全体の現状評価

（当該分野の平均得点2.59点）

	平均得点	回答保留(%)
健康寿命を延伸するための取組みが充実している	2.70	20.8
感染症の予防・感染拡大防止に向けた体制が整っている	2.63	18.9
必要な時に、必要な医療サービスを受けることができる	2.91	9.9
障がい者が安心して生活できる	2.35	43.3
高齢者が安心して暮らせる環境やサービスがある	2.49	27.6
消費生活や経済面で困ったときに相談できる所がある	2.20	44.0

■生活満足度が低い層（不満者）の得点が低い項目

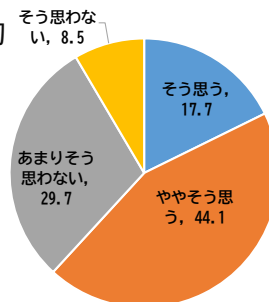
	平均得点
1 消費生活や経済面で困ったときに相談できる所がある	1.58
2 生活する上で移動しやすい道路網が整備されている	1.58
3 新たな産業がづくり出されている	1.60
4 生活する上で必要な公共交通が確保されている	1.63
5 道路、空路、鉄道などの広域交通網が充実している	1.63

■受益者の施策評価

	平均得点	回答保留(%)
⇒【身体・知的・精神などの障がいのある者及びその同居者】障がい者が安心して生活できる	2.32	17.9
⇒【65歳以上】高齢者が安心して暮らせる環境やサービスがある	2.54	18.6

■健康・医療・福祉に関する市民の行動・活動

健康づくりに継続的に取り組んでいる



全体平均:2.71点

年代	平均得点
18～39歳	2.61点
40～64歳	2.66点
65歳以上	2.90点

分野3 住民自治・共生

■現状評価

「住民自治・共生」に関する施策評価の平均得点は2.36点であり、中央値2.50点より低い。調査項目別にみると、「地域づくり活動がー」「地域による自主的な防災・防犯活動ー」は中央値以上である。

一方「外国人住民との交流がー」「移住者や移住希望者に対するサポートがー」「性別にとらわれず、個性が発揮できるー」「互いの個性や立場をー」などが低い傾向にある。

○「外国人住民との交流がー」に関して

特に得点が低い「外国人住民との交流がー」は40歳以上で評価が低い。回答保留の割合も30%を超えている。外国籍住民は、増加しており、2024年1月1日時点で4,286人と過去最高となっている。多文化共生の推進に向け、特に40歳以上の層への発信や官民連携の取組みを継続していくことが求められる。

○「移住者や移住希望者に対するサポートがー」に関して

移住に関しては、行政サポートによる移住世帯数は増えている。しかし、居住年数5年以内の者に限定しても現状評価は低く、回答保留の割合が高い傾向にある。移住希望者及び、松本市を選んだ人たちの定着に向けたサポートが求められる。

○「性別にとらわれず、個性が発揮できるー」

「互いの個性や立場をー」に関して

当然守られるべき人権などが守られていないと感じている層が一定数存在していると推測される。ジェンダー平等、多様性への理解、人権の尊重は引き続き啓発活動等を進めていくことが求められる。

■住民自治や共生活動に関する市民の行動・活動

年代別・性別で、統計的検定を行った結果、「違いを認め合いー」は全体の平均得点は2.98点と高いが、65歳以上のシニア層や男性で平均得点が低い傾向が見られる。

「地域の人と積極的に関わりー」「地域で行われている活動やボランティア活動にー」に関しては、特に18～39歳の若い世代や女性において低い傾向が見られる。

■回答者全体の現状評価(当該分野の平均得点2.36点)

	平均 得点	年代			性別		回答保留 (%)
		18～39歳	40～64歳	65歳以上	男性	女性	
地域づくり活動が活発に行われている	2.54	2.61	2.49	2.58	2.47	2.60	23.0
地域住民による支え合いが行われている	2.49	2.48	2.45	2.57	2.44	2.53	20.5
地域による自主的な防災・防犯活動が行われている	2.63	2.57	2.57	2.77	2.62	2.64	17.7
移住者や移住希望者に対するサポートが充実している	2.17	2.32	2.09	2.23	2.18	2.18	44.7
互いの個性や立場を尊重し合える地域である	2.30	2.35	2.24	2.40	2.34	2.29	33.3
性別にとらわれず、個性が発揮できる地域である	2.22	2.32	2.15	2.25	2.26	2.19	34.5
外国人住民との交流が進んでいる地域である	2.05	2.33	1.95	1.99	2.03	2.08	35.3

■受益対象者の現状評価

		平均 得点	回答保留 (%)
受益 対象者	【居住年数5年以内の者】移住者や移住希望者に対するサポートが充実している	2.27	40.5

■住民自治や共生活動に関する市民の行動・活動

	平均 得点	年代			性別	
		18～39歳	40～64歳	65歳以上	男性	女性
違いを認め合い、個性を大切にしている	2.98	3.13	2.95	2.89	2.91	3.04
地域の人と積極的に関わりを持っている	2.16	1.97	2.17	2.32	2.21	2.13
地域で行われている活動やボランティア活動に参加している	1.96	1.73	2.01	2.06	2.04	1.91

分野4 環境・エネルギー

■現状評価

「環境・エネルギー」に関する施策評価の平均得点は2.49点であり、中央値2.50点をやや下回っているが、「自然や環境がー」の得点が高く、評価を得ている。

一方、「温室効果ガスの排出削減にー」が2.13点と特に低く、回答保留の割合が37.9%と高い。

「ごみの量を減らすための取組みがー」「森林の整備や保全活動がー」は、中央値2.50点をやや下回る。「ごみの量を減らすための取組みがー」は、18～39歳で評価が低く、「森林の整備や保全活動がー」は40歳以上で評価が低い。

○「温室効果ガスの排出削減にー」に関して

「温室効果ガスの排出削減にー」に関しては、これまでプラットフォームの整備や計画策定等を行っており、今後、本格的に始動することとなる。

今後、取組みの周知を強化するとともに、市民への施策の浸透を図っていくことが求められる。

■環境・エネルギー分野に関する市民の行動・活動

「資源化や分別でごみの減量をー」が3.01点、「自然や環境に配慮したー」は2.73点であり、半数以上が取り組んでいる。年代別・性別別に統計的検定を行った結果、2項目とも18～39歳及び、男性で平均得点が低くなっている。

なお、「資源化や分別でごみの減量をー」「自然や環境に配慮したー」は、令和3年度と比較し、統計的検定を行った結果、平均得点が下がっている。資源化・分別がごみの減量につながることを周知するとともに、環境問題へ関心を高め、活動・行動を促す取組みが求められる。

■回答者全体の現状評価 (当該分野の平均得点2.49点)

	平均 得点	年代			性別		回答保留 (%)
		18～39歳	40～64歳	65歳以上	男性	女性	
温室効果ガスの排出削減に積極的に取り組んでいる	2.13	2.20	2.07	2.20	2.10	2.17	37.9
ごみの量を減らすための取組みが浸透している	2.46	2.28	2.44	2.64	2.41	2.50	20.2
自然や環境が守られている	2.80	2.95	2.74	2.79	2.81	2.81	14.7
森林の整備や保全活動が活発に行われている	2.47	2.72	2.39	2.40	2.46	2.49	29.8

■環境・エネルギーに関する日常生活の行動・活動

	平均 得点	年代			性別	
		18～39歳	40～64歳	65歳以上	男性	女性
資源化や分別でごみの減量を行っている	3.01	2.79	3.04	3.15	2.90	3.10
自然や環境に配慮した暮らしをしている	2.73	2.60	2.72	2.86	2.68	2.78

■環境・エネルギーに関する日常生活の行動・活動の経年比較

	R3 平均得点	R6 平均得点
資源化や分別でごみの減量を行っている	3.14	3.01
自然や環境に配慮した暮らしをしている	2.89	2.73

分野5 都市基盤・危機管理

「都市基盤・危機管理」分野全体の平均得点は2.47点であり、中央値2.50点をやや下回る。調査項目別にみると「安全でおいしい水をー」が3.34点で特に高い。また「城下町にふさわしいまちづくりがー」「都市と田園環境、自然環境のバランスがー」など魅力的なまちづくりに関しては一定の評価が得られている。一方、生活道路環境、広域交通網や公共交通、防災・減災の評価が低くなっている。

○「生活する上で移動しやすい道路網がー」
「道路、空路、鉄道などの広域交通網がー」に関してアンケートの自由記述においても、「自動車」「渋滞」の単語が多く出現している。交通渋滞の緩和のため、道路環境を整備してほしいとの声も多くみられた。渋滞緩和に向けては、過度な自家用車利用の抑制、自転車や公共交通の活用、パーク＆ライドの整備、街中のマイカー規制などが考えられ、引き続き、実証実験等を行う中で効果的な施策の導入が求められる。また、広域交通網は、松本市のみで整備できる施策ではないため、国、県及び近隣市町村との連携により、検討を進めていく必要がある。

○「生活する上で必要な公共交通がー」に関して年代別にみると、40歳以上で評価が低い傾向にある。バスの公設民営化という大きな再編を行い、全体の利用者数は増加している。引き続き、利用状況等を見ながら、評価・検証を行い、地域にあった公共交通網の整備に努めるとともに、利用促進を進めていく必要がある。

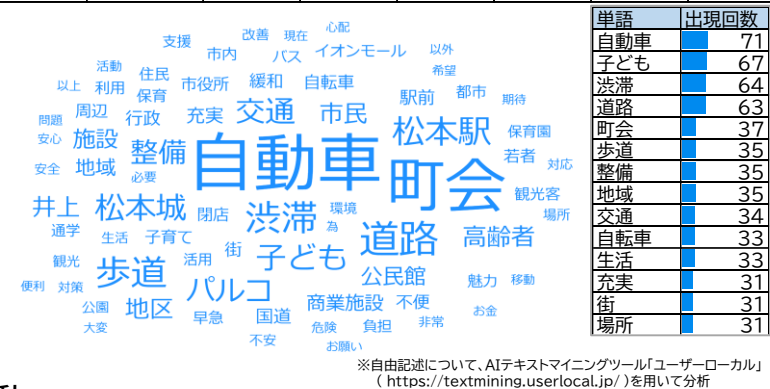
■都市基盤に関する市民の行動・活動
市民の行動として「災害に対する備えをー」の平均得点は2.40点であり、していない人が過半数となっている。年代別には65歳以上が2.44点でやや高いが、中央値2.50点は下回っている。

■回答者全体の現状評価（当該分野の平均得点2.47点）

	平均 得点	年代			性別		回答保留 (%)
		18～39歳	40～64歳	65歳以上	男性	女性	
城下町にふさわしいまちづくりが行われている	2.80	2.96	2.73	2.79	2.71	2.87	15.1
生活する上で必要な公共交通が確保されている	2.15	2.38	2.04	2.19	2.14	2.17	5.9
自転車を気軽に快適に利用することができる	2.22	2.47	2.13	2.20	2.28	2.19	12.9
生活する上で移動しやすい道路網が整備されている	2.06	2.08	2.00	2.20	2.06	2.07	6.3
道路、空路、鉄道などの広域交通網が充実している	2.14	2.20	2.03	2.31	2.16	2.12	6.0
都市と田園環境、自然環境のバランスが保たれている	2.77	2.90	2.74	2.69	2.75	2.79	10.7
緑や水辺を活かした魅力的なまちづくりが行われている	2.75	2.99	2.66	2.74	2.67	2.83	10.7
安全でおいしい水を利用することができる	3.34	3.51	3.27	3.30	3.32	3.35	4.8
大規模な自然災害等を想定した危機管理体制が整っている	2.29	2.38	2.22	2.34	2.31	2.28	28.6
防災・減災の備えがあり、災害に強いまちである	2.21	2.25	2.13	2.34	2.25	2.20	32.5
公共施設は使い勝手がよく便利である	2.39	2.53	2.31	2.41	2.39	2.39	18.1

■松本市での生活全般についての意見
【自由記述】(409件)

スコアが高い単語を選び出し、その値に応じた大きさで図示
(スコアは、出現回数だけでなく、重要度を加味した値)



■危機管理に関する日常生活の行動・活動

	平均 得点	年代			性別	
		18～39歳	40～64歳	65歳以上	男性	女性
災害に対する備えをしている	2.40	2.38	2.38	2.44	2.39	2.41

分野6 経済・産業

分野全体の平均得点は2.57点であり、中央値をやや上回る。

調査項目別には「知人や友人にすすめたい地元産の農畜産物が一」が2.87点、「農業がさかん一」が2.81点で高くなっている。一方、「新たな産業が一」が1.97点で最も低い。

○「新たな産業が一」に関して

「新たな産業が一」は、平均得点が1.97点と低いことに加えて、回答保留の割合が37.1%と高く、市民が判断できるほど浸透していないといえる。特に40～64歳の年代や男性で現状評価が低い。

■経済・産業に関する市民の行動・活動

市民の行動・活動をみると、「地元産の農畜産物を一」の平均得点は2.88点、「地元の商店で一」は2.63点と中央値2.50点を上回っている。

ともに、年代があがるほど平均得点が高い。性別で検定を行った結果「地元産の農畜産物を一」に関しては、男性で低くなっている。

なお、「地元産の農畜産物を一」「地元の商店で一」は、統計的検定を行った結果、令和3年度と比較して、平均得点が下がっている。インターネット等での購入が容易になる中、地元での購入が低下している可能性がある。

■回答者全体の現状評価（当該分野の平均得点2.57点）

	平均 得点	年代			性別		回答保留 (%)
		18～39歳	40～64歳	65歳以上	男性	女性	
まちなかに魅力的なお店やサービスがある	2.55	2.77	2.48	2.46	2.50	2.58	7.1
ものづくり産業がさかんである	2.55	2.80	2.46	2.49	2.46	2.62	21.6
安心して持続的に働ける環境がある	2.50	2.64	2.45	2.47	2.48	2.54	20.4
農業がさかんである	2.81	3.06	2.78	2.62	2.77	2.84	12.2
知人や友人にすすめたい地元産の農畜産物が多い	2.87	2.92	2.89	2.80	2.78	2.94	10.7
新たな産業がづくり出されている	1.97	2.14	1.88	2.01	1.89	2.05	37.1

■経済・産業に関する日常生活の行動・活動

	平均 得点	年代			性別	
		18～39歳	40～64歳	65歳以上	男性	女性
地元産の農畜産物を積極的に購入している	2.88	2.69	2.90	3.00	2.76	2.96
地元の商店でできるだけ買物をしている	2.63	2.26	2.65	2.91	2.62	2.64

■経済・産業に関する日常生活の行動・活動の経年比較

	R3 平均得点	R6 平均得点
地元産の農畜産物を積極的に購入している	2.98	2.88
地元の商店でできるだけ買物をしている	2.81	2.63

分野7 文化・観光

分野全体の施策評価の平均得点は2.90点で中央値よりも高い。特に「国内外に誇れる山岳」の評価が3.29点で突出している。それ以外の施策においても、中央値2.50点を上回っており、総じて評価が高い分野である。

■文化・観光に関する市民の行動・活動

市民の行動・活動をみると、3項目とも中央値2.50点を下回っている。

年代別・性別で統計的検定を行った結果、「地域の伝統や文化の保存、継承」は18～39歳の若い世代や女性で低い傾向にある。

「継続的にスポーツに」は女性で低い傾向にある。

「音楽や芸術に触れ」は、65歳以上及び男性で低い傾向にある。

■回答者全体の現状評価（当該分野の平均得点2.90点）

	平均 得点	年代			性別		回答保留 (%)
		18～39歳	40～64歳	65歳以上	男性	女性	
気軽に文化芸術に親しむことができる環境がある	2.89	3.08	2.84	2.78	2.83	2.93	11.7
地域の伝統や文化の保存、継承が行われている	2.80	2.93	2.76	2.76	2.74	2.85	18.2
スポーツに親しむことができる環境がある	2.76	2.84	2.73	2.75	2.76	2.76	13.7
質の高い観光資源を活かした誘客が行われている	2.71	2.94	2.68	2.57	2.67	2.74	17.2
国内外に誇れる山岳リゾートである	3.29	3.23	3.32	3.31	3.24	3.34	8.7

■文化・観光に関する日常生活の行動・活動

	平均 得点	年代			性別	
		18～39歳	40～64歳	65歳以上	男性	女性
地域の伝統や文化の保存、継承に取り組んでいる	1.72	1.61	1.73	1.79	1.81	1.65
音楽や芸術に触れ、親しんでいる	2.36	2.54	2.34	2.22	2.26	2.43
継続的にスポーツに親しんでいる	2.19	2.18	2.15	2.26	2.33	2.08

2. 市民の日常生活における行動・活動の傾向

右の表は、年代・性別で分析し、統計的検定を行った結果、平均得点が低い層に「●」をつけている。今後、行動・活動を促進していくターゲット層といえる。分析を通して、見えてきたことは以下のとおりである。

■性別による役割分担的傾向の解消

女性で地域活動やスポーツ活動に取り組んでいる者の割合が低い。男性で、違いを認め合い、個性を大切にしているや音楽・芸術、ごみの減量、環境意識、地元産の農畜産物の購入などが低い。令和3年調査と同様、いわゆる性による役割分担的な傾向がみられ、引き続き、注視が必要である。

■18～39歳の若い世代における地域との接点を増やす

自然や環境に配慮した暮らし、ごみの減量の取組みの促進も必要

18～39歳の若い世代は、65歳以上と比較し、地域との接点が少ない結果となった。定住意向の高い層は、日常生活において地域と関わる行動を行っている傾向が高い。このことを踏まえると「地域との関わり」が若い世代の松本市での定住に寄与する可能性が考えられ、それを促す施策の検討が求められる。

18～39歳の若い世代は、自然や環境に配慮した暮らし、ごみの減量の取組みなど、環境分野の取組みがシニア層より低い傾向にあり、働きかけが必要である。

■多様性や他者を認める心の醸成

違いを認め合い、個性を大切にしている得点は、男性やシニア層で低い。子どもの権利の尊重もシニア層で低い。

他者や子どもの権利の尊重は、家庭・学校・職場・地域等で生活をしていくうえで遵守されなければならない原則である。啓発活動等、引き続き、推進していく必要がある。

年代・性別で分析し、検定を行った結果、平均得点が低い層

18歳以上

※「－」は、年代、性別で有意な差がない箇所である

	項目	年代		性別	
		若者	シニア	男性	女性
1	健康づくりに継続的に取り組んでいる	●		－	
2	違いを認め合い、個性を大切にしている		●	●	
3	子どもの権利について理解し、尊重している		●	－	
4	様々なことに興味を持ち、学んでいる		●	－	
5	生涯学習や文化活動に取り組んでいる	－		－	
6	地域の人と積極的に関わりを持っている	●		－	
7	地域で行われている活動やボランティア活動に参加している	●			●
8	地域の伝統や文化の保存、継承に取り組んでいる	●			●
9	音楽や芸術に触れ、親しんでいる		●	●	
10	継続的にスポーツに親しんでいる	－			●
11	災害に対する備えをしている	－		－	
12	資源化や分別でごみの減量を行っている	●		●	
13	自然や環境に配慮した暮らしをしている	●		●	
14	地元産の農畜産物を積極的に購入している	●		●	
15	地元の商店でできるだけ買物をしている	●		－	
16	様々なことにチャレンジしている		●		●

3. 幸福度・暮らしの満足度の分析

幸福度、生活満足度について、国や県との比較分析を通して、本市の状況把握を行うとともに、相関や重回帰分析等を行い、影響を与える要因を把握する。

■松本市の幸福度、暮らしの満足度は全国、県より高いまたは同水準にある

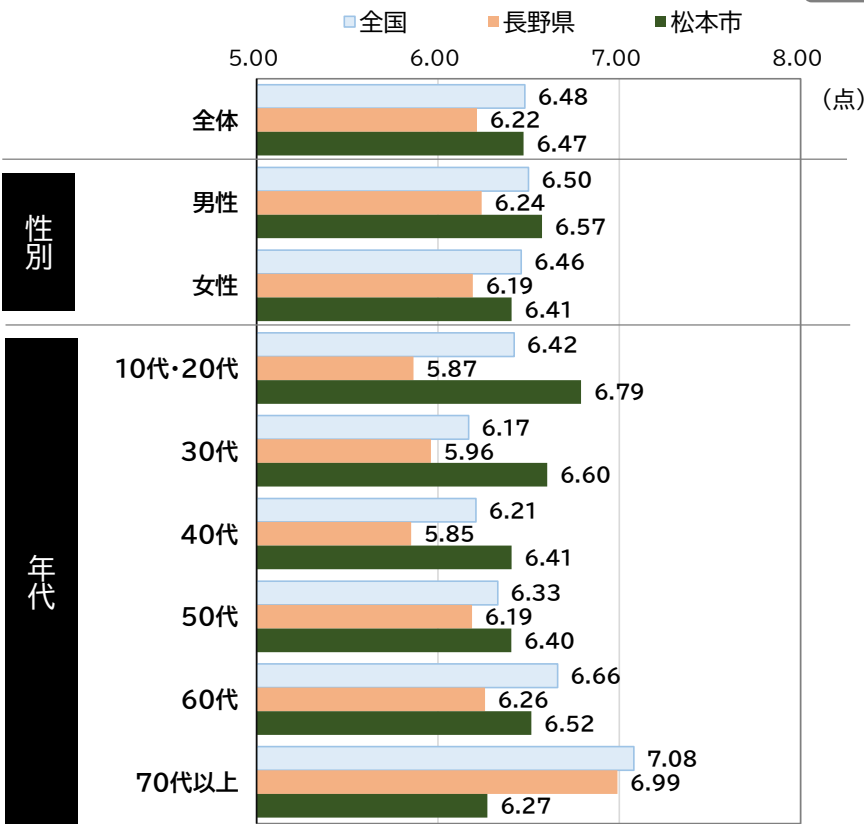
全体でみると「暮らしの満足度」「幸福度」は、全国及び県と比較して高いまたは同水準にある。

性別においても、全国及び県と比較して高いまたは同水準にある。

年代別にみると、本市は50代までの暮らしの満足度、幸福度は高い傾向にある。しかし、60代で拮抗し、70代以上で全国や県を下回る水準となっている。シニア世代の活躍の場を増やすなど、年齢を重ねても生きがいを持って暮らし続けられる地域づくりが求められる。

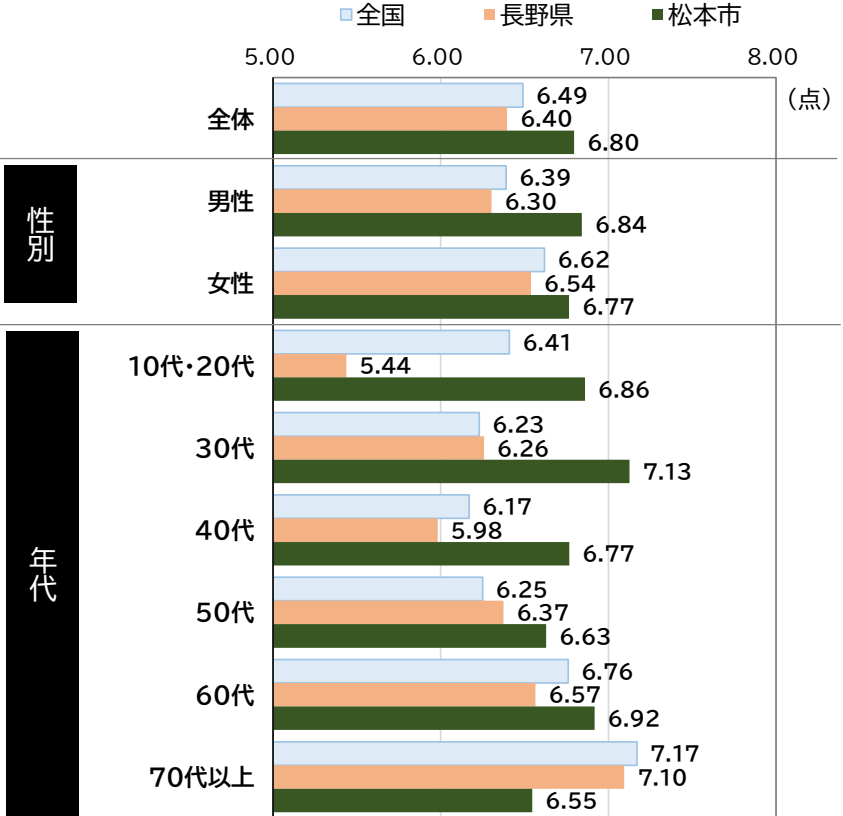
全国・長野県・松本市の暮らしの満足度の比較

18歳以上



全国・長野県・松本市の幸福度の比較

18歳以上



資料:全国・県は2024年度版(令和6年度版) Well-Being 全国調査

資料:全国・県は2024年度版(令和6年度版) Well-Being 全国調査

■幸福度と松本市版Well-Being指標（※）との相関分析、重回帰分析
幸福度への影響力が大きいのは「心地のいい居場所」

「幸福度」と「松本市版Well-Being指標（※）」との相関係数が高い順にみると「（１３）自分のことを好ましく」「（１４）心地のいい居場所が一」「（１６）精神的に健康一」である。これら指標について県と比較すると、松本市はどの指標も高い水準にある。このほか、地域とのつながりに関する項目も県よりも高い。

幸福度と松本市版Well-Being指標の相関係数
及び県・松本市との平均点の比較

			18歳以上		
			松本市		長野県の 平均得点
			幸福度との 相関係数	松本市の 平均得点	
(1)	地域とのつながり	同じ地域(集落)に住む人たちを信頼している	0.30	3.45	3.10
(2)		困ったときに相談できる人が身近にいる	0.31	3.25	2.80
(3)		この地域(集落)に対して愛着を持っている	0.32	3.43	3.10
(4)	多様性と寛容性	この地域(集落)には、どんな人の意見でも受け入れる雰囲気がある	0.25	2.80	2.80
(5)		見知らぬ他者であっても信頼する	0.20	2.30	2.50
(6)		地域(集落)の人が自分をどう思っているかが気になる	-0.09	2.48	2.70
(7)		女性が活躍しやすい雰囲気がある	0.24	2.81	2.70
(8)		若者が活躍しやすい雰囲気がある	0.21	2.69	2.70
(9)	文化・芸術	文化・芸術・芸能が盛んで誇らしい	0.23	2.75	2.80
(10)	雇用・所得	やりたい仕事を見つけやすい	0.25	2.48	2.50
(11)		適切な収入を得るための機会がある	0.32	2.46	2.60
(12)	事業創造	新たな事に挑戦・成長するための機会がある	0.31	2.53	2.60
(13)	自己効力感	自分のことを好ましく感じる	0.49	3.32	3.00
(14)	住宅環境	心地のいい居場所が自宅や地域の中にある	0.55	3.75	3.60
(15)	健康状態	身体的に健康な状態である	0.40	3.64	3.10
(16)		精神的に健康な状態である	0.49	3.63	3.20

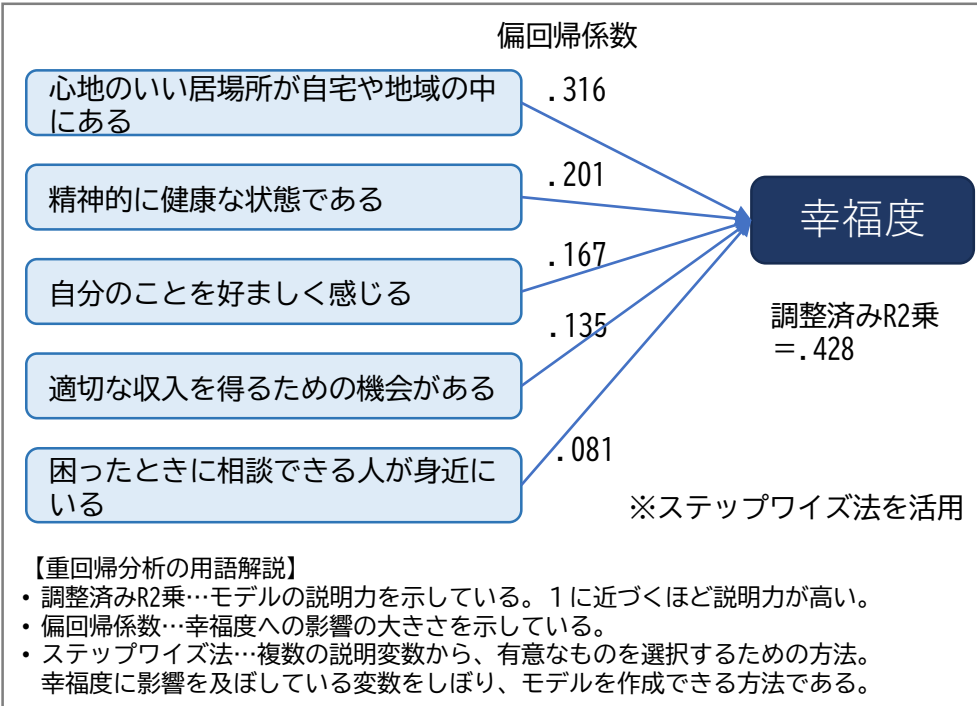
※国が示すWell-Being指標の生活環境、地域の人間関係、自分らしい生き方の設問をもとに作成したものである

資料:県は2024年度版(令和6年度版) Well-Being 全国調査

「幸福度」と「松本市版Well-Being指標」の重回帰分析を行った。重回帰分析とは、複数の要因が一つの結果にどう影響するかを調べる統計手法であり、因果関係をみることができる。具体的には「心地のいい居場所が一」「精神的に健康一」などの指標が、幸福度に与える影響をみることができる。分析を行った結果、幸福度に最も影響が大きいのは「心地のいい居場所が一」である。次いで「精神的に健康一」「自分のことを好ましく一」である。これらは、ウェルビーイングの向上に向けて重要な取組みといえる。

幸福度と松本市版Well-Being指標との重回帰分析結果

18歳以上



※相関係数が0.4以上であれば、相関が見られる状況であり、その項目を赤色にしている。
なお、相関は因果を示すものではない
※松本市が0.15点以上高い項目がオレンジ色、長野県が0.15点以上高い項目が青色
※2024年度Well-Being 全国調査では、(14)に関しては「自宅には、心地のいい居場所がある」と聞いている項目と比較している

4. 定住意向や高校生世代の地元就職意向の傾向

■定住意向は8割程度を推移

18歳以上における松本市の定住意向（「永住したい」「当分住み続けたい」を合わせた割合）は79.4%であり、令和3年度からは横ばいで推移している。

長期的にみると、平成25年度の85.4%からは低下傾向であるため、引き続き、暮らし続けたい松本市を目指し、取組みが必要といえる。

■高校生世代の松本市内で就職意向がある者は20.8%

令和3年度から低下傾向

右表は、松本市内に住む高校生世代に高校卒業後の進路と就職先の地域に関する意向を聞いた結果を整理したものである。

高校卒業後に就職を希望する者は12.9%であり、そのうち、58.3%が市内での就職を希望している。

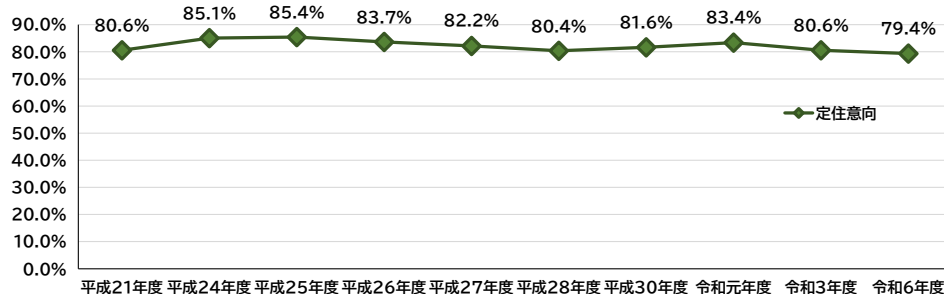
高校卒業後に進学を希望する者は76.3%である。そのうち、市内への進学希望者が14.3%、市外への進学希望者が67.1%である。進学先卒業後に、松本市での就職を希望する者は、市内への進学希望者のうち55.6%、市外進学希望者のうち14.0%である。市外への進学希望者が多い中、市内での就職意向を明確に示す者はわずかであり、多くが就職希望地域が決まっていない（回答保留）と回答している。

これら比率を、高校生世代100人あたりに換算すると、現時点で明確な市内就職意向がある者は20.8人である。令和2年度に同様の調査を実施した際は26.6人であり、地元就職意向は下がっている。

進学予定者は、松本市近郊の会社をあまり知らず、働いてみたい企業・職場もない人が7割にのぼる。キャリア教育等を通して、児童生徒の松本市近郊の会社の認知度を高め、就職先の選択肢の一つとなるような取組みの強化が重要である。

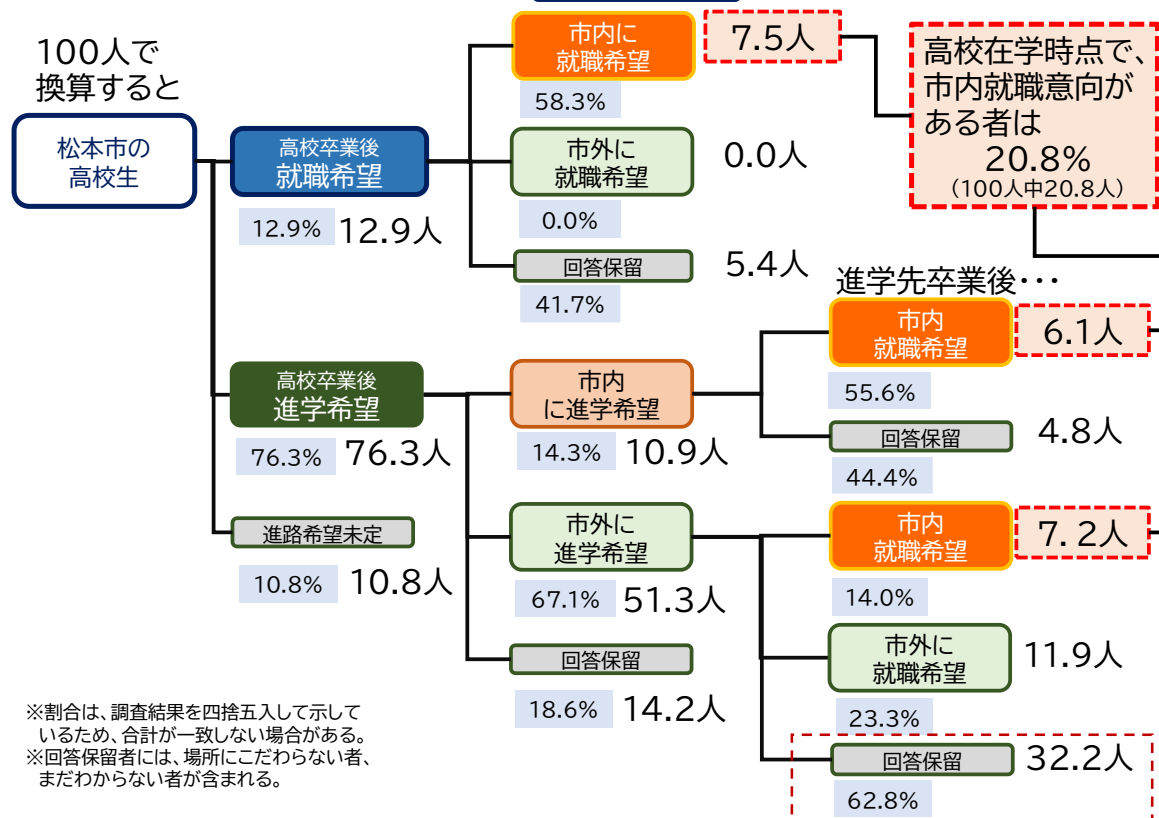
松本市の定住意向（「永住したい」「当分住み続けたい」）の推移

18歳以上



高校生世代の地元就職意向

高校生世代



5. 効果的な情報発信

■「LINE」が普及

「市公式LINE」の利用が進む

日常生活でよく使う連絡手段としては、高校生世代は「LINE」の利用率が100%であり、18歳以上の利用率は84.4%と高い。

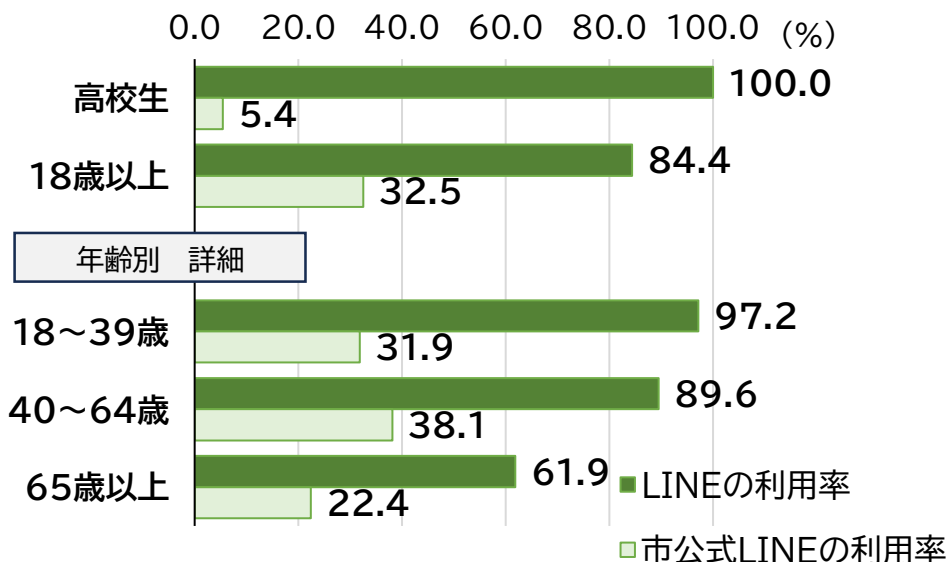
松本市や地域の取組みに関する情報入手方法では、18歳以上では「広報まつもと」に次いで「市公式LINE」の割合が高く、浸透してきている。

「市公式LINE」の利用率をみると、18歳以上の市民は32.5%であるのに対し、高校生世代は5.4%にとどまる。市民に「LINE」が普及している中、「市公式LINE」への登録を促進し、効果的に情報発信ができるようにしていくことが重要である。

LINEの利用率と市公式LINEの利用率

高校生世代

18歳以上



6. 町会加入状況

■「賃貸住宅（マンション・アパート）」

で町会加入率が低い

「持ち家（一戸建て）」の加入率は95.5%と高い一方、「賃貸住宅（マンション・アパート）」は50.5%と低い。町会に加入していない者の加入していない理由は「特に理由はない」の割合が高いが、「町会役員を頼まれたくないから」「どのような活動をしているか分からない」なども見られる。役員の負担軽減や活動の周知等の取組みが求められる。

町会で行う必要があると思う活動としては、町会の加入状況に関わらず「防災活動（防災訓練等）」の割合が高い。防災意識が高まっている中、防災活動を通して町会活動の意義や役割を伝えていくことも有効と考えられる。

町会加入率

18歳以上

